

学 習 要 項

第2学年

2014



東京女子医科大学
看護学部

目次

東京女子医科大学建学の精神、大学の理念	1
看護学部の教育理念、教育目的、教育目標、第2学年教育目標	2
授業科目および単位数	3
学生生活において接する情報の取り扱いに関する指針	7

科目別到達目標、講義スケジュール

人間の本質を問う

心理学	13
人間関係論	15
医療における倫理学	17
論理学	20

生活している人間の環境

生体防御機構	23
感染看護	26
人間生活と経済	28
社会と人間	30
社会福祉学	33

健康障害と生活の調整

薬理学	37
病態学・各論Ⅰ（内科系）	44
病態学・各論Ⅱ（外科系）	59
病態学・各論Ⅲ（小児）	80
病態学・各論Ⅳ（母性）	88
病態学・各論Ⅴ（老年）	93
病態学・各論Ⅵ（精神）	96
リハビリテーション	98

働きかけの基本 看護活動

成人看護学・概論	101
成人看護学・各論Ⅰ（健康各期の看護）	103
成人看護学・各論Ⅱ（専門領域の探求）	107
成人看護学実習Ⅰ	111
老年看護学・概論	114
小児看護学・概論	117
精神看護学・概論	120
母性看護学・概論	122
フィジカルアセスメント	124

人間性を育む

英語 I - 2	127
国際看護コミュニケーション	134
フランス語 I	140
ドイツ語 II	142

各専門領域への発展

保健医療統計学	145
情報科学演習 II	147
キャリア発達論 II	149

養護教諭一種免許課程

教職入門	153
教育学概論	155
教育心理学	157
教育課程論	159
日本国憲法	161

第 2 学年授業担当教員	165
--------------------	-----

カレンダー

東京女子医科大学

I. 建学の精神

東京女子医科大学は、1900年（明治33年）に創立された東京女醫學校を母体として設立された。東京女子医科大学の創立者である吉岡彌生は、1952年（昭和27年）新制大学設立に際し、東京女醫學校創立の主意をもって建学の精神とした。その主旨は、高い知識・技能と病者を癒す心を持った医師の育成を通じて、精神的・経済的に自立し社会に貢献する女性を輩出することであった。新制大学設立時の学則には「医学の蘊奥を究め兼ねて人格を陶冶し社会に貢献する女性医人を育成する。」と記されている。

建学の精神に基づく医療人育成の場として、1998年（平成10年）度より新たに看護学部が新設された。医療を行うものが学ぶ学府として、現在の東京女子医科大学の使命は、最良の医療を実践する知識・技能を修め高い人格を陶冶した医療人および医学・看護学研究者を育成する教育を行うことである。大学建学の精神に基づき、大学教育では社会に貢献する女性の医療人を育成する。

II. 大学の理念

東京女子医科大学の使命を達成するための教育・研究・診療の基盤となる理念は、「至誠と愛」である。至誠は、「常住不断私が患者に接するときの根本的な心構えを短い二つの文字のなかに言い現したもの（吉岡彌生傳）」という創立者吉岡彌生の座右の銘であり、「きわめて誠実であること」「慈しむ心（愛）」は教育・研究・診療の総ての場において求められる。大学およびそこに学び働くものは本学の理念である「至誠と愛」に従って活動しなくてはならない。

看護学部の教育理念

本学部は「女性の社会的地位の向上と経済的自立を目指すと共に、至誠と愛の精神に基づき医療を行う人材を育成する」という創立者吉岡彌生の趣旨を受けつぎ、これを教育の基本理念とする。

本学部における教育は学生が自ら学び成長しようとする向上心を側面から支援することであると考える。それは、学生一人一人の個性を尊重する教師と、自ら学ぼうとする学生との真剣な相互作用の過程において創られるものである。

看護学部の教育目的

本学部は、建学の精神に基づき、変動する社会情勢の中で看護の役割を認識し、責任を自主的に果たし得る看護実践者を育成する。すなわち、いかなる状況下においても、医療倫理を遵守し、至誠と愛の精神に基づいて行動できる看護職者としての基礎を確立することを目的とするものである。さらに、本学部の教育は、看護の専門性を追求し、看護学の発展に寄与できるための基礎を養うものである。

看護学部の教育目標

看護はあらゆる健康のレベルにある人々を対象とし、それらの人々の健康レベルの向上を目指して援助を行うものであり、この援助活動は、人々の生活を尊重し、人間理解に根ざした関係を基盤として、継続的に行われるものである。看護は人間としてさけられない「生・老・病・死」とかかわりをもちながら、対象者との密接な人間関係を通して行われていくものである。したがって、看護者には豊かな人間性と科学的思考に支えられた創造的・主体的行動が求められる。

本学部は以下の教育目標を掲げる。

- 1) 豊かな人間性を養い、生活者としての人間を理解する基礎能力を養う。
- 2) 看護実践に必要な科学的思考および看護の基本技術を身につけ、人間関係を基盤として、健康問題を解決する能力を養う。
- 3) 社会情勢の変化に応じて、保健・医療・福祉チームの中で主体的かつ協調的に看護の役割を果たすとともに、現状を変革する基礎能力を養う。
- 4) 研究の基礎能力を養う。
- 5) 専門職者として自己の能力を評価し、自己成長のできる基盤を養う。
- 6) 国際的な視野に立って活動できる基礎能力を養う。

第2学年教育目標

- 1) 人間の健康状態を包括的にとらえる基礎的な知識を学ぶ。
- 2) さまざまな発達段階や健康レベルに応じて、人々の生活を援助する理論および方法を理解する。
- 3) 自主性を発揮し、他者との関わりから学び、自己成長を目指す。
- 4) 看護の基礎的な理論および技術を習得し、疾病を持つ人への看護を実践する。

看護学部の授業科目および単位数

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数	
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間の 本質を問う	心 理 学	1		15			1							1
	生物としての人間	2		15	2									2
	栄 養 代 謝 学	2		23	1	1								2
	人体の構造と機能	4		45	2	2								4
	人 間 発 達 論	1		8	1									1
	人 間 関 係 論	1		15				1						1
	生 体 の 化 学	1		8		1								1
	人 間 援 助 論 I	1		15	1									1
	医療における倫理学	2		15			2							2
	人 間 援 助 論 II		1	8								1		3
	哲 学		1	8	1									
	女 性 論		1	8								1		
	論 理 学		1	8			1							
	計	15	4	191	8	4	4	1	0	0	2	0		18
生活している人間の環境	生 体 防 御 機 構	1		15			1							1
	感 染 看 護	1		8			1							1
	疫 学	1		15								1		1
	医療行政・関係法規	2		30							1	1		2
	社 会 福 祉 学	1		15			1							1
	家 族 関 係 論	1		8					1					1
	公衆衛生学(養選)(保選)		2	15					2					0
	文 化 人 類 学		1	8							1			3
	社 会 と 人 間		1	8			1							
	生 活 科 学 論		1	8	1									
	人 間 生 活 と 法		1	15									1	
	人 間 生 活 と 経 済		1	8				1						
史 学		1	8	1										
計	7	8	161	2	0	4	1	3	0	2	3		10	
健康障害と生活の調整	健 康 科 学 論	1		15					1					1
	薬 理 学	2		23			1	1						2
	病 態 学 ・ 概 論	2		15		2								2
	病態学・各論I (内科系)	4		60			2	2						4
	病態学・各論II (外科系)	2		30			1	1						2
	病態学・各論III (小児)	1		15				1						1
	病態学・各論IV (母性)	1		15				1						1
	病態学・各論V (老年)	1		8				1						1
	病態学・各論VI (精神)	1		8				1						1
	人 間 工 学	1		8	1									1
	保健医療行動科学	1		15									1	1
	リハビリテーション	1		8				1						1
	医 学 特 論		1	8									1	0
計	18	1	228	1	2	4	9	1	0	0	2		18	

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数		
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次				
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
働きかけの基本 看護活動	看護学・概論	2		15	2										2
	基礎看護学・各論Ⅰ (生活援助論)	2		30	2										2
	基礎看護学・各論Ⅱ (診療に伴う援助論)	2		30		2									2
	基礎看護学・各論Ⅲ (看護過程論)	1		15		1									1
	成人看護学・概論	1		8			1								1
	成人看護学・各論Ⅰ (健康各期の看護)	2		23			2								2
	成人看護学・各論Ⅱ (専門領域の探求)	2		23				2							2
	フィジカルアセスメント	1		15			1								1
	老年看護学・概論	1		15				1							1
	老年看護学・各論	2		23					2						2
	小児看護学・概論	1		8				1							1
	小児看護学・各論	2		30					2						2
	母性看護学・概論	1		8				1							1
	母性看護学・各論	2		30					2						2
	地域看護学・概論	1		8					1						1
	地域看護学・各論	2		23					2						2
	精神看護学・概論	1		8				1							1
	精神看護学・各論	2		23						2					2
	在宅看護論	2		15					2						2
	基礎看護学実習Ⅰ	1		23	1										1
	基礎看護学実習Ⅱ	2		45		2									2
	成人看護学実習Ⅰ	2		45				2							2
	成人看護学実習Ⅱ	4		90						4					4
	老年看護学実習	2		45						2					2
	小児看護学実習	2		45						2					2
	母性看護学実習	2		45						2					2
	地域看護学実習Ⅰ	2		45						2					2
	地域看護学実習Ⅱ(保選)		4	90							4				0
	精神看護学実習	2		45							2				2
	統合実習Ⅰ	2		45							2				2
	統合実習Ⅱ	2		45							2				2
	健康教育学(養選)(保選)		1	15							1				0
	公衆衛生看護活動展開論(保選)		2	15							2				0
公衆衛生看護管理論(保選)		1	8							1				0	
コミュニケーションの理論と実際(養選)		1	15								1			0	
計	53	9	1011	5	5	4	8	11	18	11	0			53	

開講区分	授 業 科 目	単位数		コマ数	配当年次および単位数								卒業に必要な単位数	
		必修	選択		1年次		2年次		3年次		4年次			
					前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間性を育む	フィットネスの理論と実技	2		30	1	1								2
	英 語 I - 1	2		30	1	1								2
	英 語 I - 2	2		30			1	1						2
	英 語 II	2		30					1	1				2
	英 語 III		2	30							1	1		4
	ド イ ツ 語 I		2	30	1	1								
	ド イ ツ 語 II		2	30			1	1						
	フ ラ ン ス 語 I		2	30			1	1						
	フ ラ ン ス 語 II		2	30					1	1				3
	中 国 語		2	30					1	1				
	日 本 語 学		2	23	1	1								
	美 術		2	30	1	1								
	音 楽		2	30	1	1								3
	パフォーマンス芸術論		1	15									1	
国 際 関 係 論		1	8									1		
計	8	20	406	6	6	3	3	3	3	1	3		15	
各専門領域への発展	保健医療統計学	1		15				1						1
	情報科学演習 I	1		15	1									1
	情報科学演習 II	1		15				1						1
	リエゾン精神看護	1		8								1		1
	研究 方 法 論	1		15					1					1
	キャリア発達論 I	1		15	1									1
	キャリア発達論 II	1		15			1							1
	キャリア発達論 III	1		15					1					1
	キャリア発達論 IV	1		15							1			1
	卒 業 論 文	1		15							1			1
	国際看護コミュニケーション I ☆		2	23	(1)	(1)	1	1	(1)	(1)	(1)	(1)		0
	国際看護コミュニケーション II ☆		2	23			(1)	(1)	1	1				0
	国際看護コミュニケーション III ☆		2	30			(1)	(1)	(1)	(1)	1	1		0
	国 際 看 護		2	15							1	1		0
計	10	8	234	2	0	2	3	3	1	4	3		10	
合 計	111	50	2231	24	17	21	25	21	22	20	11		124	
				41		46		43		31				

(養選)は養護教諭一種免許取得のための選択必修科目。

(保選)は保健師国家試験受験資格を得るための選択必修科目。

ただし、健康教育学、公衆衛生学については3年次選択科目として全員が履修可能。

☆ 印については、海外研修参加年次に履修および単位の認定を行う。

卒業に要する単位数

開 講 区 分	卒業に要する単位数		
	必修	選択	合計
人 間 の 本 質 を 問 う	15	3	18
生 活 し て い る 人 間 の 環 境	7	3	10
健 康 障 害 と 生 活 の 調 整	18	0	18
働 き か け の 基 本 ・ 看 護 活 動	53	0	53
人 間 性 を 育 む	8	7	15
各 専 門 領 域 へ の 発 展	10	0	10
計	111	13	124

前学期

4月 1日 ~ 10月 15日まで

後学期

10月 16日 ~ 翌年 3月 31日まで

(注)「人間性を育む」の選択科目は、語学から4単位以上、その他の科目から3単位以上を履修しなければならない。(詳細は学生便覧を参照のこと)

養護教諭一種免許課程に関する科目および単位数

授 業 科 目	単 位 数	コ マ 数	配当年次および単位数							
			1年次		2年次		3年次		4年次	
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
公衆衛生学	2	15					2			
疫学 [△]	1	15								1
健康科学論 [△]	1	15					1			
学校保健	2	15						2		
学校保健管理論	1	8							1	
養護概説	2	15						2		
健康教育学	1	15						1		
コミュニケーションの理論と実際	1	15							1	
栄養代謝学 [△]	2	23	1	1						
人体の構造と機能 [△]	4	45	2	2						
生体防御機構 [△]	1	15			1					
薬理学 [△]	2	23			1	1				
精神看護学・概論 [△]	1	8				1				
精神看護学・各論 [△]	2	23						2		
基礎看護学・各論Ⅰ(生活援助論) [△]	2	30	2							
基礎看護学・各論Ⅱ(診療に伴う援助論) [△]	2	30		2						
基礎看護学・各論Ⅲ(看護過程論) [△]	1	15		1						
成人看護学・各論Ⅱ(専門領域の探求) [△]	2	23				2				
成人看護学実習Ⅰ [△]	2	45				2				
母性看護学・概論 [△]	1	8				1				
母性看護学・各論 [△]	2	30					2			
小児看護学・概論 [△]	1	8				1				
小児看護学・各論 [△]	2	30					2			
小児看護学実習 [△]	2	45						2		
地域看護学・各論 [△]	2	23					2			
教職入門	2	15				2				
教育学概論	2	15			2					
教育心理学	2	15				2				
教育課程論	2	15			2					
教育方法論	2	15						2		
生徒指導論	2	15						2		
教育相談	2	15						2		
教職実践演習(養護教諭)	2	15								2
養護実習	5	113								5
日本国憲法★	2	15			2		(2)		(2)	
フィットネスの理論と実技 [△]	2	30	1	1						
英語Ⅰ-1 [△]	2	30	1	1						
情報科学演習Ⅰ [△]	1	15	1							
情報科学演習Ⅱ [△]	1	15				1				

★ 印については、2年次に履修しておくことが望ましい。

△ 印については、卒業に必要な必修科目。

東京女子医科大学看護学部

学生生活において接する情報の取り扱いに関する指針

教務委員会

はじめに

学生の皆さんは、学生生活において様々な質の情報に接します。ここでは、そのうち以下の2つの性質をもつ情報について、本学部における取り扱い上の基本的指針を示します。

A：個人情報保護の対象となる情報

B：著作権（知的財産権）保護の対象となる情報

学生の皆さんは、次のことを自分の責任においてよく理解したうえで行動して下さい。

1. その情報は、誰のどのような権利の元にあるものか
2. 自分は、なぜその情報を取り扱うことを許されているのか
3. どのような姿勢・態度で取り扱うことが、その人の尊厳や権利を守ることになるのか
4. その人の尊厳や権利を守るために、何を行ってはいけないか
5. その情報が本人の承諾なく第三者に流出した場合、誰がどのような不利益を被るか
6. 5に関する不利益につき、自分はその人および社会への責任を負うことができるのか

情報の取り扱いに関して、様々な教育場面において担当教員から注意・配慮すべきことを指導しますが、その都度の個別的な状況で判断できない場合は、必ず事前に教員に相談して下さい。皆さんの行為の結果、万が一著しく他者を傷つけたり悪質であると判断されたりした場合は、学内・外における処罰の対象となります。

A：個人情報保護の対象となる情報に関する取扱い上の指針

「個人情報」とは：

生存する特定の個人を識別できる情報（氏名、生年月日等、映像も含む）を指す。これには、他の情報と容易に照合することによって特定の個人を識別することができる情報および個人情報データベースも含む。

本学の個人情報保護に関連する規定・指針

ここで示されている指針は、本学の以下の規定に基づいている。

1) 学則第 11 章 学生に関する規定

(学生に関する規定)

第 36 条 個人情報保護に関する本学のガイドラインに則り、学生生活で得られる個人情報は学習の目的のみに利用し、これを生涯守秘することを義務とする。

なお、指示に応じてその都度所定の誓約書に署名するものとする。

2. 本学則の定めるもののほか、学生に関する規定を別に定める。

2) 東京女子医科大学における個人情報の保護に関するガイドライン

<http://160.24.252.1/images/infra/pdf/kisoku/kojinjouhouhogo-guideline.pdf>

(閲覧は学内からのみ可能)

3) 東京女子医科大学における情報公開の指針

<http://160.24.252.1/images/infra/pdf/kisoku/kojinjouhouhogo-guideline.pdf>

(閲覧は学内からのみ可能)

1. 学生生活一般において

1) 他学生・教員の個人情報を本人の承諾を確認せず、または本人の意図に反して第三者に渡したり外部に流出させたりしない。たとえ誹謗中傷でない内容であったとしても行ってはいけない。

2) インターネットは、そのまま世界中に向けて情報を発信しているという認識で取り扱う。一旦ウェブサイト等に掲載されてしまった情報は完全に削除することはほぼ不可能であり、自分の意図を離れて第三者にどのように利用されるかは不明であることを自覚しておく。(友達同士では冗談で済まされるような話でも、世間では「事件」になることがある。)

3) インターネットに接続している電子機器(パソコン、スマートフォンなど)に個人情報を保存している場合は、次のことに注意する。

- ・パソコンを家族や知人と共有している場合、その人たちへの注意を促す
- ・ドキュメント共有ソフトと共存させない
- ・適時、OS やウイルス対策ソフトを更新する

4) インターネット上に他者についての情報を書き込むときは次のことに注意する。

- ・住所、仕事内容、家族構成、写真など
- ・所属している組織(大学、アルバイト先など)に迷惑となること
- ・法律で禁止されていること

2. 講義・演習における場合

1) 講義・演習中の学生や教員を本人の承諾を得ず撮影しない。

2) 講義・演習中の学生や教員の個人情報を本人の承諾を得ずインターネット上に書き込まない。

3) 個別の状況に応じて、担当教員から指示があった場合にはそれに従うこと。

3. 臨地実習における場合

- 1) 記録物、資料には患者氏名、イニシャル等の個人が特定できる情報は書かない。
- 2) 記録物の提出はレポートボックスまたは教員への手渡しで提出する。
- 3) 実習終了後の記録類の保管は個人の責任で厳重に管理する。保管の必要がなくなった場合には、シュレッダーを利用し処分する。
- 4) 電子カルテは学生用のパスワードを用いて閲覧する。データを印刷してはならない。実習以外の目的で不正にアクセスした場合は本学懲罰委員会の規定に基づき処分の対象となる。
- 5) 診療録・看護記録等の閲覧は施設内の決められた場所で行う。
- 6) 患者の個人情報等(職員や組織に関することも含む)をブログや Twitter・Facebook・LINE などを通じてインターネット上に公開した場合は、本学懲罰委員会の規定に基づき処分の対象となる。
- 7) エレベータ、通路、公道で決して患者や院内の情報に関わることを話さない。
- 8) 電車内への置き忘れなど、実習記録・資料の紛失に十分注意する。記録物の紛失はインシデント扱いとなる。
- 9) 個別の状況に応じて、担当教員から指示があった場合にはそれに従うこと。

【参考資料】

- ・ 個人情報の保護に関する法律（略して個人情報保護法）：
消費者庁 HP から http://www.caa.go.jp/seikatsu/kojin/index_sub001.html
- ・ 医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン
厚生労働省 HP から
<http://www.mhlw.go.jp/topics/bukyoku/seisaku/kojin/dl/170805-11a.pdf>

B：著作権保護の対象となる情報に関する取扱い上の指針

「著作権」とは：

著作物は、それを考え出した人の人権そのものという性質、文化の発展に寄与するという性質、経済的な財産としての性質を併せ持っている。著作者の人権や経済的な財産としての性質を保護することで、著作物の創作を促進し文化の発展に寄与するための権利である。

大学生活では、著作物や著作権に配慮しなければならない場面が数多くある。ここでは、特に以下の場面について基本的指針を示す。

1. 論文・レポートや研究発表

他人の著作物を利用したり、他人の意見を記載したりする場合は、次の「引用の原則」を守る。

- ・公表された著作物の引用であること
- ・論文等の引用として正当な範囲内であること
- ・引用部分が本文と明確に区別されていること
- ・引用部分が本文からみて従であること
- ・引用に必然性があること
- ・必要最低限の引用であること
- ・出典を明記すること
- ・勝手な改変を加えないこと

2. 図書館での書籍等のコピー

調査研究のために公表された著作物の一部分を一人につき 1 部だけに止める。コピーの範囲は、慣行として著作物の半分までとする。

3. 講義や授業での使用

- 1) 著作者の許諾がなくても著作物を利用する場合は、次の条件を満たした場合とする。
 - ・授業を担当する教員やその授業を受ける学生自身がコピーすること
 - ・授業を受ける学生数を大幅に超えない部数をコピーすること
 - ・著作権者の利益を不当に害しないこと
- 2) 著作権者の許諾なしに、授業の様子をビデオ撮影、写真撮影あるいは録音したものをネット等で配信したり、DVD 等に記録して配布したりしない。

4. サークル活動や大学祭での使用

- 1) 次のような場合には、著作権者の許諾が必要になるので注意する。
 - ・授業の一環としてではない営利を目的としない演奏会等に伴って歌詞コピー等の

資料を配布すること

- ・新歓ポスターや演奏会等のポスター等にアニメやマンガのキャラクターを使用すること
- 2) 正当に購入したビデオやDVDを利用した上映会は、営利を目的とせず、聴衆や観客から料金を受け取らないのであれば、著作権法上の問題はない。ただし、レンタルや上映を禁止しているものもあるので注意する。

5. 自己のウェブサイトでの使用、インターネット上の掲示板や動画投稿サイト

インターネット上のサイトといった新しいメディアであっても、著作権に関しては、書籍等の以前からあるメディアと同様の扱いとする。

【参考資料】

- ・公益社団法人著作権情報センター（CRIC）：<http://www.cric.or.jp/>
- ・京都教育大学現代 GP 2008 年 学生と教師のための著作権基礎知識：
<http://kyoshien.kyokyo-u.ac.jp/public/chosakuken/kisochishiki.pdf>

科目別到達目標
講義スケジュール

人間の本質を問う

〔心理学〕

科目責任者 松崎 英士

目的

複雑な人間行動を理解するためには、まず、人間行動の基本的な法則を理解し、さらに個々の人間の行動特性を考察して行くことが必要であると考えられます。この講義・演習では、行動とその背後に考えられる人間心理を理解することを目的として、心理学の多様な視点について解説していきます。

到達目標

心理学とはどのような学問なのかを理解できる。心の仕組みとその様々な働きについて心理学的視点から日常生活での具体例を取り上げ説明できる。動機が充足されない状況とそのもとの反応・行動の特徴を説明できる。社会の中で生活する個人の行動特徴とその心理について説明できる。心理学的視点から精神的に健康なであるとはどのようなことか、また健康維持・促進のための心理学的援助について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 心理学とは	1. 人間理解への接近	1) 心理学の歴史 2) 研究を理解する (対象、領域、方法)
II. 心の仕組みと働き	1. 知覚 2. 学習 3. 思考	1) 環境を認識する心の働き 1) 学習の基本型と理論 1) 問題解決と思考 2) 推論とその誤り
III. 心の働きと行動の個人差	1. 感情と動機づけ 2. パーソナリティ	1) 感情とは、感情の表出と機能 2) 動機づけのメカニズム、欲求 3) フラストレーションとその解消 4) ストレス 1) パーソナリティの理解 2) 個人差のアセスメント
IV. 社会のなかの心	1. 人間関係 2. 集団	1) 対人認知と帰属理論 1) 集団の心理 2) 社会的影響
V. 精神的健康	1. メンタルヘルス	1) 健康なこころ 2) 心理療法とカウンセリング

成績評価の方法：演習への取り組み、試験結果、課題提出等により総合的に評価する。

教科書

二宮克美^他 ベーシック心理学 医歯薬出版 2008

参考図書

岩崎祥一 心を科学する：心理学入門 勁草書房 2013
 鹿取廣人^他 心理学 (第4版) 東大出版会 2011
 無藤 隆^他 心理学 有斐閣ブックス 2004
 河合優年^他 看護実践のための心理学 (改訂3版) メディカ出版 2009

<講義スケジュール>

1	2014. 4.11	金	13:00~14:25	松寄 英士	講義の進め方、心理学とは、その歴史と研究
2	4.11	金	14:35~16:00	松寄 英士	環境を認識する心の働き
3	4.24	木	16:10~17:35	松寄 英士	学習の基本型と理論
4	6.13	金	13:00~14:25	松寄 英士	問題解決と思考
5	6.18	水	13:00~14:25	松寄 英士	推論とその歪み(帰納的推論と演繹的推論、推論の歪み)
6	6.18	水	14:35~16:00	松寄 英士	感情とは何か、感情の表出と機能
7	6.27	金	14:35~16:00	松寄 英士	動機づけと欲求
8	7. 3	木	10:35~12:00	松寄 英士	フラストレーション、ストレス
9	7. 8	火	16:10~17:35	松寄 英士	パーソナリティ (理論と測定)
10	7. 9	水	10:35~12:00	松寄 英士	個人差のアセスメント (自己を知る)
11	7.10	木	9:00~10:25	松寄 英士	対人認知と帰属理論
12	7.11	金	10:35~12:00	松寄 英士	集団の心理、社会的影響
13	7.11	金	13:00~14:25	松寄 英士	健康なこころ
14	9.11	木	16:10~17:35	松寄 英士	心理療法とカウンセリング
15	9.19	金	9:00~10:25	松寄 英士	試験

〔人間関係論〕

科目責任者 諏訪 茂樹

目的

高度な対人関係能力が、看護職には要求される。個人・コミュニケーション・人間関係という図式に基づき、人間関係への理解を深めると同時に、演習（体験学習）を通して対人関係能力の向上をはかる。演習は徐々に高度となるために、継続的な参加が望まれる。

到達目標

1. 感情に基づく人間関係の問題に対処することができる。
2. 自分から見た自分、自分から見た他者、他者から見た自分などについて、理解することができる。
3. 言語、準言語、非言語により、メッセージを上手く共有することができる。
4. メッセージの影響について、説明することができる。
5. 各場面にふさわしい言葉遣いや言葉かけを実践することができる。
6. 各場面で必要な人間関係を築くことができる。

大項目	中項目	小項目
I. 個人	1. 対人感情	1) 好意と嫌悪 2) 大好きと大嫌い
	2. 対人認知	1) 他者理解 2) 自己理解 3) 他己理解
II. コミュニケーション	1. コミュニケーション効果	1) 敬語 2) 嫌われる言葉と喜ばれる言葉 3) 言語と準言語と非言語
	2. コミュニケーション技法	1) うなずきと相づち 2) 聞き手の姿勢 3) 要約と共感
	3. ケーススタディ	1) 聞くと聴く 2) 対決と受容 3) 励ましと共感 4) ティーチングとコーチング
III. 人間関係	1. 状況対応モデル	1) 危機対処時 2) 会議時 3) 通常時

成績評価の方法：

筆記試験の結果から、欠席 1 回につき 5 点を差し引くことで、成績を評価する。演習を頻繁に取り入れることになるが、ただ教室にいただけで演習に参加しなければ、欠席扱いとなる。

教科書

諏訪茂樹 対人援助とコミュニケーション 第2版 中央法規出版 2010
※教科書はワークブックとして使用し、授業中に書き込むため、未使用のものを必ず持参すること。

参考図書

授業時に紹介する。

<講義スケジュール>

Aグループ

1	2015. 2. 9	月	10:35~12:00	諏訪 茂樹	対人感情 (講義・演習)
2	2. 9	月	13:00~14:25	諏訪 茂樹	対人認知 (演習)
3	2. 9	月	14:35~16:00	諏訪 茂樹	対人認知 (講義・演習)
4	2.10	火	10:35~12:00	諏訪 茂樹	コミュニケーション効果 (講義・演習)
5	2.10	火	13:00~14:25	諏訪 茂樹	コミュニケーション効果 (講義・演習)
6	2.10	火	14:35~16:00	諏訪 茂樹	コミュニケーション効果 (講義・演習)
7	2.12	木	10:35~12:00	諏訪 茂樹	コミュニケーション技法 (演習)
8	2.12	木	13:00~14:25	諏訪 茂樹	コミュニケーション技法 (演習)
9	2.12	木	14:35~16:00	諏訪 茂樹	ケーススタディ (講義・演習)
10	2.13	金	10:35~12:00	諏訪 茂樹	状況対応モデル (演習)
11	2.13	金	13:00~14:25	諏訪 茂樹	状況対応モデル (演習)
12	2.13	金	14:35~16:00	諏訪 茂樹	状況対応モデル (演習)
13	2.16	月	10:35~12:00	諏訪 茂樹	対人認知 (演習)
14	2.16	月	13:00~14:25	諏訪 茂樹	まとめ
15	2.16	月	14:35~16:00	諏訪 茂樹	試験

Bグループ

1	2015. 1.22	木	10:35~12:00	諏訪 茂樹	対人感情 (講義・演習)
2	1.22	木	13:00~14:25	諏訪 茂樹	対人認知 (演習)
3	1.22	木	14:35~16:00	諏訪 茂樹	対人認知 (講義・演習)
4	1.23	金	10:35~12:00	諏訪 茂樹	コミュニケーション効果 (講義・演習)
5	1.23	金	13:00~14:25	諏訪 茂樹	コミュニケーション効果 (講義・演習)
6	1.23	金	14:35~16:00	諏訪 茂樹	コミュニケーション効果 (講義・演習)
7	1.26	月	10:35~12:00	諏訪 茂樹	コミュニケーション技法 (演習)
8	1.26	月	13:00~14:25	諏訪 茂樹	コミュニケーション技法 (演習)
9	1.26	月	14:35~16:00	諏訪 茂樹	ケーススタディ (講義・演習)
10	1.27	火	10:35~12:00	諏訪 茂樹	状況対応モデル (演習)
11	1.27	火	13:00~14:25	諏訪 茂樹	状況対応モデル (演習)
12	1.27	火	14:35~16:00	諏訪 茂樹	状況対応モデル (演習)
13	1.28	水	10:35~12:00	諏訪 茂樹	対人認知 (演習)
14	1.28	水	13:00~14:25	諏訪 茂樹	まとめ
15	1.28	水	14:35~16:00	諏訪 茂樹	試験

〔医療における倫理学〕

科目責任者 鶴若 麻理

目的

本授業では、「生命倫理」という学問分野が成立した背景や歴史について学び、古典的事例をふまえ、いのちにかかわる人間の行為の倫理的側面について探求する。またその基本にあるべき人権意識を養成し、創造的思考能力を高めることを目的とする。

到達目標

1. 生命倫理という学問分野の成立背景を説明できる。
2. 基本的な医療倫理原則について説明できる。
3. 伝統的「医の倫理」と現代の医療倫理の違いを説明できる。
4. 各種医療において生じる倫理的問題を説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 生命倫理の成立背景	1. Bioethics の米国での成立	1) 伝統的な医の倫理 2) 医科学技術の進歩と倫理 3) 公民権運動、患者の権利運動
	2. 日本への導入	1) わが国の生命倫理に寄与した人々 2) 組織的な取り組み
II. 生命倫理に関連する概念や思想	1. 患者－医師関係	1) インフォームドコンセント
	2. 患者の権利と自己決定	1) 患者の権利章典 2) 自己決定と自己決定権
	3. 優生思想と新優生学	1) 優生学の歴史 2) リプロダクティブ・ライツと新優生学
III. 医療倫理原則	1. 無危害の原則	1) 危害の概念 2) 治療の差し控えと中止 3) 殺すことと死なせること
	2. 善行の原則	1) 善行の概念 2) パターナリズム 3) 利益と危害の比較
	3. 自律尊重の原則	1) 自律の概念および性質 2) インフォームドコンセント 3) 代理意思決定の基準
	4. 正義の原則	1) 正義の概念 2) 公正の機会 3) ヘルスケア資源の配分

大項目	中項目	小項目
IV. 医療倫理原則の適用	1. 個別的な事案の検討	個別的な倫理事案については以下の問題を取り上げる予定である。 1) 生殖医療（代理出産、AID） 2) 出生前診断と選択的人工妊娠中絶 3) 臓器移植 4) 再生医療 5) 高齢者ケア 6) 安楽死 7) エンド・オブ・ライフケア 8) 伝染病差別と医療 9) 医学研究と倫理 10) エンハンスメント
V. 総括		

成績評価の方法：

講義への出席、授業内レポート、最終テストにより、総合的に評価する。

教科書

なし

参考図書

玉井真理子・大谷いづみ(編)	はじめて出会う生命倫理	有斐閣アルマ	2011
香川知晶	命は誰のものか	ディスカヴァー・トゥエンティワン	2009
トム・ビーチャム、 ジェイムズ・チルドレス	生命医学倫理 第5版	麗澤大学出版会	2009
E・バンドマン、B・バンドマン、 木村利人(監訳)、 鶴若麻理・仙波由加里(訳)	ケーススタディ いのちと向き合う看護と倫理—受精から終末期まで	人間と歴史社	2010
鶴若麻理・麻原きよみ	ナラティブでみる看護倫理	南江堂	2013

その他については、講義の中で適宜指示する。

<講義スケジュール>

1	2014. 6. 5	木	13:00~14:25	鶴若 麻理	古典的なケースを通して生命倫理を考える
2	6. 5	木	14:35~16:00	鶴若 麻理	米国でのbioethicsの成立と日本への導入
3	6.12	木	9:00~10:25	鶴若 麻理	生命倫理に関連する概念や思想と医療倫理の原則
4	6.12	木	10:35~12:00	鶴若 麻理	個別的事案の検討1 生殖医療(1)
5	6.18	水	9:00~10:25	鶴若 麻理	個別的事案の検討2 生殖医療(2)
6	6.18	水	10:35~12:00	鶴若 麻理	個別的事案の検討3 優生思想
7	6.26	木	13:00~14:25	鶴若 麻理	個別的事案の検討4 出生前検査と選択的人工妊娠中絶
8	6.26	木	14:35~16:00	鶴若 麻理	個別的事案の検討5 エンド・オブ・ライフケア(1)ホスピス・緩和ケア
9	7. 2	水	9:00~10:25	鶴若 麻理	個別的事案の検討6 エンド・オブ・ライフケア(2)延命治療中止・差し控え
10	7. 2	水	10:35~12:00	鶴若 麻理	個別的事案の検討7 エンド・オブ・ライフケア(3)安楽死
11	7. 4	金	9:00~10:25	鶴若 麻理	個別的事案の検討8 脳死と臓器移植(1)
12	7. 4	金	10:35~12:00	鶴若 麻理	個別的事案の検討9 脳死と臓器移植(2)
13	7. 7	月	9:00~10:25	鶴若 麻理	個別的事案の検討10 高齢者医療と倫理
14	7. 7	月	10:35~12:00	鶴若 麻理	個別的事案の検討11伝染病差別と倫理
15	7. 9	水	9:00~10:25	鶴若 麻理	テスト

〔論理学〕（選択科目）

科目責任者 古田 知章

目的

論理学を、言葉に対しての意識を高めるという観点から学ぶ。このなかでは、人間の生きることと論理との関係、言語や記号による表現とその意味の成立、主張の整合性などの論理についての基礎的知識を学び、日常的な思考やコミュニケーションといった実際の場面での論理のあり方を検討する。

到達目標

1. 言葉を使うことが人間として生きることの本質にかかわることを実感する。
2. 言葉の意味がどのように成立するのかを知る。
3. 言葉や主張の意味が、その場の状況や対話相手との関係性によって変化することを学ぶ。
4. 正しい形式で言葉をつなぎ、状況に応じた言葉の選択や主張の形成ができるようになる。
5. 他者の主張の内容を把握し、その正しさの判断ができるようになる。

大項目	中項目	小項目
I. 人間と論理との関係	1. 人間が生きることのなかでの論理	1) 生きることと論理 2) 出来事に対しての論理の立場
II. 意味の成立	1. 言語や記号による表現と主張との関係	1) 意味の成立と言葉の連関 2) 主張の含む内容と形式
III. 主張の論理性	1. 実際の場面での論理の役割	1) 主張の正しさとその根拠 2) 主張の真偽判断

成績評価の方法：試験によって評価する。

教科書

特に指定せず、随時必要な資料を配布する。

参考図書

野矢茂樹 著	新版 論理トレーニング	産業図書	2006
近藤洋逸、好並英司 著	論理学入門	岩波書店	1979

<講義スケジュール>

1	2014. 5. 7	水	9:00~10:25	古田 知章	ガイダンス 論理的発想
2	5. 7	水	10:35~12:00	古田 知章	人間の生きることと論理
3	5.21	水	9:00~10:25	古田 知章	出来事に対しての論理の立場
4	5.21	水	10:35~12:00	古田 知章	意味の成立と言葉の連関
5	6. 2	月	9:00~10:25	古田 知章	主張の含む内容と形式
6	6.11	水	9:00~10:25	古田 知章	主張の真偽とその根拠
7	6.11	水	10:35~12:00	古田 知章	主張の真偽判断
8	6.23	月	9:00~10:25	古田 知章	試験

生活している人間の環境

〔生体防御機構〕

科目責任者 八木 淳二
 科目担当者 八木 淳二、塚原 高広、春田 郁子、
 今西 健一、加藤 秀人、ミヤケ深雪、
 柳沢 直子、芦野 滋

目的

生体のまわりには様々な侵襲因子が存在し、生体に障害的に作用しようとしている。一方、生体側も種々の防御反応により生体を守ろうとしている。この「生体防御機構」では、主たる侵襲因子である病原微生物の基礎知識と感染症成立のメカニズム、免疫反応による生体の防御作用とその異常の基礎知識について学習する。

到達目標

微生物の種類と違いを説明できる。代表的な病原微生物の基本性状、病原性および疾患を概説できる。それらに抗する免疫システムの構成、機能、およびその破綻による生体異常反応を概説できる。

大項目	中項目	小項目
I. 微生物学		
A. 一般特性	1. 微生物の一般的性状	1) 分類と形態 2) 増殖のしかた 3) 病原因子
	2. 微生物の検査方法	1) 細菌学的検査法 2) 血清学的検査法 3) 迅速診断
	3. 環境と微生物	1) 身の回りに存在する微生物 2) 常在細菌叢 3) 食中毒
	4. 感染と発症	1) 感染の定義 2) 感染の経路 3) 発症の機構 4) 日和見感染・院内感染
	5. 微生物の取り扱いと規制	1) 消毒と滅菌 2) 感染症法
B. 病原微生物	1. 病原性細菌	1) グラム陽性菌（黄色ブドウ球菌、化膿レンサ球菌、肺炎球菌） 2) グラム陰性菌（大腸菌、赤痢菌、サルモネラ菌、コレラ菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ菌、百日咳菌） 3) 嫌気性菌（破傷風菌、ボツリヌス菌） 4) 有芽胞菌（炭疽菌） 5) 抗酸菌（結核菌、非定型抗酸菌） 6) スピロヘータ 7) リケッチア 8) クラミジア 9) マイコプラズマ

大 項 目	中 項 目	小 項 目
II. 免疫学	2. 病原性真菌	1) カンジダ 2) アスペルギルス 3) クリプトコッカス
	3. 病原性ウイルス	1) DNA ウイルス (痘瘡ウイルス、単純ヘルペスウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス、サイトメガロウイルス) 2) RNA ウイルス (ポリオウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、インフルエンザウイルス、ムンプスウイルス、麻疹ウイルス) 3) 肝炎ウイルス 4) レトロウイルス (ヒト免疫不全ウイルス)
	1. 免疫応答	1) 自然免疫と獲得免疫 2) 液性免疫と細胞性免疫 3) 受動免疫と能動免疫
	2. 免疫担当細胞	
	3. 抗原と抗体 4. ワクチンと予防接種 5. 免疫反応の異常	1) アレルギー疾患 2) 自己免疫疾患 3) 免疫不全症
III. 寄生虫学	1. 寄生虫感染症	1) 原虫 (マラリア、赤痢アメーバ、トキソプラズマ、クリプトスポリジウム、ジアルジア) 2) 吸虫 (肺吸虫) 3) 線虫 (アニサキス、回虫) 4) 条虫 (日本海裂頭条虫)

成績評価の方法：出席日数、筆記試験結果、実習レポート等により総合的に評価する。

教科書

南嶋洋一、吉田真一 著 系統看護学講座 専門基礎分野 医学書院 2014
 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学 (第 12 版)

参考図書

矢野郁也^他 編 病原微生物学 東京化学同人 2002
 医療情報科学研究所 編 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 メディックメディア 2009
 矢田純一 著 医系免疫学 改訂 第 12 版 中外医学社 2011
 吉田幸雄、有菌直樹 図説人体寄生虫学 改訂第 8 版 南山堂 2011

<講義スケジュール>

1	2014. 5.30	金	13:00~14:25	八木 淳二	微生物学総論、免疫学総論
2	6.16	月	14:35~16:00	春田郁子	グラム陰性菌、感染症法
3	6.19	木	10:35~12:00	柳沢 直子	グラム陽性菌、有芽胞菌、嫌気性菌、抗酸菌
4	6.23	月	13:00~14:25	今西 健一	DNAウイルス、RNAウイルス
5	6.23	月	14:35~16:00	柳沢 直子	スピロヘータ、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマ、真菌
6	6.27	金	13:00~14:25	加藤 秀人	免疫応答、抗原と抗体、ワクチンと予防接種
7	7.10	木	10:35~12:00	ミヤケ深雪	アレルギー、自己免疫、免疫不全
8	7.10	木	13:00~14:25	春田 郁子	肝炎ウイルス、レトロウイルス
9	9.16	火	13:00~14:25	八木 淳二 _他	実習1 無菌操作の基本・環境に存在する菌・ 手洗い実験・供覧標本の観察
10	9.16	火	14:35~16:00	八木 淳二 _他	実習1 無菌操作の基本・環境に存在する菌・ 手洗い実験・供覧標本の観察
11	9.17	水	13:00~14:25	八木 淳二 _他	実習2 分離培養・菌の抵抗性・実習1の結果観察・ 供覧標本の観察
12	9.17	水	14:35~16:00	八木 淳二 _他	実習2 分離培養・菌の抵抗性・実習1の結果観察・ 供覧標本の観察
13	9.18	木	13:00~14:25	塚原 高広	寄生虫感染症
14	9.18	木	14:35~16:00	八木 淳二 _他	実習3 実習2の結果観察・供覧標本の観察
15	9.26	金	9:00~10:25	八木 淳二	試験

※ 実習1～3は中央校舎7階700教室（医学部校舎）にて授業をおこないます。
 なお、9月18日（木）3限目は看護学部校舎にて講義を行い、4限目は医学部校舎にて実習となりますので、ご注意ください。

〔感染看護〕

科目責任者 大友 陽子
 科目担当者 大友 陽子

目的

医療機関において問題となる感染症や微生物の概要を整理し、科学的根拠に基づく感染防止対策の実際と看護実践に必要な感染防止技術を学習する。

到達目標

1. 感染対策の必要性と基本的な考え方を説明できる。
2. 感染対策に関する知識と技術を学び、看護実践に結びつけられる。
3. 職業感染のリスクを学び、その防止策について理解できる。

大項目	中項目	小項目
I. 感染対策の基本	1. スタンダードプリコーション	1) 考え方と実践内容
	2. 感染経路別対策と病室管理	1) 空気感染対策の実際 2) 飛沫感染対策の実際 3) 接触感染対策の実際
	3. 洗浄・消毒・滅菌の重要性	1) 洗浄・消毒・滅菌の概要と実際 2) 器材の適正管理 3) 環境の適正管理
II. 処置別感染対策	1. 手術部位感染防止	1) 術前・術中・術後の適正管理
	2. 人工呼吸器関連感染防止	1) 挿管管理と吸引技術
	3. カテーテル関連感染防止	1) 尿道カテーテルの適正管理 2) 血管内カテーテルの適正管理
III. 職業感染対策	1. 結核曝露	1) 曝露時対応
	2. 血液体液曝露	2) 感染時対応
	3. ウイルス曝露 その他	3) ワクチンプログラム

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

なし

参考図書

洪 愛子 編	ベストプラクティス NEW 感染管理ナースが	学研	2006
矢野邦夫 著	ねころんで読める CDC がトライン	メディカ出版	2007
櫻井 滋 編	らくらくわかる感染対策の教科書	メディカ出版	2013

<講義スケジュール>

1	2014. 9.11	木	13:00~14:25	大友 陽子	医療機関で問題となる感染症とその概要
2	9.11	木	14:35~16:00	大友 陽子	スタンダードプリコーション
3	9.19	金	13:00~14:25	大友 陽子	感染経路別対策と病室管理
4	9.19	金	14:35~16:00	大友 陽子	洗浄・消毒・滅菌の重要性
5	9.25	木	13:00~14:25	大友 陽子	手術部位感染対策
6	9.25	木	14:35~16:00	大友 陽子	人工呼吸器関連感染防止 カテーテル関連感染防止
7	9.30	火	13:00~14:25	大友 陽子	職業感染対策
8	10.15	水	9:00~10:25	大友 陽子	評価試験

〔人間生活と経済〕（選択科目）

科目責任者 栗沢 尚志

目的

この講義では、①経済や経営の基本的な考え方をやさしく学び、②ビデオや新聞記事を使って現実の経済・企業・社会保障の変化や最新の動向を知り、③日本の福祉社会は自助（競争を基本とする社会）・共助（NPO やボランティアなども加わった社会）・公助（税金を使った政府による公的保障を中心とする社会）をどのように組み合わせたらよいか、そして最終的に④成熟した福祉社会や福祉経済の中での看護の役割とは何か？を経済学の立場から、わかりやすく提示して受講生の知識を高めていきます。

到達目標

1. 経済や経営に関連するニュースの理解力を育成する。
2. 日本の経済、経営、財政、社会保障の特徴や問題点を知る。
3. 日本に適した「福祉社会・福祉経済とは何か？」を考える力を習得する。
4. 健康と経済（特に所得）との関係を知り、そこから看護のあり方を考える学習力を身に付ける。

大項目	中項目	小項目
I. 福祉経済の特徴	1. 福祉水準の国際比較 2. 公平と競争	1) 「日本型福祉」の特徴 2) なぜスウェーデンは高福祉を維持できるのか？ 1) 政治と福祉の理想像 2) 働くための福祉：イギリスから学ぶこと
II. 日本経済の変化と課題	1. 日本経済の変化 2. 日本経済の課題	1) バブル崩壊からリーマンショックまで 2) 日本企業の強さと弱さ 1) 外国人労働者受け入れと消費増税 2) 少子高齢化で日本経済はどうなるのか？
III. 社会保障と看護の役割	1. 社会保障の役割と課題 2. 福祉経済における看護の役割	1) 年金と医療：問題点と考えられる解決案 2) 失業・低所得と生活保護 1) 社会的入院の費用 2) 介護ビジネスの特徴と看護・介護の連携 3) 高齢者の所得水準と健康

成績評価の方法：中間試験（20%）、レポート（20%）、学期末試験（60%）

教科書

特にありません。教材は、毎回、オリジナルのプリントを配布します。そこに、関連する参考文献も詳しくあげています。

参考図書

特にありません。配布するプリント教材に詳しく記載します。

<講義スケジュール>

1	2014.10.15	水	13:00~14:25	栗沢 尚志	福祉経済の考え方と特徴の国際比較
2	10.15	水	14:35~16:00	栗沢 尚志	近年の経済の動き:バブル崩壊からリーマンショックや自由貿易(TPP)まで
3	10.22	水	13:00~14:25	栗沢 尚志	少子高齢化と日本経済の将来
4	10.22	水	14:35~16:00	栗沢 尚志	公的年金の役割と課題
5	11. 5	水	13:00~14:25	栗沢 尚志	公的医療の役割と課題
6	11. 5	水	14:35~16:00	栗沢 尚志	高齢者や母子世帯と生活保護
7	11.19	水	13:00~14:25	栗沢 尚志	介護と看護の連携
8	11.19	水	14:35~16:00	栗沢 尚志	経済学から考える看護の役割:所得と健康

〔社会と人間〕（選択科目）

科目責任者 諏訪 茂樹

目的

様々な社会現象を理解する手がかりの一つは、行為者にとっての主観的な意味であり、その背後には行為者の欲求や信念、社会の規範や制度などがある。本講義では、様々な問いかけを出発点として、社会学や社会心理学のキーワードを使いながら、様々な社会現象の意味を解明し、「社会と人間」というテーマへの理解を深めていく。

到達目標

1. 様々な社会現象の意味について考え、説明することができる。
2. 自分や他者や集団との関係で自分自身を理解し、説明することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 総論	1. 私と私	1) なぜ生まれてきたの？ 2) なぜ自分を探すの？
	2. 私と他者	1) なぜ友人はいらないの？ 2) なぜ一人だと嫌なの？
	3. 私と集団	1) なぜイジメに加わるの？ 2) なぜ多数意見に流されるの？
	4. 私と社会	1) なぜ引きこもるの？ 2) なぜ有名になりたいの？
II. 各論	1. 家族	1) なぜ結婚しないの？ 2) なぜ子供を育てないの？
	2. 地域	1) なぜ都会で暮らしたいの？ 2) なぜ田舎に引っ越したいの？
	3. 教育	1) なぜ進学するの？ 2) なぜ退学するの？
	4. 産業	1) なぜ就職できないの？ 2) なぜ転職するの？
	5. 福祉	1) なぜ老夫婦で暮らしているの？ 2) なぜ施設に入らないの？
	6. 医療	1) なぜ長生きしたいの？ 2) なぜ延命を拒否するの？

成績評価の方法：

出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

特に指定しない。

参考図書

井上俊・船津衛 編	自己と他者の社会学	有斐閣アルマ	2005
池田勝徳 編著	社会学的アプローチ 社会の諸相を把握する	新泉社	2005
見田宗介	社会学入門—人間と社会の未来	岩波新書	2006

稲葉振一郎	社会学入門―“多元化する時代”をどう捉えるか	NHK ブックス	2009
池上知子・遠藤由美	グラフィック社会心理学	サイエンス社	2009
山田一成・結城雅樹・北村英哉	よくわかる社会心理学	ミネルヴァ書房	2007
藤村正之編	いのちとライフコースの社会学	弘文堂	2011
サトウタツヤ・木戸彩恵・若林宏輔	社会と向き合う心理学	新曜社	2012

※他、授業中に随時、紹介。

<講義スケジュール>

1	2014. 4.10	木	13:00～14:25	諏訪 茂樹	私と私
2	4.10	木	14:35～16:00	諏訪 茂樹	私と他者
3	4.16	水	9:00～10:25	諏訪 茂樹	私と集団
4	4.16	水	10:35～12:00	諏訪 茂樹	私と社会
5	4.24	木	13:00～14:25	諏訪 茂樹	家庭と地域
6	4.24	木	14:35～16:00	諏訪 茂樹	教育と産業
7	5. 8	木	13:00～14:25	諏訪 茂樹	医療と福祉
8	5. 8	木	14:35～16:00	諏訪 茂樹	まとめ、試験

〔社会福祉学〕

科目責任者 柳田 正明

目的

社会保障の理念と基本的な制度の考え方について理解する。生活者の生活問題に対する法律に基づく社会福祉の方法と課題について理解する。

到達目標

1. 社会保障、社会福祉の理念制度を把握し、特に保健医療の関連から、その重要性を認識する。
2. 生活上にあるリスクへの対応としての社会福祉の方法を看護との連携などを含めて理解する。

大項目	中項目	小項目
I. 社会保障の理念	1. 保健医療福祉活動の基本方向	a. 概念、目的、機能、体系、内容 b. 人権、日本国憲法 25 条 c. 倫理 d. ノーマライゼーション e. 情報公開、地方分権、参加 f. 社会保障給付費 g. 社会保障制度改革
II. 社会保険制度	1. 社会保険の変遷	a. 歴史、意義 b. 国民皆保険・皆年金
	2. 医療保険制度	a. 健康保険、国民健康保険、高齢者の医療制度 b. 保険給付と利用者負担 c. 医療保険の財政 d. 保険診療のしくみ e. 公費負担医療 f. 国民医療費
	3. 介護保険制度	a. 制度の基本理念 b. 保険者・被保険者 c. 要介護・要支援の認定 d. 保険給付と利用者負担 e. ケアマネジメント f. 介護保険の財政 g. 介護保険事業計画
	4. 年金制度	a. 制度の体系 b. 給付と費用負担
	5. その他の社会保険制度	a. 雇用保険法 b. 労働者災害保障保険法
III. 社会福祉諸法の理念と施策	1. 社会福祉の理念と変遷	a. 社会福祉基礎構造改革と社会福祉法 b. 措置制度から選択、利用制度へ c. 利用者保護の制度
	2. 生活保護法と施策	a. 生活保護の基本原則と実施の原則 b. 実施機関 c. 扶助の種類と内容

大項目	中項目	小項目
IV. 社会福祉行政	3. 障害者（児）の施策	a. 障害者基本法 b. 障害者総合支援法 c. 身体障害者福祉法 d. 知的障害者福祉法 e. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 f. 障害者虐待防止法、障害者差別解消法など
	4. 児童への施策	a. 児童福祉法 b. 児童虐待の防止等に関する法律 c. 母子及び寡婦福祉法 d. 少子化対策
	5. 老人への施策	a. 老人福祉法
	6. その他の施策	a. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する制度（DV法）
	1. 保健福祉計画	a. 子ども・子育て応援プラン b. 障害者基本計画と障害者プラン
	2. 社会福祉の民間活動	a. 民生委員・児童委員 b. 社会福祉協議会 c. ボランティア活動 d. 特定非営利活動促進法（NPO法）
	3. 国・地方公共団体の行政・組織およびマンパワー	a. 福祉事務所 b. 児童相談所 c. 社会福祉施設 d. 在宅サービス機関 e. 保健師 f. 理学療法士・作業療法士 g. 介護支援専門員（ケアマネージャー） h. 社会福祉士・介護福祉士 i. 精神保健福祉士
	4. 老人保健福祉行政の展開	a. 入所措置権の市町村への移譲 b. 市町村および都道府県の老人福祉計画 c. 高齢者の生きがい対策 d. 介護予防

評価方法

出席状況（50%）、適宜のリアクション・ペーパー、試験（50%）で総合的に評価する。

教科書

特に定めないが、体系的なシリーズにあるテキストを通読すること

参考図書

厚生労働省 監	厚生労働白書	ぎょうせい	2013
柳田正明 ^他 編	障害者福祉・支援論	第一法規	2009

<講義スケジュール>

1	2014. 4.18	金	9:00～10:25	社会保障の理念 概念、目的、機能、体系、内容 人権、憲法25条、倫理、ノーマライゼーション 情報公開、地方分権、参加、 社会保障給付費、社会保障制度改革
2	4.18	金	10:35～12:00	社会保険の変遷（歴史、意義、国民皆保険、皆年金） 健康保険、国民健康保険、高齢者医療制度、 保険給付と利用者負担、医療保険財政 保険診療のしくみ、公費負担医療、国民医療費
3	4.25	金	9:00～10:25	介護保険制度 制度の基本理念、保険者・被保険者、 要介護・要支援の認定 保険給付と利用者負担、ケアマネジメント、 介護保険財政、介護保険事業計画
4	4.25	金	10:35～12:00	年金制度とその他の社会保障制度 （年金制度の体系および給付と費用負担、 雇用保険法、労働災害保障保険法）
5	5. 9	金	9:00～10:25	社会福祉の理念と変遷
6	5. 9	金	10:35～12:00	障害者（児）福祉1
7	5.16	金	9:00～10:25	障害者（児）福祉2
8	5.16	金	10:35～12:00	児童福祉1
9	5.30	金	9:00～10:25	児童福祉2
10	5.30	金	10:35～12:00	生活保護1
11	6. 6	金	9:00～10:25	生活保護2
12	6. 6	金	10:35～12:00	高齢者福祉、老人保健福祉計画
13	6.13	金	9:00～10:25	地域福祉
14	6.13	金	10:35～12:00	社会福祉行政、民間活動、マンパワー、社会福祉行政
15	6.20	金	9:00～10:25	試験

健康障害と生活の調整

〔薬理学〕

科目責任者 丸 義朗

科目担当者 平塚(中村)佐千枝、塚原富士子

富田 毅、出口 敦子、家口 勝昭、

瀧田 守親

目的

最適な薬物療法を行うための基礎的知識の修得を目的とする。薬物と生体の反応、特に薬物の作用と副作用、そして各種の薬物の特徴等について述べる。また病態がどのように正常化されるかを生体の機能との関連で追求し、薬物を正しく用いる基礎知識を理解する。

到達目標

主要な薬物の生体における作用点、作用機序を理解する。

薬物の生体における代謝を理解する。

薬物の重大な副反応を理解、記憶する。

病態や症状の緩和、治癒の為の適応すべき薬物を理解する。

大項目	中項目	小項目
I. 薬物と生体の相互作用	1. 生体と薬物概論	1) 薬の概念 a) 薬の歴史 b) 薬の種類、薬局方 c) 薬と法律 2) 薬理作用 a) 薬理作用の基本形式（興奮、抑制等） b) 作用部位 c) 作用の選択性、特異性 d) 主作用、副作用、有害作用
	2. 薬物の作用機序	1) 薬物受容体 2) 薬物の構造活性相関 3) 細胞内情報伝達系 4) 受容体を介さない作用
	3. 用量と反応の関係	1) 治療量、致死量（ED ₅₀ 、LD ₅₀ ） 2) 毒薬、劇薬、普通薬 3) 用量－反応曲線
	4. 薬効に影響する因子	1) 用量、投与方法 2) 年齢、性 3) プラセボ 4) 感受性 5) 薬物相互作用 6) 耐性・依存性
	5. 薬物の体内動態	1) 薬物血中濃度 2) 吸収 3) 体内分布 4) 薬物代謝 5) 排泄

大項目	中項目	小項目
II. 薬物の作用と作用機序	1. 中枢神経作用薬	1) 全身麻酔薬 2) 催眠薬、抗不安薬 3) 抗精神病薬、抗うつ薬 4) パーキンソン症候群治療薬 5) 抗てんかん薬 6) 麻薬性鎮痛薬
	2. 末梢神経作用薬	1) 交感神経作用薬 2) 副交感神経作用薬 3) 神経節作用薬 4) 筋弛緩薬 5) 局所麻酔薬
	3. 生理活性物質	1) ヒスタミン 2) セロトニン 3) アンジオテンシン 4) エイコサノイド
	4. 循環器系作用薬	1) 強心薬 2) 抗狭心症薬 3) 抗不整脈薬 4) 抗高血圧薬
	5. 利尿薬	1) 浸透圧利尿薬 2) 炭酸脱水酵素阻害薬 3) チアジド系利尿薬 4) ループ利尿薬 5) カリウム保持性利尿薬
	6. 子宮収縮薬	1) オキシトシン 2) プロスタグランジン 3) 麦角アルカロイド
	7. 消化器系作用薬	1) 消化薬 2) 消化性潰瘍治療薬 3) 下剤 4) 催吐薬、制吐薬
	8. 呼吸器作用薬	1) 呼吸興奮薬 2) 鎮咳薬、去痰薬 3) 気管支喘息治療薬
	9. ホルモン・ビタミン	1) フィードバック機構 2) ホルモン作用と情報伝達 3) 下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、性ホルモン、膵臓ホルモン、カルシウム調節ホルモン、他
	10. 化学療法薬	1) 抗感染症薬、消毒薬 2) 抗腫瘍薬

成績評価の方法：試験結果等により総合的に評価する。

教科書

中谷晴昭、大橋京一

薬とのかかわり：臨床薬理学
(シリーズ看護の基礎科学 第7巻)

日本看護協会出版会 2012

参考図書

鹿取 信 監 今井 正、宮本英七 編

標準薬理学 第6版

医学書院 2006

田中千賀子、加藤隆一

NEW 薬理学 改訂第6版

南江堂 2011

遠藤 仁、橋本敬太郎、後藤勝年

医系薬理学 改訂2版

中外医学社 2005

柳沢輝行、谷内一彦

新薬理学入門 改訂3版

南山堂 2008

日本薬局方解説書編集委員会 編

日本薬局方解説書 第16改正

廣川書店 2011

〔薬理学〕

科目責任者 丸 義朗
科目担当者 志賀 剛

目的

医療は絶えず進歩しており、新しい作用機序の薬が次々と創り出されている。しかし、新薬に対して正しい評価を行うために、臨床試験が不可欠である。その倫理的側面と科学的側面を学ぶ。また、Research Nurse といった臨床試験における看護師の役割にも触れる。

到達目標

ヘルシンキ宣言の骨子を理解する。
臨床研究と日常診療の違いを理解する。
治験の目的を説明できる。

大項目	中項目	小項目
薬物と生体の相互作用	生体と薬物概論	医薬品の開発と臨床試験

成績評価の方法：出席日数、試験結果、課題提出により総合的に評価する。

教科書

講義資料を配布します。

参考図書

中谷晴昭、大橋京一 編	シリーズ 看護の基礎科学 7 薬とのかかわり 臨床薬理学	日本看護協会出版会	2012
日本臨床薬理学会 編	臨床薬理学 第3版	医学書院	2011

〔薬理学〕

科目責任者 丸 義朗

科目担当者 木村 利美

目的

医薬品の特性から、取り扱いが法的に規制されている医薬品の正しい知識を修得する。また、病院内での具体的な管理方法についても理解する。また、薬害問題について学び、その原因、重大性、防止対策に関して習得する。

到達目標

1. 薬品の法的区分を理解して、薬品の管理・取り扱い方法について説明ができる
2. 有害事象発現時における患者補償制度について説明できる
3. 重大な副作用について、防止のための患者指導ができる

大項目	中項目	小項目
I. 医薬品と法	1. 薬事法による規制	1) 毒薬、劇薬、普通薬の区別と管理 2) 処方せん医薬品、習慣性医薬品、生物由来製品、特定生物由来製品の区分と管理
	2. 麻薬および向精神薬取締法による規制	1) 麻薬の特性と種類 2) 麻薬施用者免許と麻薬処方せん 3) 麻薬の管理 4) 向精神薬の特性と種類 5) 向精神薬の管理
	3. 覚せい剤取締法による規制	1) 覚せい剤の特性と種類 2) 覚せい剤の管理
II. 薬害問題	1. 薬の副作用と薬害	1) 総論 2) 薬の有効性と安全性情報
	2. 薬害の歴史	1) 事例研究
	3. 薬害防止対策	1) 医療倫理と薬害 2) 再発等防止システム 3) 重篤副作用疾患別対応

成績評価の方法：出席日数、試験結果などにより総合的に評価する。

教科書

なし

〔薬理学〕

科目責任者 丸 義朗

科目担当者 飯岡由紀子

目的

薬害被害とともに生きる当事者の体験から看護を考える。

到達目標

1. 薬害とともに生きてきた被害者の体験を理解できる。
2. 薬害被害者とその家族にとって、もたらされた心理や健康被害について概説できる。
3. 薬害被害に対する医療者としての課題を記述できる。

大項目	中項目	小項目
薬害被害とは何か	薬害が被害者および家族にもたらすもの	薬害被害者の心理 薬害被害遺族の心理および健康被害 薬害被害者に対する偏見と差別 社会的支援について 薬害被害者および家族への支援

成績評価の方法：出席日数、試験結果、課題提出により総合的に評価する。

教科書

講演資料の配布

参考図書

特に指定なし

<講義スケジュール>

1	2014. 4.14	月	10:35~12:00	塚原富士子	総論1 薬とは、薬理作用
2	4.21	月	10:35~12:00	塚原富士子	総論2 薬物の体内動態、相互作用
3	4.28	月	9:00~10:25	志賀 剛	医薬品臨床試験とCRCの役割
4	4.28	月	10:35~12:00	富田 毅	末梢神経作用薬1 神経伝達、交感神経系
5	5. 8	木	9:00~10:25	木村 利美	医薬品の規制区分と取り扱い（医薬品と法）
6	5. 8	木	10:35~12:00	木村 利美	薬害問題と防止対策（薬害問題）
7	5.12	月	10:35~12:00	富田 毅	末梢神経作用薬2 副交感神経系
8	5.19	月	10:35~12:00	富田 毅	中枢神経作用薬1 麻薬鎮痛薬、局所麻酔薬
9	5.26	月	10:35~12:00	塚原富士子	中枢神経作用薬2
10	6. 2	月	10:35~12:00	出口 敦子	循環器系作用薬
11	6. 9	月	10:35~12:00	出口 敦子	血液系作用薬、利尿薬
12	6.23	月	10:35~12:00	平塚佐千枝	中間試験
13	9. 8	月	10:35~12:00	家口 勝昭	ホルモンと薬1
14	9.22	月	10:35~12:00	家口 勝昭	ホルモンと薬2 子宮収縮薬
15	9.29	月	10:35~12:00	出口 敦子	消化器作用薬
16	10. 6	月	10:35~12:00	瀧田 守親	呼吸器作用薬
17	10.20	月	10:35~12:00	瀧田 守親	免疫と薬、オキト [®] （プロスタグランジン、ヒスタミン、セロトニン）
18	10.27	月	10:35~12:00	家口 勝昭	炎症と薬
19	11.10	月	10:35~12:00	瀧田 守親	感染症と薬
20	11.17	月	10:35~12:00	平塚佐千枝	悪性腫瘍と薬、消毒薬
21	12. 1	月	10:35~12:00	飯岡由紀子	講演会（薬害被害者の体験）
22	12. 1	月	13:00~14:25	飯岡由紀子	講演会を踏まえての学習
23	12. 8	月	10:35~12:00	平塚佐千枝	試験

〔病態学・各論Ⅰ〕（内科系）

科目責任者 荒井 純子

目的

第1学年で学んだ解剖、生理、生化学、病態学総論などに引き続き、病態学各論では看護実習や卒後臨床看護に必要な内科疾患の基礎的事項を習得する。

各疾患の症状、検査、診断、治療の基本を理解した上で医学的背景を包括した統合的な考えを展開させ実践できる臨床看護師の育成を目的とする。（解剖学実習については別ページ参照）

到達目標

1. 人体を構成する各器官の構造、配置や走行を観察し説明できる。
2. 各器官の正常の形態と機能を理解し、それぞれの基本的機能を述べることができる。
3. 健康と病気の違いについて考える事ができる。
4. 各疾患の主な症状とその病態について説明できる。
5. 各疾患の診断と主な治療について説明できる。
6. 臨床検査の必要性、方法、注意点について説明できる。
7. 各疾患の基本を理解した上で看護上の重要な点について考え展開させることができる。
8. 薬物の基本的作用と副作用、使用上の注意点について述べる事ができる。

成績評価の方法

試験結果、レポート、出席状況により評価を行う

〔病態学・各論 I (内科系)〕

科目責任者 荒井 純子

〔呼吸器疾患〕

大項目	中項目	小項目
I.呼吸器疾患総論	1. 呼吸器系の構造と機能	1) 鼻腔、副鼻腔 2) 咽頭、喉頭 3) 気管、気管支 4) 呼吸部（細気管支、肺胞） 5) 血管、リンパ管 6) 胸郭 7) 呼吸のメカニズム 8) ガス交換 9) 酸塩基調節
	2. 症状とその病態生理	1) 自覚症状 2) 他覚症状
	3. 検査と診断	1) 血液・尿検査 2) 画像検査（肺エックス線、CT、MRI、核医学検査） 3) スパイロメトリー（閉塞性障害、拘束性障害） 4) ガス分析 5) 酸素飽和度 6) 内視鏡検査、気管支鏡 7) 細胞診、組織診断（肺生検）
	4. 治療	1) 内科的治療 2) 外科的治療 3) 呼吸法、リハビリテーション 4) 人工呼吸器
II. 呼吸器疾患の種類と診断・治療	1. 感染性肺疾患	1) 肺炎、肺結核、肺膿瘍
	2. 閉塞性肺疾患	2) 慢性閉塞性肺疾患 3) 気道疾患・気管支喘息 4) 肺気腫 5) 慢性気管支炎
	3. 拘束性肺疾患	1) 間質性肺炎 2) 過敏性肺炎、じん肺、無気肺
	4. 呼吸不全	
	5. 肺腫瘍	
	6. 肺梗塞、肺血栓	
	7. 胸膜、縦隔、横隔膜	
	8. 呼吸調節異常	

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

工藤翔二、青木きよ子 新体系看護学全書 15 巻 2：呼吸器（第 2 版） メヂカルフレンド 2010

参考図書

北村 聖編 臨床病態学 vol.1（第 2 版） ヌーヴェルヒロカワ 2013

山下香枝子^他 系統看護学講座（13 版）専門分野 II 医学書院 2011

成人看護学 2：呼吸器

〔病態学・各論 I (内科系)〕

科目責任者 荒井 純子

科目担当者 荒井 純子、吉永健太郎

〔血液・造血器疾患〕

大項目	中項目	小項目
I. 血液・造血器疾患総論	1. 血液・造血器の形態と機能	1. 骨髄・胸腺・リンパ節・脾臓の形態と機能 2. 血球の産生・崩壊と調節 1) 幹細胞 2) サイトカイン 3. 血液の成分 1) 赤血球 2) 白血球 3) 血小板 4) 血漿成分 4. 凝固と線溶・止血の機序
	2. 主要症候と診察所見 1) 問診・視診・触診・聴診	1. 自覚症状 2. 他覚症状 1) 発熱 2) 貧血の有無 3) 出血の有無 (皮下出血・消化管出血) 4) リンパ節腫脹 (頭頸部、腋窩、鼠径部) 5) 肝・脾腫
	3. 検査と診断	1. 血算 2. 血液生化学検査 3. 出血・凝固の検査 4. 血液型・輸血関連検査 5. 骨髄穿刺・細胞診 6. 染色体検査・遺伝子検査 7. 画像検査
	4. 治療	1) 薬物療法 2) 輸血療法 3) 造血幹細胞移植・骨髄移植 4) 放射線治療
II. 血液疾患の種類と診断・治療	1. 赤血球の疾患	1) 鉄欠乏性貧血 2) 急性出血性貧血 3) 再生不良性貧血 4) 溶血性貧血 5) 巨赤芽球性貧血 6) 二次性 (続発性) 貧血 7) 多血症
	2. 白血球の疾患	1) 急性白血病 2) 急性骨髄性白血病 3) 慢性骨髄性白血病 4) 慢性リンパ性白血病 5) 成人 T 細胞性白血病 6) 無顆粒球症 7) 伝染性単核球症

大項目	中項目	小項目
	3. 骨髄異形成症候群	
	4. リンパ増殖性疾患と異常タンパク血症	1) 悪性リンパ腫 (ホジキン病・非ホジキン病) 2) 多発性骨髄腫 3) 全身性アミロイドーシス
	5. 出血性疾患と血栓形成	1) 血小板の異常 (減少症、増多症、機能異常) 2) 播種性血管内凝固症候群 (DIC) 3) 血友病 4) アレルギー性紫斑病

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

溝口秀昭編 新体系看護学全書 17 巻 4：血液・造血器疾患 第 2 版 メヂカルフレンド社 2010

参考図書

飯野京子^他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 医学書院 2011
成人看護学 4 血液・造血器疾患 13 版

〔病態学・各論 I (内科系)〕

科目責任者 荒井純子

科目担当者 谷口敦夫、中島亜矢子、南家 由紀

〔痛風、関節リウマチ・膠原病・アレルギー〕

大項目	中項目	小項目
I. 免疫	1. 免疫系の構造と機能	1) 免疫系の臓器 2) リンパ球 (T 細胞、B 細胞) 3) サイトカイン 4) アレルギー反応とその調節
II. 尿酸代謝異常	1. 痛風	1) 高尿酸血症と痛風 2) 痛風の診断 3) 痛風の治療 a) 生活指導 b) 食事療法 c) 薬物療法 4) 痛風の合併症
III. 膠原病と類縁疾患	1. 関節リウマチ	1) 診断と病態生理 2) 臨床症状・検査所見 3) 治療 a) 日常生活指導 b) 薬物療法 c) 手術療法 d) リハビリテーション 4) 合併症
	2. 全身性エリテマトーデス	1) 診断と病態生理 2) 臨床症状・検査所見 3) 治療 4) 合併症
	3. 膠原病と類似疾患 シェーグレン症候群、 強皮症、皮膚筋炎、 血管炎、ベーチェットなど	1) 診断 2) 臨床症状 3) 主な検査所見と治療
IV. アレルギー性疾患	1. アレルギー性疾患の種類	1) アレルギー性疾患の種類と特徴
V. 免疫不全症	2. 後天性免疫不全症	1) AIDS など

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

北村 聖編 臨床病態学 vol.2 (第 2 版) ニューヴェルヒロカワ 2013

参考図書

竹田美文^他 新体系看護学全書 22 巻 9： メヂカルフレンド社 2010

山本一彦編 感染症、アレルギー・免疫、膠原病 看護のための最新医学講座第 2 版 免疫・アレルギー疾患 中山書店 2009

〔病態学・各論 I (内科系)〕

科目責任者 荒井 純子

科目担当者 荒井 純子、秋葉 隆

〔腎疾患、水・電解質異常、高血圧〕

大項目	中項目	小項目
I. 腎尿路系疾患総論	1. 腎・尿路系の形態と機能	1) 腎の形態と位置 2) 糸球体の構造と機能 3) 尿細管・間質の構造と機能 4) 尿の生成 5) 水分の調節 6) 老廃物の排泄 7) 電解質の調節 (Na,K,Ca,P など) 8) 血圧の調節 9) 酸塩基の調節 10) 赤血球系の産生
	2. 症候とその病態生理	1) 自覚症状 2) 他覚所見 尿量の異常、尿の性状、浮腫、脱水、高血圧
	3. 検査と診断	1) 尿検査 (蛋白尿、血尿、細菌尿) 2) 一般血液検査 (血算) 3) 血液生化学検査 4) 腎機能検査 5) 免疫学的検査 6) 微生物学的検査 細菌尿 7) 血液ガス分析・動脈血採血 8) 画像検査 9) 病理組織検査
	4. 治療	1) 一般療法・食事療法 2) 薬物療法 3) 透析療法 4) 腎移植
IV. 腎疾患の種類と診断・治療	1. 慢性腎臓病	1) 慢性腎臓病 (chronic kidney disease:CKD)
	2. 糸球体疾患	1) 原発性糸球体腎炎 2) 二次性糸球体腎炎
	3. 尿細管・間質疾患	1) 尿細管間質性腎炎、尿細管機能異常
	4. ネフローゼ症候群	1) 原発性ネフローゼ症候群 2) 続発性ネフローゼ症候群
	5. 腎不全	1) 急性腎不全 2) 慢性腎不全・尿毒症
	6. 全身疾患と腎病変	
	7. 高血圧	
	8. 水・電解質異常	

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

北村 聖編

臨床病態学 vol.2 (第2版)

ヌーヴェルヒロカワ

2013

参考図書

阿部信一他

系統看護学講座 専門分野 II

医学書院

2011

成人看護学 8：腎・泌尿器 (第13版)

〔病態学・各論 I (内科系)〕

科目責任者 荒井 純子

科目担当者 中神 朋子、尾形真規子

岩崎 直子、三浦順之助、柳澤 慶香

〔代謝疾患〕

大項目	中項目	小項目
I. 糖代謝の異常と疾患・治療	1. 糖尿病	1) 糖代謝の調節機構 血糖の調節機構 (インスリン、グルカゴン) 2) 糖尿病の診断と病態 3) 糖尿病の分類 a) 1型糖尿病 b) 2型糖尿病 c) その他の糖尿病 4) 糖尿病の検査所見 5) 糖尿病の合併症 a) 急性合併症 b) 慢性合併症 糖尿病性網膜症 糖尿病性腎症 糖尿病性神経障害など 6) 糖尿病の治療 a) 生活指導 b) 食事療法 c) 薬物療法 d) インスリン治療の基礎と実際 7) 糖尿病と妊娠 8) 糖尿病患者のセルフケア
	2. 低血糖症	
II. 脂質代謝の異常と疾患・治療	1. 脂質異常症 (高脂血症) 2. メタボリック症候群 3. 肥満	1) 診断と治療

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

北村 聖編 臨床病態学 vol.2 (第2版) ニューヴェルヒロカワ 2014

参考図書

吉岡成人^他 系統看護講座 専門Ⅱ 医学書院 2012

成人看護学 6：内分泌・代謝 (14版)

井村裕夫 わかりやすい内科学 (第4版) 文光堂 2014

〔病態学・各論 I (内科系)〕

科目責任者 荒井 純子

〔循環器疾患〕

大項目	中項目	小項目
I. 循環器疾患総論	1. 心臓・血管の構造と機能	1) 心臓・大血管・末梢血管・リンパ管 2) 心臓の刺激伝導系 3) 心機能 4) 冠循環 5) 血圧 6) 静脈環流・循環血液量の調節
	2. 症状とその病態生理	1) 胸痛 2) 動悸 3) 呼吸困難 4) 浮腫 5) チアノーゼ 6) 失神 7) 四肢の疼痛 8) 血圧異常、ショック
	3. 検査と診断	1) 胸部レントゲン 2) 心電図 3) 心音図 4) 心エコー 5) 画像診断 6) 心カテーテル検査 (治療を含む)
II. 循環器疾患の種類と診断・治療	1. 虚血性心疾患 2. 心不全 3. 血圧の異常 4. 不整脈 5. 弁膜疾患 6. 心膜炎・心筋疾患 7. 肺性心 8. 先天性心疾患 9. 動脈硬化症 10. 動脈系疾患 (大動脈瘤、末梢動脈閉塞症など) 11. 静脈系疾患 (血栓性静脈炎、静脈血栓症など)	1) 心筋梗塞・狭心症 2) 慢性心不全・急性心不全 3) 高血圧症・低血圧症

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

島田和幸、宗村美江子 新体系看護学全書 成人看護学③ 循環器 (第2版) メヂカルフレンド 2014

参考図書

吉田俊子^他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 医学書院 2012

成人看護学3：循環器 (第13版)

北村 聖編 臨床病態学 vol.1 (第2版) ヌーヴェルヒロカワ 2013

井村裕夫^他 わかりやすい内科学 (第4版) 文光堂 2014

〔病態学・各論 I (内科系)〕

科目責任者 荒井 純子

〔内分泌疾患〕

大項目	中項目	小項目
I. 内分泌疾患総論	1. 内分泌系の役割	1) ホルモンの種類 2) ホルモンの作用機序 3) ホルモン分泌の調節機構
	2. 主要徴候と所見	1) 成長の異常 2) 体重の異常：肥満とやせ 3) 甲状腺腫 4) 無月経・性腺分泌異常 5) 多飲・多尿 6) 高血圧・水、電解質異常など
	3. 検査と診断	1) ホルモン検査（基礎値、負荷試験） 2) 内分泌機能検査 3) 画像検査
	4. 治療	1) ホルモン補充療法 2) ホルモン分泌過剰症（外科的、内科的、放射線治療）
II. 内分泌疾患	1. 視床下部・下垂体疾患	1) 下垂体前葉機能異常 末端肥大症・Cushing病・シーハン症候群など 2) 下垂体後葉機能異常 尿崩症・SIADH
	2. 甲状腺疾患	1) 甲状腺機能亢進症（Basedow病など） 2) 甲状腺機能低下症（慢性甲状腺炎、橋本病） 3) 甲状腺腫瘍（良性、悪性腫瘍）
	3. 副甲状腺疾患、 カルシウム代謝異常	1) 副甲状腺機能亢進症（原発性・続発性） 2) 副甲状腺機能低下症 3) 高カルシウム血症
	4. 副腎疾患	1) 副腎皮質機能亢進症 （Cushing症候群・原発性アルドステロン症など） 2) 副腎皮質機能低下症 （急性副腎不全・アジソン病など） 3) 副腎髄質疾患（褐色細胞腫） 4) 交感神経疾患（交感神経腫瘍）
	5. 性腺疾患	1) 性腺分泌異常（Turner症候群など） 2) 性早熟症 3) 内分泌異常を伴う卵巣腫瘍など
	6. その他	1) 異所性ホルモン産生腫瘍・インスリノーマなど 2) 神経性食思不振症

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

北村 聖編

臨床病態学 vol.2 (第2版)

ヌーヴェルヒロカワ

2013

参考図書

吉岡成人^他系統看護学講座 専門Ⅱ
成人看護学 6：内分泌・代謝 (第13版)

医学書院

2012

〔病態学・各論 I (内科系)〕

科目責任者 荒井 純子
 科目担当者 飯嶋 睦、清水 優子

〔神経内科〕

大項目	中項目	小項目
I. 脳・神経系疾患総論	1. 脳・神経系の構造と機能	1) 中枢神経系の構造と機能 2) 末梢神経系の構造と機能 *3) 髄膜と頭蓋骨、血管系、脳脊髄液
	2. 症状とその病態生理	1) 意識障害 2) 高次脳機能障害・認知症 3) 運動機能障害 4) 感覚機能障害 *5) 頭蓋内圧亢進と脳嵌入 (脳ヘルニア) 6) 髄膜刺激症状 7) 頭痛
	3. 検査と診断	1) 診察と診断の流れ 2) 検査 3) 治療
II. 脳・神経疾患の種類と診断・治療	1. 脳血管障害	1) 脳出血 2) くも膜下出血 3) 脳梗塞
	2. 神経変性疾患	1) アルツハイマー病 2) パーキンソン病 3) 脊髄小脳変性症 4) 運動ニューロン疾患 (筋萎縮性側索硬化症)
	3. 脱髄性疾患	1) 多発性硬化症
	4. 脳・神経系の感染症	1) 髄膜炎 2) 脳炎
	5. 末梢神経・筋疾患	1) 重症筋無力症 2) ギラン・バレー症候群 3) 内科疾患に伴う末梢神経障害

*は主に脳神経外科が担当

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

黒岩義之 新体系看護学全書 成人看護学 ⑥ 脳・神経 (第3版) メヂカルフレンド 2012

参考図書

竹村信彦^他 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学7:脳・神経 (第14版) 医学書院 2013

岩田 誠^他監 エクセルナース4 脳神経編 メディカルレビュー社 2004

内山真一郎監 脳卒中の治療とケア 医学芸術社 2003

北村 聖編 臨床病態学 vol 1. (第2版) ヌーヴェルヒロカラ 2013

〔病態学・各論 I (内科系)〕

科目責任者 荒井 純子

〔消化器疾患〕

大項目	中項目	小項目
I. 消化器疾患総論	1. 消化器の形態と機能	1) 口腔、舌、唾液腺、咽頭 2) 食道 3) 胃、十二指腸 4) 小腸 5) 結腸、直腸 6) 肛門 7) 肝臓 8) 胆嚢 9) 膵臓 10) 腹壁、腹膜、横隔膜
	2. 症状とその病態生理	1) 自覚症状 2) 他覚症状
	3. 検査と診断	1) 検体検査 (血液、採尿) 2) エックス線検査 (単純撮影、造影検査) 3) 超音波検査 4) CT、MRI、PET 検査 5) 核医学検査 6) 内視鏡検査 (食道、胃、腸) 7) 組織診断、腹水穿刺 8) 消化管機能検査
II. 消化器疾患の種類と診断・治療	1. 上部消化管	1) 食道疾患 (食道癌、食道静脈瘤) 2) 胃 (急性胃炎、慢性胃炎、胃潰瘍、胃癌) 3) 胃食道逆流症 4) 十二指腸潰瘍・憩室
	2. 下部消化管	1) 腸疾患 (感染性腸炎、急性下痢症、潰瘍性大腸炎、クローン病、大腸癌、イレウス)
	3. 肝・胆、膵疾患	1) 肝疾患 (肝炎、肝硬変、肝癌) 2) 胆嚢疾患 (胆石、胆のう炎、胆嚢癌) 3) 膵疾患 (膵炎、膵臓癌)
	4. 横隔膜疾患	
	5. 腹膜・腹腔疾患	

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

北村 聖編 臨床病態学 vol.2 (第2版) ヌーヴェルヒロカワ 2013

参考図書

松田明子^他 系統看護学講座 専門Ⅱ 医学書院 2012

成人看護学 5: 消化器 (第13版)

井廻道夫、菅原スミ 新体系看護学全書 18 成人看護学 5: 消化器 (第2版) メヂカルフレンド 2010

後藤昌義、瀧下修一 新しい臨床栄養学 南江堂 2010

〔病態学・各論 I (内科系)〕

科目責任者 荒井 純子

科目担当者 石黒 直子

〔皮膚科学〕

大項目	中項目	小項目
I. 皮膚科学	1. 皮膚の構造 2. 皮疹の見方	1) 皮膚の構造 2) 皮膚の機能 1) 主な皮疹 2) 主な皮膚疾患

成績評価の方法：出席日数、課題提出等により総合的に評価する。

教科書：なし

参考図書

新村真人他	新体系看護学全書 26、成人看護学 13	皮膚・眼 (第 3 版)	メヂカルフレンド	2010
佐藤博子 ^他	系統看護学講座 専門分野 II	成人看護学：皮膚 (第 13 版)	医学書院	2014

〔病態学・各論 I (内科系)〕

科目責任者 荒井 純子

科目担当者 神山 暢夫

目的

解剖学実習は、第1学年で学習した人体を構成する各器官の構造、配置や走行などを本物の人体標本を用いて自分の目で観察することにより、より実質的な知識として確立することにある。

また、画像診断やフィジカルアセスメントがどのように実物を反映するかを把握し、看護活動に活かすことを目的とする。

到達目標

(前掲済)

〔解剖実習〕

大項目	中項目	小項目
I. 人体の構造	1. 胸部	1) 胸部臓器の配置 2) 心臓の構造 3) 肺の構造 4) 胸壁の構造
	2. 腹部	1) 腹部臓器の配置 2) 上腹部臓器の構造 胃・十二指腸・肝臓 膵臓・脾臓 3) 腸の分布と構造 4) 腎臓の構造 5) 腹壁の構造
	3. 骨盤腔	1) 骨盤臓器の配置 2) 泌尿器の構造 3) 生殖器の構造 男性生殖器 女性生殖器 4) 骨盤壁の構造
	4. 頭部	1) 各脳配置 2) 脳の外部構造 3) 脳の内部構造 4) 脊髄の構造 5) 眼球の構造 6) 内耳の構造
	5. 全身	1) 筋の分布 上肢・下肢・体幹 2) 血管系の分布 3) 末梢神経の分布 4) 関節・靭帯の構造

成績評価の方法：出席日数、課題提出等により総合的に評価する。

教科書：なし

参考図書

飯島治之 ナースのための解剖生理ポケットブック (初版)

技術評論社

2013

<講義スケジュール>

1	2014. 4.15	火	14:35～16:00	荒井 純子	病態学・各論の概要 呼吸器疾患 1) 呼吸器疾患の症候と診察所見
2	4.15	火	16:10～17:35	荒井 純子	呼吸器疾患 2) 患者の病態と検査
3	4.22	火	13:00～14:25	荒井 純子	呼吸器疾患 3) 診断と治療-1
4	4.24	木	10:35～12:00	荒井 純子	呼吸器疾患 4) 診断と治療-2
5	4.25	金	13:00～14:25	荒井 純子	呼吸器疾患 5) 診断と治療-3
6	4.25	金	14:35～16:00	荒井 純子	血液・造血器疾患 1) 血液の形態と機能
7	5. 8	木	16:10～17:35	荒井 純子	血液・造血器疾患 2) 血液疾患の症状と病態、診断と治療
8	5.12	月	14:35～16:00	南家 由紀	膠原病・リウマチ・痛風、アレルギー 1) 関節リウマチ
9	5.13	火	13:00～14:25	荒井 純子	血液・造血器疾患 3) 赤血球系疾患の診断と治療
10	5.15	木	10:35～12:00	谷口 敦夫	膠原病・リウマチ・痛風、アレルギー 2) 痛風の診断と治療
11	5.15	木	14:35～16:00	中神 朋子	糖尿病 1)
12	5.16	金	13:00～14:25	荒井 純子	血液・造血器疾患 4) 白血球系、リンパ系疾患、出血性疾患
13	5.19	月	9:00～10:25	吉永健太郎	血液・造血器疾患 5) 血液疾患の治療:造血幹細胞移植（骨髄移植）
14	5.19	月	16:10～17:35	岩崎 直子	糖尿病 2)
15	5.20	火	13:00～14:25	荒井 純子	症例検討・発表・グループワーク
16	5.22	木	10:35～12:00	荒井 純子	高血圧症 1) 高血圧の原因と病態、高血圧と低血圧
17	5.29	木	14:35～16:00	荒井 純子	高血圧症 2) 高血圧の治療・合併症
18	6. 2	月	14:35～16:00	尾形真規子	糖尿病 3)
19	6. 3	火	13:00～14:25	中島亜矢子	膠原病・リウマチ・痛風、アレルギー 3) 膠原病
20	6. 5	木	16:10～17:35	荒井 純子	膠原病・リウマチ・痛風、アレルギー 4) アレルギー疾患
21	6. 6	金	14:35～16:00	荒井 純子	症例検討・発表・グループワーク
22	6.12	木	13:00～14:25	荒井 純子	中間試験1
23	6.12	木	14:35～16:00	荒井 純子	腎疾患 1) 腎疾患患者の症候と検査
24	6.16	月	16:10～17:35	三浦順之助	糖尿病 4)
25	6.17	火	16:10～17:35	荒井 純子	腎疾患 2) 診断と治療-1
26	6.18	水	16:10～17:35	荒井 純子	腎疾患 3) 診断と治療-2
27	6.20	金	13:00～14:25	秋葉 隆	腎疾患 4) 血液浄化療法（透析療法），腎移植
28	6.20	金	14:35～16:00	荒井 純子	腎疾患 5) 全身疾患と腎
29	6.20	金	16:10～17:35	石黒 直子	皮膚科疾患
30	6.23	月	16:10～17:35	柳澤 慶香	糖尿病 5)
31	6.27	金	10:35～12:00	荒井 純子	循環器疾患 1) 循環器患者の症候と診察
32	7. 1	火	13:00～14:25	荒井 純子	循環器疾患 2) 循環器疾患の検査
33	7. 3	木	14:35～16:00	荒井 純子	循環器疾患 3) 診断と治療-1 不整脈
34	7. 3	木	16:10～17:35	荒井 純子	循環器疾患 4) 診断と治療-2 虚血性心疾患
35	7. 8	火	13:00～14:25	荒井 純子	循環器疾患 5) 診断と治療-3 心不全
36	7. 8	火	14:35～16:00	荒井 純子	循環器疾患 6) 診断と治療-4 弁膜疾患、心筋症など
37	7.10	木	14:35～16:00	荒井 純子	症例検討・グループワーク・発表
38	7.11	金	9:00～10:25	荒井 純子	中間試験2

39	9.12	金	9:00～10:25	荒井 純子	内分泌疾患 1) 内分泌臓器の構造と機能
40	9.19	金	16:10～17:35	荒井 純子	内分泌疾患 2) 内分泌疾患の診断と治療-1
41	9.29	月	13:00～14:25	神山 暢夫	解剖学実習:内臓系(※)
42	9.29	月	14:35～16:00	神山 暢夫	解剖学実習:内臓系
43	9.29	月	16:10～17:35	神山 暢夫	解剖学実習:内臓系
44	10. 3	金	9:00～10:25	荒井 純子	内分泌疾患 3) 内分泌疾患の診断と治療-2
45	10. 3	金	10:35～12:00	荒井 純子	症例検討・グループワーク・発表
46	10. 3	金	13:00～14:25	神山 暢夫	解剖学実習:神経、筋、血管系(※)
47	10. 3	金	14:35～16:00	神山 暢夫	解剖学実習:神経、筋、血管系
48	10. 3	金	16:10～17:35	神山 暢夫	解剖学実習:神経、筋、血管系
49	10. 9	木	9:00～10:25	飯嶋 睦	脳神経疾患 1) 脳神経系の構造と機能、症候
50	10.16	木	9:00～10:25	飯嶋 睦	脳神経疾患 2) 神経変性疾患、認知症
51	10.17	金	9:00～10:25	清水 優子	脳神経疾患 3) 脳血管障害、脱髄性疾患
52	10.31	金	9:00～10:25	清水 優子	脳神経疾患 4) 髄膜炎、脳炎、末梢神経疾患、筋疾患
53	11. 7	金	14:35～16:00	荒井 純子	症例検討・グループワーク・発表
54	11.11	火	13:00～14:25	荒井 純子	消化器疾患の主要症候と病態、検査と介助
55	11.18	火	13:00～14:25	荒井 純子	上部消化管疾患
56	11.21	金	13:00～14:25	荒井 純子	下部消化管疾患
57	11.25	火	13:00～14:25	荒井 純子	肝疾患の診断と治療
58	11.27	木	9:00～10:25	荒井 純子	胆、膵臓疾患の診断と治療
59	11.27	木	13:00～14:25	荒井 純子	症例検討・グループワーク・発表
60	12. 4	木	9:00～10:25	荒井 純子	試験

※2年生の教室に集合、出席をとった後に医学部の解剖学教室、実習室へ移動する。

〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子

（外科系）消化器、眼科、耳鼻咽喉科、乳腺、呼吸器外科、心臓血管外科、泌尿器、脳外科、婦人科、整形外科、麻酔科

目的

疾患の発生、病態、診断、治療、予後について、外科的治療、周術期管理を中心に学習する。

到達目標

1. 外科総論 外科学の基礎と臨床、外科的浸襲と生体反応について理解する。
2. 視覚を維持するために備わっている構造と機能を学び、眼疾患の診断および治療の特殊性を理解する。
3. 頭頸部の感覚系（聴覚、平衡覚、臭覚、味覚）、呼吸器系（鼻副鼻腔、喉頭、気管）、消化器系（口腔、咽頭、食道、唾液腺）について、生命維持のための基本的な機能を理解する。
4. 乳腺の診察および検査、乳腺疾患とその治療について理解する。
5. 呼吸器外科における診断、治療、管理について理解する。
6. 心臓血管の解剖、生理を学び、症状、診断、治療、管理について理解する。
7. 腎・尿路の解剖と生理を熟知し、病態生理、症状、診断、治療、予防法について理解する。
8. 脳の正常構造（解剖と機能、血管支配）を学び、疾患について理解する。
9. 女性のライフスタイルの特徴を学び、婦人科疾患について理解する。
10. 整形外科（四肢・体幹を構成する骨・関節・筋肉・神経などの運動器官の疾患を扱う）の基礎知識を学び、疾患について理解する。
11. 手術侵襲に伴う疼痛やストレスを除去するための麻酔について、痛みのメカニズム、麻酔の循環・呼吸・代謝に及ぼす影響について理解する。

科目担当者 尾崎 恭子

〔麻酔〕

大項目	中項目	小項目
I. 総論	1. 麻酔科学の歴史 2. 麻酔の機序 3. 麻酔と自律神経	1) 全身麻酔の機序 2) 局所麻酔の機序 3) 痛みの生理 1) 麻酔時の自律神経機能変化
II. 各論		
A. 全身麻酔	1. 吸入麻酔 2. 静脈麻酔	1) 気道 2) 吸入麻酔法 3) 循環式麻酔器 4) 麻酔深度と MAC 5) 吸入麻酔薬の吸収と排泄 1) 静脈麻酔法 2) 呼吸管理 3) 循環管理 4) バランス麻酔

大項目	中項目	小項目
B. 神経筋遮断	1. 筋弛緩薬	1) 神経筋遮断の種類 2) 筋弛緩の機序 3) 筋弛緩薬の適応
C. 局所麻酔	1. 浸潤麻酔	1) 局所麻酔の種類 2) 局所麻酔の適応
	2. 脊髄クモ膜下麻酔	1) 脊髄クモ膜下麻酔の解剖、麻酔域 2) 適応 3) 合併症
	3. 硬膜外麻酔	1) 硬膜外麻酔の解剖 2) 麻酔効果に影響する因子 3) 適応 4) 合併症
	4. 伝達麻酔	1) 神経ブロック
D. 周術期全身管理	1. 麻酔のリスクと安全な管理	1) 術前評価 2) ASA 分類 3) 前投薬 4) 麻酔法の選択
	2. PACU、ICU	
	3. 術後疼痛管理	1) 痛みの評価 2) PCA
	4. 麻酔と危機管理	1) 静脈血栓塞栓症 2) アナフィラキシーショック 3) 局所麻酔薬中毒

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

青木照明_他編 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論（第10版） 医学書院 2011

参考図書

武田 純三 麻酔看護のポイント 360 メディカ出版 2009
 並木 昭義 すぐに役立つ痛みの看護マニュアル 真興交易医書出版部 2004
 ー札幌医科大学医学部麻酔学講座

〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子

科目担当者 須納瀬 弘

耳鼻咽喉科は頭頸部を含めた領域である。聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚の感覚系を主とし、さらに呼吸器系として鼻副鼻腔、喉頭、気管、消化器系として口腔、咽頭、食道、さらに唾液腺も含まれる。このように感覚器、呼吸器、消化器としての生命維持のための基本的な機能を担っている。

〔耳鼻咽喉科学〕

大項目	中項目	小項目
I. 正常構造と機能	1. 解剖と生理	1) 外耳・中耳・内耳 2) 鼻・副鼻腔 3) 口腔・咽頭 4) 喉頭・気管 5) 食道 6) 頸部
II. 症候と病態生理	1. 耳痛・耳漏・耳鳴・耳閉感 2. 難聴、めまい 3. 鼻漏、鼻閉、くしゃみ、鼻出血、鼻声、嗅覚障害 4. 咽頭痛、味覚障害、咽喉頭異常感 5. 嘔声、呼吸困難 6. 嚥下障害 7. 頸部腫脹	1) 伝音難聴、感音難聴 2) 末梢性めまい、中枢性めまい
III. 診断と介助	1. 外来診療 2. 手術と治療	1) 器材・器具 2) 耳の診療 3) 鼻の診療 4) 咽喉頭の診療 5) 気管・食道の診療 6) 頸部の診療 1) 耳の手術と介助 2) 鼻の手術と介助 3) 扁桃の手術と介助 4) 喉頭の手術と介助
IV. 検査と介助	1. 聴力検査 2. 平衡機能検査 3. 鼻副鼻腔検査	1) 純音オージオメトリ 2) その他のオージオメトリ 1) ENG 検査 2) その他の平衡機能検査 1) 鼻腔通気度検査 2) 嗅覚検査 3) ポリソムノグラフィー

大項目	中項目	小項目		
V. 診断と介助	4. 口腔、咽頭検査	1) 味覚検査 2) 唾液腺機能検査		
	5. 喉頭検査	1) ストロボスコーピー		
	6. X線検査	1) 単純写真、断層写真、造影写真 2) CT		
	7. 特殊撮影	1) MRI		
	8. 核医学検査			
	9. 超音波検査			
	10. 硬性内視鏡検査	1) 食道鏡 2) 喉頭鏡 3) 気管支鏡		
	11. 可撓性内視鏡 (ファイバースコーピー)	1) 鼻咽腔、喉頭、食道		
	1. 外来診療	1) 器材・器具 2) 耳の診療 3) 鼻の診療 4) 咽喉頭の診療 5) 気管・食道の診療 6) 頸部の診療		
	VI. 疾患の理解 1. 耳疾患	A. 外耳疾患	1. 外耳奇形	原因、症候、検査、診断、治療
			2. 先天性耳漏孔	
3. 外耳道炎				
4. 外耳道湿疹				
5. 耳垢栓塞				
6. 外耳道異物				
7. 耳真菌症				
B. 中耳疾患		1. 鼓膜損傷	合併症	
		2. 急性中耳炎		
		3. 滲出性中耳炎		
		4. 慢性中耳炎	合併症	
		5. 真珠腫性中耳炎		
		6. 急性乳様突起炎		
		7. 耳性頭蓋内合併症		後遺症
		8. 耳硬化症		
		9. 中耳奇形		
C. 内耳疾患		1. 内耳炎	予防、社会医学的事項 後遺症	
		2. 音響外傷		
		3. 騒音難聴		
		4. 耳中毒		
		5. 老人性難聴		
	6. 乳幼児難聴			
	7. 聾	社会医学的事項		

大項目	中項目	小項目
	8. 突発性難聴 9. ウイルスによる難聴 10. メニエール病 11. 良性発作性頭位眩暈症 12. 前庭神経炎 13. 外リンパ瘻 14. 内耳奇形	
D. 腫瘍	1. 外耳・中耳 2. 聴神経腫瘍	合併症
E. 神経疾患	1. 顔面神経麻痺	合併症、後遺症
2. 鼻・副鼻腔疾患		
A. 外鼻疾患	1. 外傷 2. 鼻前庭湿疹 3. 鼻瘻	
B. 鼻腔疾患	1. 鼻中隔彎曲症 2. 鼻出血 3. 急性鼻炎 4. 慢性鼻炎 5. 肥厚性鼻炎 6. 萎縮性鼻炎 7. 鼻アレルギー 8. ウェジェナー肉芽腫症	
C. 副鼻腔疾患	1. 急性副鼻腔炎 2. 慢性副鼻腔炎 3. 副鼻腔粘液嚢胞 4. 上顎癌	合併症 合併症
3. 咽喉頭疾患		
	1. 咽頭疾患 1) 咽頭炎 2) 急性扁桃炎 3) 慢性扁桃炎 4) 扁桃周囲膿瘍 5) 咽後膿瘍 6) 扁桃肥大・アデノイド 7) 上咽頭癌 8) 下咽頭癌	合併症
	2. 喉頭疾患 1) 急性喉頭炎 2) 慢性喉頭炎 3) 咽喉頭ジフテリア 4) 喉頭結核 5) 喉頭の運動麻痺 6) 咽喉頭の知覚異常 7) 喉頭癌	合併症、後遺症 社会医学的事項

大項目	中項目	小項目
4. 気管・食道疾患	1. 気道異物 2. 食道異物 3. 機能的音声障害 4. 言語障害	合併症、後遺症 合併症、後遺症
VII. 患者の看護		
1. 一般看護	1. 患者の受け入れ 2. 一般的事項 3. 患者・家族の指導	
2. 看護過程	1. アセスメント 2. 看護目標 3. 看護活動	
3. 症状に対する看護	1. 耳 1) 難聴 2) 耳鳴 3) めまい 4) 耳痛 5) 耳漏 2. 鼻 1) 鼻閉 2) 鼻漏 3. 咽喉頭 1) 咽頭痛 2) 嚥下障害 3) 呼吸障害 4) 音声・言語障害 5) 知覚異常	
4. 手術を受ける患者の看護	1. 手術患者の一般的看護 2. 手術患者の看護	1) 手術前 2) 手術後 1) 慢性中耳炎 2) 慢性副鼻腔炎 3) 慢性扁桃炎・扁桃肥大 4) 喉頭腫瘍
5. 救急処置と看護	1. 鼻出血 2. 呼吸困難	

成績評価の方法：試験結果等により総合的に評価する。

教科書

海野徳二^他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[14] 耳鼻咽喉（第12版） 医学書院 2008

〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子
 科目担当者 高村 悦子

視覚情報化時代の今日、最も重要な視覚を司る眼球および附属器について、視覚を維持するために備わっている構造と機能を理解し、眼疾患の診断および治療の特殊性を学習し、看護に役立つ知識を得ることを目的とする。

〔視覚器〕

大項目	中項目	小項目
I. 眼の構造	1. 眼球	1) 外壁 2) 内容
	2. 視神経	
	3. 眼球附属器	1) 眼瞼 2) 涙器 3) 眼筋
II. 眼の機能と検査	1. 視力	1) 近視、遠視、乱視 2) 調節異常とその検査法
	2. 視野	1) 視野異常とその検査法
	3. 眼科一般検査	1) 視力検査 2) 屈折検査 3) 細隙灯顕微鏡検査 4) 眼圧検査 5) 眼底検査
III. 眼疾患の診断と治療	1. 外眼部疾患	1) 眼瞼の疾患 2) 涙器の疾患
	2. 前眼部疾患	1) 結膜の疾患 2) 角膜の疾患 3) 強膜の疾患
	3. 後眼部疾患	1) ぶどう膜の疾患 2) 網膜硝子体の疾患 3) 水晶体の疾患 4) 眼圧の疾患 5) 視神経の疾患

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

大鹿哲郎 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 医学書院 2013
 成人看護学[13] 眼（第12版）

参考図書

山本修一、大鹿哲郎編 講義録 眼・視覚学 メジカルビュー社 2006
 大橋裕一 編 ナースのための眼科学 ナーシングポイント100 メジカルビュー社 2011
 八木幸子 著 めざせ！眼科検査の達人（改訂2版） メディカ出版 2010

〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子
 科目担当者 前 昌宏

呼吸器、循環器外科における診断、治療、管理について学ぶ。

〔呼吸器外科〕

大項目	中項目	小項目
I. 呼吸器外科	1. 呼吸器の解剖	1) 肺・気管・気管支 2) 動・静脈系、リンパ系・神経系
	2. 呼吸機能	1) 換気・拡散 2) 血液ガス分析
	3. 呼吸器疾患	1) 先天性異常 2) 炎症性疾患 3) 肺癌・縦隔腫瘍 4) 気管支拡張症・嚢胞性疾患
	4. 呼吸器疾患の手術	1) 手術侵襲と生体反応 2) 診断と手術 3) 術前・術後の管理

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。なお、試験成績により課題提出を求めることがある。

教科書

青木照明 ^他 編	系統看護学講座 別巻	臨床外科看護総論（第10版）	医学書院	2011
北島政樹 ^他 編	系統看護学講座 別巻	臨床外科看護各論（第8版）	医学書院	2011

〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子

科目担当者 瀬下 明良、廣澤知一郎

臓器別分化傾向にある今日の外科医療体系のなか、原点に戻って外科学の基礎と臨床を幅広く学ぶ。

〔外科学・消化器〕

大項目	中項目	小項目
Ⅰ. 外科総論	1. 外科的侵襲と生体の反応	1) 内分泌性変動、代謝性変動 2) 既往・現歴、症状・訴え 3) 現症、診察法
	2. 外科的診断法	
	3. 外科的治療の基礎	1) 基本的外科手技・無菌法と消毒
	4. 術前・術後の管理と合併症	1) 臓器機能評価 2) 輸血・輸液・栄養 3) 出血・止血・ショック・感染症 4) 術後回復過程 5) 手術のための準備
	5. 腫瘍と免疫・人工臓器と臓器移植	
	6. 救急医療外科	1) 心肺脳蘇生法 2) 救急処置
Ⅱ. 消化器外科	1. 腹部の解剖	1) 腹壁、腹膜、腸間膜、大網 2) 血管系、リンパ系 3) 食道、胃、十二指腸、小腸、大腸 4) 肝臓、胆嚢、膵臓、脾臓 5) 肛門
	2. 腹部疾患診断法	1) X線（単純、造影）・超音波 2) 内視鏡・CT・MRI・PET
	3. 外科治療の対象疾患	1) 炎症、潰瘍、結石 2) 先天性奇形 3) 良性腫瘍 4) 悪性腫瘍
	4. 手術法	1) 開腹手術 2) 鏡視下手術
	5. 手術適応となる主な疾患	1) 食道癌・胃癌・大腸癌・肝臓癌 膵臓癌・胆石症・胆嚢炎 腸閉塞・腹膜炎 ヘルニア 痔核・痔ろう
	6. 腹部手術とその合併症	

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

青木照明 ^他 編	系統看護学講座 別巻	臨床外科看護総論（第 10 版）	医学書院	2011
北島政樹 ^他 編	系統看護学講座 別巻	臨床外科看護各論（第 8 版）	医学書院	2011

参考図書

加藤 治文 監	標準外科学（第 13 版）		医学書院	2013
---------	---------------	--	------	------

〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子
 科目担当者 村田 泰章

整形外科の Orthopedic surgery とは、四肢・体幹を構成する骨・関節・筋肉・神経などの運動器の疾患を扱う臨床医学である。Ⅰ看護概論 Ⅱ整形外科の基礎①運動器の構造と機能②症状と病態生理③診断と検査④治療法 Ⅲ疾患の理解①形態異常（先天性股関節脱臼、内反足、斜頸など）②骨折と関節外傷③炎症性疾患（関節リウマチ、痛風、化膿性疾患など）④非炎症性疾患（変形性関節症など）⑤骨腫瘍⑥代謝性骨疾患（骨粗しょう症など）⑦脊椎の疾患（頸椎症、腰椎椎間板ヘルニア、側彎症など）⑧その他 Ⅳ看護の実際につき、重要な疾患やポイントのみ講義し、後は教科書を各自で読み、疾患の特徴をよくつかみ、看護に役立ててほしい。

〔整形外科〕

大項目	中項目	小項目
Ⅰ．看護概論	1. 運動器疾患の変遷	1) 看護の歴史 2) 看護をとりまく状況と諸問題
	2. 患者の理解	1) 身体的問題、心理的社会的問題
	3. 看護の目的と機能	1) 看護の目的、役割（身体的援助、心理的社会的援助） 2) 疾病の経過と看護（急性期、慢性期、回復期、終末期の看護）
Ⅱ．基礎知識	1. 運動器の構造と機能	1) 関節、神経、筋肉とは？
	2. 診察法	1) 一般診察、肢位または姿勢計測法、特殊検査と介助、保存療法、手術療法、義肢と装具
	3. 治療法	
	4. 症状と病態生理	1) 形態の異常 2) 関節運動の異常 3) 麻痺 4) 異常歩行または跛行
Ⅲ．疾患の理解	1. 先天性疾患、骨折、脱臼	1) 先天性（発育性）股関節脱臼 2) 斜頸 3) 内反足につき学ぶ
	2. 後天性疾患、捻挫、打撲、炎症、腫瘍、系統疾患、上肢および下肢疾患、脊椎疾患、腱・筋疾患、末梢神経損傷	1) 骨折、脱臼の総論 2) 各論（診断、検査、治療） 3) その他各疾患の診断、治療につき学ぶ
Ⅳ．患者の看護	1. 援助のための知識と技術	1) 身体的援助 2) 良肢位 3) 関節の変形
	2. 症状に対する看護	1) フォルクマン拘縮 2) 疼痛 3) 出血 4) 感染 5) 褥瘡

大項目	中項目	小項目
	3. 保存療法を受ける患者の看護 4. 手術を受ける患者の看護 5. 経過に応じた患者の看護 6. 疾患を持つ患者の看護	1) ギプスに対する知識、巻き方、切り方、牽引 1) 手術前看護、当日、後の看護のポイント 1) 急性期、回復期、慢性期、末期の看護の問題 1) 各疾患に対する看護のアセスメントを行い、目標を Problem Oriented System (POS) にて行う

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

織田弘美^他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器（第13版） 医学書院 2012

参考図書

土方浩美 編 整形外科看護アップデート 照林社 2002
 土方浩美 編 整形外科ケアマニュアル（ポケット版） 照林社 2000

〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子

科目担当者 堀内喜代美、坂本 明子

乳腺の診察および検査、乳腺疾患とその治療について学ぶ

〔乳腺の疾患〕

大項目	中項目	小項目
I. 乳腺の疾患	1. 乳腺の構造と機能 2. 乳腺の診察・検査 3. 乳腺の疾患	1) 疫学、特徴 2) 症状 3) 診断 4) 治療

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

北島政樹^他 編

系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論（第8版）

医学書院

2011

〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子

科目担当者 小内友紀子

腎臓は体内の体液量を調節している臓器であり、これによって人体のホメオスターシスが維持されている。近年、高血圧や糖尿病などによる腎障害が増加しており、末期腎不全から維持透析となる症例も増大している。

これから高齢化社会を迎えるにあたり、腎・泌尿器系疾患は確実に増加する領域である。

正常な腎・尿路の解剖と生理を熟知し、腎機能検査や泌尿器科に必要な検査法を学んだうえで、さまざまな疾患についての病態生理、症状、診断、治療、予防法について学習する。

大項目	中項目	小項目
I. 腎・尿路の形態と機能	1. 腎・尿路の構造 2. 腎臓の機能 3. 腎盂・尿管の機能 4. 膀胱、尿道の機能	
II. 男性生殖器の形態と機能	1. 男性生殖器の構造 2. 男性生殖器の機能	
III. 主要症候と病態生理	1. 尿量の異常 2. 尿性状の異常 3. 水・電解質の異常 4. 浮腫 5. 高血圧 6. 貧血 7. 尿毒症 8. 排尿障害 9. 疼痛 10. 自律神経障害	
IV. 診断・検査		
A. 診察	1. 一般診察 2. 腎・尿路の診察 3. 男性生殖器の診察	
B. 検体検査	1. 尿検査 2. 血液・尿生化学検査 3. 免疫学的検査 4. 微生物学的検査 5. 病理組織学的検査	
C. 腎機能検査	1. 総腎機能検査 2. 分腎機能検査	
D. 画像診断	1. X線検査 2. 超音波検査 3. 核医学検査 4. CT検査 5. MRI検査	

大 項 目	中 項 目	小 項 目
E. 泌尿器科的検査	1. 経尿道的検査 2. 内視鏡検査 3. 排尿機能検査 4. 生検 5. 分泌物検査	
V. 腎疾患		
A. 腎不全	1. 急性腎不全 2. 慢性腎不全	
VI. 泌尿器科的腎尿路疾患		
A. 先天性異常	1. 腎臓の先天異常 2. 腎盂・尿管の奇形 3. 膀胱の奇形 4. 尿道の奇形	a. 腎臓の発育不全 b. 馬蹄鉄腎 c. 嚢胞性腎疾患 a. 重複腎盂尿管 b. 腎盂・尿管の狭窄 c. 尿管の異所閉口 d. 尿管瘤 e. 下大静脈後尿管 a. 膀胱外反症 b. 尿膜管の異常 a. 後部尿道弁 b. 尿道下裂 c. 包茎
B. 外傷	1. 腎損傷 2. 膀胱損傷 3. 尿道損傷	
C. 腎・尿路結石と異物	1. 腎結石、腎盂結石 2. 尿管結石 3. 膀胱結石 4. 膀胱異物	
D. 尿路閉塞性疾患と機能障害	1. 上部尿路閉塞性疾患 2. 下部尿路閉塞性疾患 3. 神経因性膀胱 4. 膀胱尿管逆流 5. 夜尿症 6. 尿失禁	
E. 腎血管障害	1. 腎硬化症 2. 腎動脈狭窄 3. 腎動脈瘤 4. 腎動静脈瘻 5. 腎梗塞	
F. 炎症と感染症	1. 腎盂腎炎 2. 腎膿瘍 3. 膀胱炎 4. 尿道炎 5. 腎尿路結核	a. 急性 b. 慢性 a. 急性 b. 慢性 a. 急性 b. 性感染症

大 項 目	中 項 目	小 項 目
G. 腎・尿路腫瘍	1. 腎細胞癌 2. 腎芽細胞腫 3. 腎血管筋脂肪腫 4. 尿路上皮腫瘍 5. 尿道腫瘍 6. 尿膜管腫	a. 腎盂腫瘍 b. 尿管腫瘍 c. 膀胱腫瘍
VII. 男性生殖器の疾患		
A. 炎症と感染症	1. 前立腺炎 2. 精巣上体炎 3. 精巣炎 4. 性器結核	a. 急性 b. 慢性
B. 腫瘍	1. 前立腺腫瘍	a. 前立腺肥大症 b. 前立腺癌
C. 先天異常	2. 精巣腫瘍 1. 精巣の先天異常 2. 性分化異常	
D. 陰囊および精索の疾患	1. 陰囊水腫 2. 精索静脈瘤 3. 精巣捻転症	
E. 男性不妊症	1. インポテンス	
F. その他の疾患		
VIII. 副腎		
A. 内分泌機能	1. 副腎皮質ホルモン 2. 副腎髄質ホルモン	
B. 副腎の腫瘍	1. Cushing 症候群 2. 原発性アルドステロン症 3. 続発性アルドステロン症 4. 褐色細胞腫 5. 男性化副腎腫瘍 6. 神経芽細胞腫	
IX. 腎尿路疾患の特殊治療		
A. 血液浄化	1. 血液透析 2. 腹膜透析 3. 血漿交換 4. 血液吸着・濾過 5. 導尿法	
B. 泌尿器外科的検査と治療	1. ブジー 2. 内視鏡的検査 3. 非観血的尿路結石手術 4. 経尿道的切除術 (TUR) 5. 尿路変更法	

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

阿部信一^他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護[8] 腎・泌尿器（第13版） 医学書院 2011

参考図書

吉田修 編 ベッドサイド泌尿器科学 改訂第4版 南江堂 2013

杉本恒明、矢崎義雄 編 内科学 第9版 朝倉書店 2007

〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子

科目担当者 津久井宏行

大項目	中項目	小項目
循環器外科	1. 心臓の解剖	1) 構造と機能 2) 冠状動脈系・刺激伝道系
	2. 循環器疾患	1) 先天性心疾患 2) 弁膜症 3) 虚血性心疾患
	3. 循環器疾患の手術	1) 侵襲と生体反応 2) 診断と手術 3) 術前・術後の管理

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

使用しない

〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子
 科目担当者 落合 卓

〔脳外科〕

大項目	中項目	小項目
I. 脳の正常構造について	1. 脳の解剖と機能	1) 前頭葉の解剖と機能 2) 側頭葉の解剖と機能 3) 頭頂葉の解剖と機能 4) 後頭葉の解剖と機能
	2. 脳の血管支配	1) 前大脳動脈 2) 中大脳動脈 3) 後大脳動脈 4) 脳底動脈
II. 脳の病気について	1. 脳血管障害	1) 脳梗塞 2) 脳出血
	2. 脳腫瘍	1) 腫瘍局在に伴う症状 2) 脳腫瘍の種類
	3. 機能的脳疾患	1) てんかん 2) 不随運動 3) 疼痛

成績評価の方法：試験結果等により総合的に評価する。

教科書

特に指定せず、随時必要な資料を配布する。

〔病態学・各論Ⅱ（外科系）〕

科目責任者 尾崎 恭子

科目担当者 吉形 玲美、木原 真紀

女性のライフサイクルの特徴を知った上で、婦人科疾患（女性生殖器疾患）で生じる症状、診断、治療に関する基礎的知識を理解する。

〔女性生殖器〕

大項目	中項目	小項目
Ⅰ．婦人科良性腫瘍	1. 子宮筋腫	1) 子宮筋腫の病態（病気の成り立ちと経過） 2) 診断・治療・予後
	2. 卵巣腫瘍	1) 卵巣腫瘍の分類 2) 子宮内膜症の成り立ち・症状・診断・治療 3) 卵巣嚢腫（皮様嚢胞腫、漿液性嚢胞腺腫、粘液性嚢胞腺腫）の特徴
	3. 性感染症	1) 性感染症とは 2) クラミジア感染症 3) 淋菌感染症 4) 性器ヘルペス 5) 尖圭コンジローマ
Ⅱ．婦人科悪性腫瘍	1. 子宮体がん	1) 子宮がんの病態（病気の成り立ちと経過） 2) 検査・診断 3) 治療・予後
	2. 子宮頸がん	1) 子宮がんの病態（病気の成り立ちと経過） 2) 検査・診断 3) 治療・予後
	3. 卵巣がん	1) 卵巣がんの病態（病気の成り立ちと経過） 2) 検査・診断 3) 治療・予後

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

池田 正_他 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 医学書院 2012
成人看護学[9] 女性生殖器（第13版）

参考図書

太田博明 編 エクセルナース 9 産婦人科編 メディカルレビュー社 2002
上田森生 編 病気がみえる Vol.9 婦人科・乳腺外科（第2版） メディックメディア 2009

<講義スケジュール>

1	2014. 4.17	木	9:00～10:25	前 昌宏	呼吸器外科：肺、縦隔の解剖、肺機能、血液ガス分析
2	4.24	木	9:00～10:25	前 昌宏	呼吸器外科：疾患と手術、術後管理
3	5.14	水	9:00～10:25	木原 真紀	良性腫瘍
4	5.19	月	13:00～14:25	高村 悦子	眼の構造と機能
5	5.19	月	14:35～16:00	高村 悦子	眼疾患の症状と検査法
6	5.21	水	14:35～16:00	落合 卓	脳神経外科：脳の正常構造について
7	5.26	月	13:00～14:25	高村 悦子	眼疾患の診断と治療 外眼部、前眼部
8	5.26	月	14:35～16:00	高村 悦子	眼疾患の診断と治療 後眼部
9	5.29	木	9:00～10:25	小内友紀子	腎・尿路の解剖・機能・検査 腎・泌尿器疾患の主要症候
10	5.29	木	10:35～12:00	小内友紀子	腎・泌尿器疾患（各論）
11	5.30	金	14:35～16:00	瀬下 明良	消化器外科
12	5.30	金	16:10～17:35	瀬下 明良	消化器外科
13	6. 2	月	13:00～14:25	村田 泰章	脊椎の疾患、関節の疾患
14	6. 3	火	14:35～16:00	落合 卓	脳神経外科：脳の病気について
15	6. 9	月	13:00～14:25	村田 泰章	運動器の構造と機能、運動器の外傷
16	6.25	水	9:00～10:25	廣澤知一郎	外科総論
17	6.25	水	10:35～12:00	廣澤知一郎	外科総論
18	6.26	木	16:10～17:35	尾崎 恭子	麻酔総論
19	6.30	月	9:00～10:25	須納瀬 弘	耳鼻咽喉の解剖 機能と検査法
20	6.30	月	10:35～12:00	須納瀬 弘	耳鼻咽喉の外傷と機能障害
21	6.30	月	13:00～14:25	須納瀬 弘	耳鼻咽喉の炎症性疾患
22	6.30	月	14:35～16:00	須納瀬 弘	耳鼻咽喉の腫瘍性疾患
23	7. 1	火	14:35～16:00	津久井宏行	循環器外科：心臓の解剖、疾患
24	7. 1	火	16:10～17:35	津久井宏行	循環器外科：診断と手術、術後管理
25	7. 3	木	13:00～14:25	尾崎 恭子	麻酔各論
26	7. 7	月	16:10～17:35	尾崎 恭子	周術期全身管理
27	9. 8	月	16:10～17:35	吉形 玲美	婦人科悪性腫瘍
28	10. 2	木	9:00～10:25	堀内喜代美	乳腺の疾患
29	10. 7	火	13:00～14:25	坂本 明子	乳腺の疾患
30	10.20	月	9:00～10:25	尾崎 恭子	試験

〔病態学・各論Ⅲ（小児）〕

科目責任者 永田 智
 科目担当者 世川 修、舟塚 真、伊藤 康、今井 薫、
 近本 裕子、清水 美妃子、尾崎 恭子、清谷知賀子

目的

小児には発育／発達という特徴があり、小児期早期には先天異常が、集団生活を始める頃には急性感染症や心の問題が大きい。気管支喘息、およびその他のアレルギー性疾患、循環器系、神経系、腎／泌尿器系、先天性代謝異常症、内分泌疾患、血液疾患、悪性新生物に、膠原病、原発性免疫不全症候群、小児の外科的疾患に関して、小児の特殊性考慮して学ぶ必要が在る。

到達目標

1. 心臓大血管奇形は、先天異常のうち最も多いものの一つで、かつ新生児死亡の主な原因でもある。この講義は主な疾患についてその発生、病態、診断、予後について学習理解し説明できる。
2. 小児の神経疾患は、脳性麻痺から、筋、代謝変性疾患まで非常に多くの疾患を含むが、この講義はその主な特徴について学習理解し説明できる。
3. 腎臓の発達およびその形態と機能、さらに代表的な小児腎疾患について学習理解し説明できる。
4. 小児の外科的疾患に関しては、小児外科の特殊性と代表する疾患について学習理解し説明できる。
5. 先天性代謝異常症については糖質、脂質、蛋白質等の代謝についての基礎を学びそれらの代謝異常を引き起こす各種疾患の病態、病因、症状、診断、治療について学習理解し説明できる。
6. 内分泌疾患においては主として下垂体、甲状腺、副腎、性腺等における正常な機能、形態を学び異常によって引き起こされる病態、原因、症状、診断、治療等について学習理解し説明できる
7. 血液疾患については貧血、出血性疾患、白血病その他について病因、診断、治療について学習理解し説明できる悪性新生物について小児において頻度の多い疾患を中心に診断、治療を中心に学習理解し説明できる。
8. 小児に多く見られる膠原病、原発性免疫不全症候群、気管支喘息、およびその他のアレルギー性疾患について病態生理、症状、診断、治療について学習理解し説明できる。
9. 小児の主な疾患である急性感染症について、その原因と症候、および治療について理解し説明できる。
10. いずれの場合も、その年齢特徴に応じた反応の仕方があり、年齢特徴を背景とした全人的な理解ができる

大項目	中項目	小項目
I. 小児の循環器疾患 総論	1. 発生要因 2. 発症年齢と疾患 3. 症状 4. 予後	遺伝子異常 1) チアノーゼと貧血 2) 心室中隔欠損と自然閉鎖 3) チアノーゼ性心疾患の予後 4) 感染性心内膜炎とその予防 5) 急死
各論 新生児期発症	カテーテル治療 1. 完全大血管転位 2. 総肺静脈還流異常 3. 肺動脈閉鎖 4. 左室低形成 5. 大動脈縮窄	BAS（心房中隔裂開術） 無脾症 乳児型、成人型（単純型、複雑型）

大項目	中項目	小項目
乳児期発症	1. 心室中隔欠損 2. 房室中隔欠損 3. ファロー四徴症 4. 単心室とその類縁疾患	一次孔、二次孔 フォンタン型手術
幼児期ないしそれ以降の発症	1. 心房中隔欠損 2. 肺動脈弁狭窄 3. 大動脈弁狭窄	
Ⅱ. 小児の神経・筋疾患 総論	1. 発達の診察法 2. 症候の考え方 3. 検査法	痙攣、意識障害、運動麻痺 画像検査、脳波
各論		
(1) 中枢神経奇形	成因と発生機序	
(2) 周生期脳障害		
(3) 発作性疾患	1. てんかん 2. 熱性痙攣	症状、発作型分類、てんかん症候群分類 臨床症状、分類と特徴
(4) 神経皮膚症候群	成因	
(5) 脳性麻痺		臨床症状と検査 分類と臨床症状
(6) 中枢神経変性疾患		
(7) 中枢神経感染症	成因	
(8) 脳血管障害	1. 急性小児片麻痺 2. 特発性ウイルス動脈輪閉塞症（もやもや病）	
(9) 神経・筋疾患	1. 脊髄性筋萎縮症 2. 筋ジストロフィー 3. 先天性ミオパチー 4. 重症筋無力症	福山型、Duchenne 型
Ⅲ. 小児の腎・泌尿器系疾患		
腎の発達、および形態と機能	1. 腎機能の発達 2. 排尿機能の発達 3. 腎の形態 4. 腎の機能	1) 腎の血管系 2) 糸球体の構造 3) 尿細管の構造 4) 傍糸球体装置 1) 糸球体機能 2) 尿細管機能 3) 代謝機能
腎疾患各論	1. 糸球体疾患 2. 尿細管疾患 3. 尿路感染症 4. 嚢胞性腎疾患 5. 腎形成異常 6. 急性腎不全 7. 慢性腎不全	1) 急性糸球体腎炎 2) 慢性糸球体腎炎 3) ネフローゼ症候群 4) 二次性糸球体腎炎 5) 遺伝性腎炎 1) 尿細管機能異常症 2) 尿細管間質性腎症

大項目	中項目	小項目
IV. 小児の外科系疾患	1. 小児外科の定義	
総論	2. 小児外科の特殊性	
	3. 小児外科診察、検査のポイント	
各論	1. 消化器疾患	1) 先天性食道閉鎖症 2) 食道狭窄症 3) 肥厚性幽門狭窄症 4) 先天性十二指腸閉鎖症 5) 先天性腸閉鎖症 6) 腸回転異常症 7) メッケル憩室 8) 急性虫垂炎 9) 壊死性腸炎 10) ヒルシュスプルング病 11) 腸重積 12) 直腸肛門奇形
	2. 横隔膜疾患	1) 先天性横隔膜ヘルニア 2) 横隔膜弛緩症
	3. 腹壁疾患	1) 臍帯ヘルニア 2) 腹壁破裂 3) 臍ヘルニア 4) 鼠径ヘルニア
	4. 肝・胆道疾患	1) 胆道閉鎖症 2) 先天性胆道拡張症
	5. 固形腫瘍	1) 神経芽細胞腫 2) 腎芽腫（ウイルムス腫瘍） 3) 奇形腫群
V. 小児の代謝・ 内分泌疾患		
(1) 蛋白質・アミノ酸 代謝異常	1. フェニルケトン尿症 2. メープルシロップ尿症 3. 尿素サイクル系異常症	分類、臨床診断、治療 新生児代謝スクリーニング
(2) 脂質代謝異常症	1. スフィンゴリピドーシス 2. カルニチン代謝異常症	脂肪の分解と合成
(3) 糖代謝異常症	1. 糖尿病 2. ガラクトース血症 3. 低血糖症 4. 糖尿病	IDDM、NIDDM の発生機序 インシュリンの分泌 糖尿病昏睡、合併症、インスリノーマ 病型、臨床診断、治療
(4) 下垂体視床下部 異常症	1. 下垂体前葉機能異常症 2. 尿崩症	下垂体性低身長、骨年齢 中枢性尿崩症、頭蓋咽頭腫
(5) 甲状腺異常症	1. クレチン症 2. 橋本病	慢性甲状腺炎、病型、治療
(6) 副腎異常症	クッシング症候群 先天性副腎過形成	病型分類、病因、臨床症状、治療
(7) 性腺異常症	Turner 症候群 性早熟症	染色体検査 中枢性早熟症 末梢性（仮性）早熟症

大項目	中項目	小項目
VI. 小児の血液・ 悪性疾患 血液疾患	1. 貧血	1) 鉄欠乏性貧血 2) 失血性貧血 3) 溶血性貧血 4) 再生不良性貧血
	2. 出血性疾患	1) 血液凝固障害 2) 血管性紫斑病 3) 血小板の質的量的異常
	3. 白血病	
	4. 無顆粒細胞症	
悪性新生物	1. 総論	1) 頻度 2) 診断 3) 治療
	2. 主な悪性新生物	1) 脳腫瘍 2) 網膜芽細胞症 3) その他
VII. 小児のアレルギー ・免疫疾患 気管支喘息	1. 疫学 2. 病態生理 3. 症状 4. 診断 5. 治療	1) アレルギー素因 2) 気道の炎症 3) 発作時の気道の変化 1) 呼吸困難 2) 喘鳴
総論	1. 発生要因 2. 発症年齢と疾患 3. 症状 4. 予後	1) 発作時治療 2) 非発作時治療 3) 環境整備 4) 生活指導
膠原病	1. リュウマチ熱 2. 若年性関節リュウマチ 3. 全身性エリテマトーデス 4. 結節性動脈周囲炎 5. 皮膚筋炎 6. 混合性結合組織病 7. 川崎病	
原発性免疫不全症候群	1. 分類 2. 症状 3. 重症複合免疫不全症 4. 無ガンマグロブリン血症 5. 胸腺低形成 6. ウィスコット・ オールドリッチ症候群 8. 原発性食細胞異常症 9. 原発性補体低下症	デイ・ジョージ症候群 1) 慢性肉下腫症 2) 白血球粘着異常症

大項目	中項目	小項目
後天性免疫不全症候群 (AIDS)	1. 先天性 AIDS	
アレルギー性疾患	1. アレルギー性鼻炎 2. アトピー性皮膚炎 3. 蕁麻疹 4. 薬物アレルギー 5. 食物アレルギー	アレルギーマーチ
VIII. 小児の感染症		
感染症の分類 症候と検査	1. ウイルス感染症	1) 麻疹 2) 風疹 3) 水痘 4) その他
	2. 細菌感染症	1) 上気道感染症 2) 肺炎 3) 細菌性胃腸炎 4) その他
	3. その他	トキソプラズマ症
感染症の予防と治療	1. 予防接種 2. 抗生物質 3. 抗ウイルス剤	

評価方法：

試験により評価を行う

教科書

松尾宣武、濱中喜代 編 新体系看護学 小児看護学② メジカルフレンド社 2014
健康障害をもつ小児の看護 第5版

参考図書

内山 聖、原 寿郎、高橋孝雄 編 標準小児科学 医学書院 2009
飯沼一字、竹村 司 小児科学・新生児学テキスト 診断と治療社 2007
渡辺 博、有坂 治 編 中澤 誠 編 先天性心疾患 メジカルビュー社 2005
村田光範、浅井利夫 編 小児疾患生活指導マニュアル 南江堂 1997
大澤真木子 子どもの病気がよくわかる本 小学館 1999
大澤真木子 育児 Q&A 法研 2000
山高篤行、下高原昭廣 編 臨床ナースのための Basic & Standard シリーズ『小児外科看護の知識と実際』 メディカ出版 2010

〔病態学・各論Ⅲ（小児）〕

科目責任者 永田 智
 科目担当者 楠田 聡

目的

新生児期は子宮内環境から子宮外環境への適応の時期であるばかりでなく、諸臓器が急速に発達する時期である。それらの新生児の特性とそれにともなう問題点を学ぶことが大切である。

到達目標

1. 新生児に使用する用語の定義が理解できる。
2. 新生児に関する保健指標が説明できる。
3. 子宮内から子宮外生活に適応する過程が説明できる。
4. 出生直後の新生児を評価できる。
5. 新生児管理の基本について説明できる。
6. ハイリスク児の徴候を説明できる。
7. 新生児疾患について説明できる。
8. 母体疾患と新生児疾患の関係について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 新生児学総論	1. 新生児周産期統計	1) 周産期死亡率 2) 新生児死亡率 3) 諸外国との比較
	2. 用語の定義	1) 在胎期間 2) 低出生体重児 3) 早産児
	3. 胎児発育曲線	1) light-for-date 2) heavy-for-date 3) appropriate-for-date
	4. 新生児学の特徴	1) 医学的特徴 2) 医療的特徴
	5. 新生児の生理	1) 呼吸 2) 循環 3) 神経系 4) 消化器系 5) 代謝・内分泌系 6) 血液・免疫
II. 新生児学臨床	1. 新生児の診察	1) 分娩室における新生児診察 2) 成熟度評価 3) 新生児診察
	2. 新生児の一般的養護	1) 新生児管理の原則 2) 保温 3) 感染防止 4) 栄養 5) 母子関係 6) ハイリスク児の養護

大項目	中項目	小項目
	3. 新生児診断学	1) 主要な症状 2) 検査と評価 3) モニター機器と評価
	4. 新生児疾患各論	1) 神経・筋 2) 呼吸器 3) 循環器 4) 高ビリルビン血症 5) 代謝異常 6) 血液 7) 感染・免疫 8) 分娩外傷 9) 母体疾患と新生児
	5. その他	1) 新生児の予後 2) 新生児医療の倫理

成績評価の方法：

下記項目の知識について試験で評価する。

- ・周産期統計の意味を理解する。
- ・胎児から新生児への適応過程を説明できる。
- ・主たる新生児疾患の病態生理を説明できる。

教科書

なし

参考図書

佐地 勉、竹内義博、原 寿郎 編著	ナースの小児科学 改訂 5 版	中外医学社	2011
仁志田博司、楠田 聡	超低出生体重児	メジカルビュー社	2006
楠田 聡	イラストで学ぶ新生児呼吸管理	メディカ出版	2008

<講義スケジュール>

1	2014. 9.10	水	9:00~10:25	楠田 聡	新生児学総論（1）
2	9.18	木	9:00~10:25	楠田 聡	新生児学総論（2）
3	9.18	木	10:35~12:00	楠田 聡	新生児疾患各論（1）
4	9.24	水	9:00~10:25	楠田 聡	新生児疾患各論（2）
5	9.24	水	10:35~12:00	楠田 聡	新生児の診察と一般的養護
6	9.30	火	14:35~16:00	清水美妃子	小児の循環器疾患
7	10. 6	月	9:00~10:25	世川 修	小児の外科系疾患
8	10. 7	火	16:10~17:35	尾崎 恭子	小児の周術期管理
9	10.10	金	16:10~17:35	清谷知賀子	小児の血液・悪性腫瘍疾患
10	10.17	金	16:10~17:35	今井 薫	小児の感染症
11	10.20	月	13:00~14:25	近本 裕子	小児の腎・泌尿器疾患
12	10.28	火	13:00~14:25	舟塚 真	小児の神経・筋疾患
13	10.29	水	10:35~12:00	伊藤 康	小児の内分泌代謝疾患
14	10.31	金	13:00~14:25	永田 智	小児のアレルギー免疫疾患
15	11. 6	木	9:00~10:25	永田 智	試験

〔病態学・各論Ⅳ（母性）〕

科目責任者 松井 英雄

科目担当者 松井 英雄、高木耕一郎、牧野 康男、小川 正樹、
高木 俊一、村岡 光恵、橋本 和法、東館 紀子、
石谷 健、木原 真紀、秋澤 叔香

目的

妊娠の成立、妊娠の正常な経過および分娩による生体の生理学的変化、病理学的変化について論じる。
またこれらの異常経過における病態・生理・診断・治療について述べる。さらに、女性特有な疾患について論じる。

到達目標

看護実習の現場で役に立つように、正常妊娠と異常妊娠、分娩の生理と三要素、正常産褥と異常産褥ならびに不妊症に関して、基礎的な知識を取得することを到達目標とする。

大項目	中項目	小項目
I. 性と生殖器	1. 生殖器の形態と機能と 先天異常	1) 外性器 内性器 2) 骨盤内臓器 3) 骨盤内の脈管系、神経系 4) 正常画像と解剖 5) 性分化とその異常 6) 染色体異常 7) 性器の形態異常
	2. 婦人科診察と検査	1) 問診 2) 内診 3) 膣鏡診 4) 細胞診 5) コルポスコープ 6) 組織診 7) 子宮卵管造影 8) 子宮鏡・腹腔鏡
	3. 女性の性ホルモンの調 節機構と異常	1) 間脳・下垂体・卵巢ホルモンとフィードバック 機構 2) 月経・排卵とその機序 3) 月経異常
	4. 子宮の疾患 a. 子宮筋腫 b. 子宮頸癌 c. 子宮体癌	1) 病因 2) 症状 3) 診断 4) 病理組織 5) 治療
	5. 卵巢の疾患 a. 良性卵巢腫瘍 b. 悪性卵巢腫瘍	1) 分類 2) 症状 3) 診断 4) 病理組織 5) 治療

大項目	中項目	小項目
	6. 子宮内膜症	1) 定義 2) 病因 3) 症状 4) 診断 5) 治療
	7. 感染症	1) 分類
	a. STD	2) 症状
	b. 膣炎	3) 診断
		4) 治療
	8. 外陰の疾患	1) 炎症
		2) 腫瘍
	9. 生殖機能の加齢と老化	1) 更年期障害
		2) 性器の萎縮
		3) 性器の脱出・下垂
		4) ホルモン補充療法（HRT）
Ⅱ. 妊娠	1. 妊娠の成立	1) 受精の生理
		2) 受精卵の分割と輸送
		3) 着床
	2. 胎児の発生と発育	1) 臓器の形成
		2) 成長の評価
	3. 妊娠中の母体の生理的変化	1) 性器の変化
		2) 全身の変化
	4. 胎盤機能と形態	1) 胎児胎盤循環
		2) 内分泌
		3) ガス交換と物質代謝
	5. 正常妊婦の管理	1) 妊娠の診断
		2) 妊婦診察；健診
		3) Bishop スコア
	6. 異常妊娠	1) 定義
	a. 流産	2) 分類
	b. 早産	3) 原因
	c. 子宮外妊娠	4) 症状
	d. 絨毛性疾患	5) 診断
	e. 血液型不適合妊娠	6) 治療
	f. 前置胎盤	
	g. 多胎妊娠	
	h. 子宮内胎児発育遅延（IUGR）	
	i. 羊水過多・過少	

大項目	中項目	小項目
	7. 妊娠中毒症	1) 定義 2) 分類 3) 病因 4) 病態生理 5) 症状 6) 診断 7) 治療 8) 母児管理
	8. 産科 DIC	1) 原因
	a. 常位胎盤早期剥離	2) 症状
	b. 羊水塞栓	3) 診断
	c. 急性妊娠脂肪肝	4) 治療
	d. 子宮破裂	
	9. 合併症妊娠	1) 血液型不適合妊娠 2) 合併症
		a. 子宮筋腫
		b. 子宮頸癌 c. 膠原病 d. DM e. 心疾患 f. 甲状腺疾患 g. てんかん
Ⅲ. 不妊・避妊	1. 不妊症	1) 分類 2) 原因 3) 診断 4) 検査法 5) 治療
	2. 不育症	1) 分類 2) 原因 3) 診断 4) 検査法 5) 治療
	3. 体外受精・胚移植	
	4. リプロダクティブ・ヘルス	1) 避妊 a. 経口避妊薬 b. IUD c. 不妊手術 d. コンドーム
Ⅳ. 分娩	1. 分娩の生理	1) 産道
	2. 分娩の三要素	2) 娩出物
		3) 娩出力

大項目	中項目	小項目
V. 産褥	3. 正常分娩の経過と管理	1) 産徴 2) 分娩1期～3期 3) 破水 4) 児頭の位置、下降度 5) 回旋 6) 児の娩出 7) 胎盤の娩出
	4. 正常分娩の取扱い	1) 産婦の取扱い 2) 会陰切開
	5. 分娩異常	1) 病因
	a. 児頭骨盤不均衡 (CPD)	2) 定義 3) 処置
	b. 回旋異常	
	c. 骨盤位	
	d. 分娩停止	
	e. 産科手術	
	6. 妊娠中及び分娩時の麻酔	1) 妊娠時の生理学的変化 2) 妊娠中の麻酔 3) 無痛分娩 4) 帝王切開の麻酔
	7. 分娩監視と胎児仮死	1) 分娩監視装置 2) 陣痛曲線 3) 胎児心拍数図
	1. 正常産褥	1) 産褥の定義 2) 子宮復古 3) 悪露
	2. 異常産褥	1) 出血 2) 産褥熱 3) 乳汁分泌不全、乳腺炎 4) 産褥血栓症 5) 産褥精神病

評価方法

試験により評価を行う

教科書

森恵美 他編著	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論	医学書院	2012
池ノ上克・鈴木秋悦・高山雅臣 他編	NEW エッセンシャル産科学・婦人科学第3版	医歯薬出版	2004

参考図書

石原 理 監修	講義録 産科婦人科学	メディカルレビュー社	2010
太田博明 監修	エクセルナース薬シリーズ5「産婦人科編」	メディカルレビュー社	2002
金岡 毅、井槌邦雄 著	チャート9 産婦人科 [1]産科	医学評論社	2007
金岡 毅、井槌邦雄 著	チャート9 産婦人科 [2]婦人科	医学評論社	2008

＜講義スケジュール＞

1	2014. 9. 9	火	13:00～14:25	東舘 紀子	妊娠中の母体の生理現象，妊娠の成立， 胎児の発生と発育・胎盤機能と形態
2	9.11	木	9:00～10:25	松井 英雄	生殖器の形態と機能と先天異常
3	9.11	木	10:35～12:00	木原 真紀	不妊，不育，避妊，生理機能の加齢と老化
4	9.22	月	13:00～14:25	牧野 康男	分娩の生理，三要素，正常分娩の経過と管理
5	9.26	金	10:35～12:00	東舘 紀子	婦人科診察と検査，女性の性ホルモンの調節機構と異常
6	9.30	火	16:10～17:35	秋澤 叔香	合併症妊娠（子宮筋腫，頸癌，膠原病，DM，心疾患， 甲状腺疾患，てんかん）
7	10. 1	水	16:10～17:35	高木 俊一	妊娠中及び分娩時の麻酔
8	10. 6	月	16:10～17:35	橋本 和法	卵巣の疾患（良性，悪性）
9	10. 9	木	14:35～16:00	小川 正樹	異常妊娠（1）流産・早産・子宮外妊娠・絨毛性疾患， 妊娠高血圧症候群，産科DIC
10	10. 9	木	16:10～17:35	小川 正樹	異常妊娠（2）前置胎盤，FGR，羊水過多過少
11	10.27	月	16:10～17:35	橋本 和法	子宮内膜症・STD・膣炎・外陰の疾患
12	10.30	木	9:00～10:25	石谷 健	子宮の疾患（子宮筋腫，頸癌，体癌）
13	11. 4	火	16:10～17:35	高木耕一郎	分娩異常（CPD，回旋異常，骨盤位，分娩停止，産科手術）
14	11. 7	金	16:10～17:35	村岡 光恵	正常妊婦の管理，正常産褥，異常産褥
15	11.19	水	9:00～10:25	牧野 康男	試験

〔病態学・各論Ⅴ（老年）〕

科目責任者 水野 敏子

科目担当者 尾崎 恭子、坂井 志麻、原沢のぞみ、
成澤 明

目的

老年看護学の基礎的理解のために、老年期に起こりやすい疾病について、病態学・各論Ⅰ・Ⅱで学習している疾病の病態像を、老化という側面からとらえ直すことによって、高齢者に特徴的な病態・診断・治療について理解する。

到達目標

1. 老化とは何か、そのメカニズムについて説明できる。
2. 高齢者に多い心・脈管系と呼吸器系疾患の加齢変化を考慮した病態・診断・治療について説明できる。
3. 高齢者に多い骨・運動系疾患の加齢変化を考慮した病態・診断・治療について説明できる。
4. 高齢者に多い脳神経系疾患の加齢変化を考慮した病態・診断・治療について説明できる。
5. 高齢者に多いうつ病の病態・診断・治療について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 老化とは	1. 細胞の老化の特徴と、老化をもたらす内的・外的因子について	1) 変性、免疫機能低下、腫瘍変化 2) 物理的因子、感染性因子
II. 呼吸・循環と体温維持に関する老化	1. 心・脈管系と呼吸器系の加齢変化	1) 心不全 2) 肺炎 3) COPD
III. 運動と休息、余暇活動に関する老化	1. 骨・運動系の加齢変化 2. 脳神経系の加齢変化 3. 高齢者の精神障害	1) 骨粗鬆症 2) 変形性関節症 3) 腰痛症 1) 高次脳機能障害 2) パーキンソン病 1) うつ病

成績評価の方法：出席日数、試験結果、課題提出等により総合的に評価する。

教科書

水谷信子、水野敏子_他 最新 老年看護学 改定版 日本看護協会出版会 2011

参考図書

石合純夫 著 高次脳機能障害学 第2版 医学書院 2012

山田律子_他 生活機能からみた老年看護過程 医学書院 2012

+病態・生活機能関連図 第2版

内田淳正 監修 標準整形外科学 改定11版 医学書院 2011

佐藤千史 著 病態生理ビジュアルマップ1 医学書院 2010

呼吸器疾患／循環器疾患

落合慈之_他 循環器疾患ビジュアルブック 学習研究社 2010

馬場元毅 著	絵でみる脳と神経 第3版 ーしくみと障害のメカニズム(JJN ブックス)	医学書院	2009
奈良 勲・鎌倉矩子 監修	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 神経内科学	医学書院	2009
山浦晶・田中隆一 監修	標準脳神経外科学	医学書院	2008
小山珠美 著	脳血管障害による高次脳機能障害 ナーシングガイド 第3版	日総研出版	2005
日野原重明 _他 監修	看護のための最新医学講座第18巻 第2版 運動器疾患	中山書店	2005
祖父江元 著	看護のための最新医学講座第1巻 第2版 脳・神経系疾患	中山書店	2003
井上 泰 訳	これだけは知っておきたい疾病のなりたち	医歯薬出版	2000
山城守也 _他 編	ベッドサイド老年病学	南江堂	1994

＜講義スケジュール＞

1	2014. 9.10	水	10:35～12:00	原沢のぞみ	骨・運動系の加齢変化
2	9.25	木	16:10～17:35	尾崎 恭子	細胞の老化をもたらす内的・外的因子
3	10. 1	水	9:00～10:25	原沢のぞみ	骨・運動系の加齢変化
4	10. 1	水	10:35～12:00	成澤 明	心・脈管系と呼吸器系の加齢変化
5	10.20	月	14:35～16:00	成澤 明	心・脈管系と呼吸器系の加齢変化
6	10.20	月	16:10～17:35	坂井 志麻	脳神経系の加齢変化
7	11. 6	木	10:35～12:00	坂井 志麻	高齢者の精神障害
8	11.13	木	9:00～10:25	水野 敏子	試験

〔病態学・各論VI（精神）〕

科目責任者 田中美恵子

科目担当者 田中美恵子、濱田 由紀、小山 達也、
異儀田はづき、飯塚あつ子

目的

精神科疾患体系に基づき、主要な精神障害の病態についてグループワークを通して学ぶとともに、今日的な精神保健の問題状況を理解する。

到達目標

1. 精神医学の歴史から精神科における疾患体系と主たる治療法について説明できる。
2. 各精神障害の病態像・分類・症状・日本における統計的実態・経過と予後・治療の特徴を説明できる。
3. 各精神保健の問題について、状態・日本における統計的実態・経過・治療・支援システムについて説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 精神医学の歴史・疾患体系	1. 精神医学の歴史 2. 疾患体系 3. 精神科治療	1) 精神医学の歴史 2) DSM-IV-TR と ICD-10 3) 薬物療法、精神療法、社会療法
II. 精神障害の病態	1. 統合失調症（急性期・慢性期） 2. 気分障害 3. 不安障害 4. パーソナリティ障害 5. 摂食障害 6. 症状性を含む器質性精神障害 7. 物質関連障害（アルコール依存症、薬物依存症など） 8. 児童の精神障害	各精神障害における 1) 病態像、分類、症状 2) 日本における統計的実態 3) 経過と予後 4) 治療
III. 精神保健の問題	1. 自殺 2. 虐待 3. 不登校、引きこもり 4. その他	各精神保健の問題における 1) 状態 2) 日本における統計的実態 3) 経過 4) 治療 5) 支援システム

評価方法

出席状況、学習態度、課題提出等により総合的に評価する。

教科書

太田保之 編

学生のための精神医学 第2版

医歯薬出版

2006

参考図書

講義中に適宜紹介する

<講義スケジュール>

1	2014.10.27	月	13:00~14:25	田中美恵子 _{他*}	精神医学の歴史・疾患体系
2	11. 4	火	13:00~14:25	濱田 由紀	グループワーク①
3	11. 6	木	13:00~14:25	飯塚あつ子	グループワーク②
4	11. 7	金	13:00~14:25	小山 達也	グループワーク③
5	11.10	月	14:35~16:00	濱田 由紀	グループワーク④
6	11.17	月	13:00~14:25	飯塚あつ子 _{他*}	グループワークの発表①
7	11.17	月	14:35~16:00	小山 達也 _{他*}	グループワークの発表②
8	11.17	月	16:10~17:35	濱田 由紀 _{他*}	グループワークの発表③

*:田中美恵子、濱田由紀、小山達也、飯塚あつ子 担当

〔リハビリテーション〕

科目責任者 猪飼 哲夫

科目担当者 猪飼 哲夫、上久保 毅、百瀬 由佳、
岩本 卓水、角田 明子、待井 典子

目的

リハビリテーションは、障害を持った個人が可能な限りその能力を発揮できるように障害を軽減し、医学的・社会的に援助し、社会的不利をできるだけ少なくすることを目標とする。そのためには、医師と看護師以外にも多くの職種の関与が必要である。

看護師の任務は、リハビリテーション医療の重要な部位を占め、急性期においては全身状態の観察や、廃用症候群の予防、日常生活動作の早期自立に向けて看護を行う。そして、回復期から維持期においては、獲得した能力の維持・向上をはかり、精神的な支援や生活指導を行い、社会復帰に対して適切な助言が与えられるようになることを目的とする。

到達目標

リハビリテーションの概念、目的、治療方法について学び、理解することを到達目標とする。病棟などでの実習や、将来看護師になってから業務に役立つことが期待される。また、リハビリテーション看護は看護技術として重要な一分野になっており、学んだ知識はリハビリテーション看護で実践できる。

大項目	中項目	小項目
I. リハビリテーション	1. リハビリテーション医学概論	1) リハビリテーションの理念 2) リハビリテーション医学の歴史 3) 障害論 4) チーム医療 5) 地域リハビリテーション
	2. リハビリテーションの治療手段	1) リハビリテーション看護 2) 物理療法 3) 理学療法 4) 作業療法 5) 言語聴覚療法 6) 義肢・装具療法 7) 医療ソーシャルワーク
	3. 各疾患別リハビリテーション	1) 脳卒中のリハビリテーション 2) 脳外傷のリハビリテーション 3) 脊髄損傷のリハビリテーション 4) 切断のリハビリテーション 5) 骨・関節疾患のリハビリテーション 6) 小児のリハビリテーション 7) 神経・筋疾患のリハビリテーション 8) 呼吸・循環器疾患のリハビリテーション

成績評価の方法：出席日数、試験結果等により総合的に評価する。

教科書

石田 暉、宮野佐年 監 リハビリテーション科臨床マニュアル 医歯薬出版 2003

参考図書

米本恭三 監 最新リハビリテーション医学 第2版 医歯薬出版 2005
千野直一 編 現代リハビリテーション医学 改訂第3版 金原出版 2009
岡島康友 編 看護のための最新医学講座 第27巻 中山書店 2002
リハビリテーション・運動療法

<講義スケジュール>

1	2014. 9.26	金	13:00~14:25	猪飼 哲夫	リハビリテーション医学概論
2	9.26	金	14:35~16:00	岩本 卓水	理学療法概論
3	10. 1	水	13:00~14:25	上久保 毅	脳卒中・脳外傷のリハビリテーション
4	10. 1	水	14:35~16:00	上久保 毅	脊髄損傷のリハビリテーション
5	10.10	金	13:00~14:25	角田 明子	作業療法概論
6	10.10	金	14:35~16:00	待井 典子	言語聴覚療法概論
7	10.17	金	13:00~14:25	百瀬 由佳	小児・神経-筋疾患・呼吸器疾患・循環器疾患のリハビリテーション
8	10.17	金	14:35~16:00	猪飼 哲夫	試験

働きかけの基本・看護活動

〔成人看護学・概論〕

科目責任者 飯岡由紀子

科目担当者 飯岡由紀子、金子真理子、近藤 暁子

目的

成人の特徴を理解し、援助に必要な基本的知識を学び、看護実践にむけた基盤をつくる。

到達目標

1. 成人看護学の学習内容の構成要素について説明できる。
2. 生涯発達における成人の特徴について説明できる。
3. 成人に特有な健康問題や成人を取り巻く環境について説明できる。
4. 成人看護に必要な基礎的概念（自己効力感、エンパワーメント、家族システム論）について、説明できる。
5. 自己のセルフケアアセスメント・ストレスコーピングの検討を通して、セルフケア・ストレスコーピングの基本的概念について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 成人期にある対象者について総合的に理解する	1. 生涯発達における成人の特徴	1) 成人の特徴 2) 発達課題 3) 発達危機と健康問題
	2. 成人に特有な健康問題	1) 身体の変化 2) 生活習慣病 3) ヘルスプロモーション
	3. 成人を取り巻く環境	1) 現代社会と健康問題 2) 自殺の増加、格差社会など 3) 職業関連病
II. 成人期の特徴を考慮した看護のあり方を学ぶ	1. 固有の信念や生活様式をもつ人へのアプローチ	1) 自己効力感 2) エンパワーメント
	2. ストレス・コーピング	1) ストレス・コーピングの概念 2) 事例への適用
	3. セルフケア論	1) セルフケアの概念 2) オレムセルフケア理論 3) 自己のセルフケア・アセスメント
	4. 家族システム論	1) 家族システム論の概念

成績評価の方法：出席、試験、レポートによる。

教科書

大西和子^他 編

成人看護学概論（第2版）

ヌーヴェルヒロカワ

2012

参考図書

随時紹介

<講義スケジュール>

1	2014. 4. 9	水	13:00~14:25	飯岡由紀子	生涯発達における成人の特徴
2	4.10	木	10:35~12:00	飯岡由紀子	成人に特有な健康問題
3	4.11	金	9:00~10:25	飯岡由紀子	成人を取り巻く環境
4	4.11	金	10:35~12:00	近藤 暁子	セルフケアとは・家族システム
5	4.14	月	9:00~10:25	金子真理子	自己効力感・エンパワーメント
6	4.14	月	13:00~14:25	近藤 暁子	セルフケア・アセスメント
7	4.21	月	9:00~10:25	金子真理子	ストレス・コーピング
8	4.23	水	9:00~10:25	飯岡由紀子	試験

〔成人看護学・各論 I（健康各期の看護）〕

科目責任者 飯岡由紀子
 科目担当者 飯岡由紀子、金子眞理子、近藤 暁子、原 三紀子、
 原 美鈴、三浦美奈子、小林 礼実、鈴木香緒理、
 峯川美弥子、那須実千代

目的

さまざまな健康レベルにある成人期の対象者の特徴を学び、看護実践への適用について理解する。

到達目標

1. 成人看護学各論 I の学習内容の構成要素について説明できる。
2. 周手術期にある対象者の特徴と必要な看護について説明できる。
3. 慢性期にある対象者の特徴と必要な看護について説明できる。
4. リハビリテーション期にある対象者の特徴と必要な看護について説明できる。
5. 終末期にある対象者の特徴と必要な看護について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 成人看護学各論 I の概要	1. 成人看護学各論 I の構成要素	1) 成人看護学における各論 I の位置付け 2) 内容と各項目の相互関係
II. 周手術期にある対象者への看護	1. 周手術期看護の特徴	1) 周手術期とは 2) 手術療法の特徴 3) 周手術期看護の理念と専門性
	2. 周手術期にある対象者の理解と看護援助	1) 手術侵襲に対する生体反応 2) 術後疼痛 3) 手術を受ける患者とその家族の心理 4) ボディイメージの変容 5) 新たなセルフケア行動獲得の必要性
	3. 術後合併症の予防と対策	1) 術後合併症とは 2) 主要な術後合併症の予防と対策 ・呼吸器合併症 ・循環器合併症 他
	4. 周手術過程に応じた看護の実際：術前	1) 主体的な治療参加への支援 2) 手術に向けた準備 3) 手術室への入室
	5. 周手術過程に応じた看護の実際：術中	1) 手術の進行の概要 2) 手術室における看護師の役割
	6. 周手術過程に応じた看護の実際：術後	1) 術直後のモニタリング 2) 苦痛の緩和 3) 術後回復の促進 4) 自己管理に向けた援助

大項目	中項目	小項目
Ⅲ. 慢性期にある 対象者への看護	1. 慢性疾患をもつ 対象者の理解	1) 慢性疾患の種類と特徴 2) 慢性疾患とセルフケア 3) 慢性疾患とセルフマネジメント
	2. 慢性疾患をもつ 対象者への看護	1) 援助論 慢性疾患を持つ人のアセスメント 2) 援助論 慢性疾患患者の問題点の抽出 3) 援助論 慢性疾患患者の全体像の把握 4) 援助論 慢性疾患患者への支援方策
Ⅳ. リハビリテーション期にある対象者 への看護	1. リハビリテーション概論	1) リハビリテーションの歴史的変遷と定義 2) 障害の捉え方とノーマライゼーション 3) リハビリテーションの対象の特徴 4) ステージ別（予防的・急性期・回復期・維持期・終末期）リハビリテーションの特徴 5) リハビリテーション看護の目標と役割 6) 対象理解を深めるための概念ならびに諸理論：自己概念、ボディイメージ、自己決定、エンパワーメント、アドボカシー、障害受容（段階理論、価値転換理論）他
	2. 内部障害をもつ対象者の リハビリテーション	1) 内部障害をもつ対象者の特徴 2) 呼吸機能障害をもつ対象者のリハビリテーション看護 3) 循環機能障害をもつ対象者のリハビリテーション看護
	3. 脳神経難病をもつ対象者の リハビリテーション	1) 脳神経障害をもつ対象者の特徴ならびにアセスメントの視点 2) ステージ別リハビリテーション看護の実際 ①急性期から回復期 ②維持期から終末期 3) 障害別アプローチの実際 ①運動機能障害 ②高次脳機能障害 ③コミュニケーション障害
Ⅴ. 終末期にある対象 者への看護	1. 終末期の概念	1) 終末期と死の概念 2) Death Education の歴史と概念 3) 終末期の倫理的課題
	2. 終末期にある対象者の看護	1) 終末期にある対象者の特徴 2) 死の徴候と臨死期における看護
	3. 終末期にある対象者の 家族の支援	1) 終末期にある対象者の家族の特徴 2) 看取りとグリーフケア

成績評価の方法：

試験および提出課題によって評価する。

教科書

矢永勝彦 ^他 編	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 (第 10 版)	医学書院	2011
鈴木志津枝編	慢性期看護論 (第 3 版)	ヌーヴェルヒロカワ	2014

参考図書

数間恵子 ^他 編	手術患者の QOL と看護	医学書院	1999
雄西千恵美 ^他 編	周手術期看護論第 2 版	ヌーヴェルヒロカワ	2009
鎌倉やよい ^他	周術期の臨床判断を磨く	医学書院	2008
竹内登美子 編	高齢者と成人の周手術期看護第 2 版 術中術後の生体反応と急性期看護	医歯薬出版	2012
天羽敬祐 ^他 編	これだけは知っておきたい周手術期ケア Q&A	総合医学社	2004
加藤万利子 ^他 編	ビデオ周手術期の看護：術前・術中&術後	ナーシングニューメディア	1993
中西純子 ^他 編	リハビリテーション看護論第 2 版	ヌーヴェルヒロカワ	2008
清水哲郎 ^他 編	ケア従事者のための死生学	ヌーヴェルヒロカワ	2010

<講義スケジュール>

1	2014. 4.21	月	13:00~14:25	飯岡由紀子	各論 I の概要、慢性期看護1
2	4.23	水	10:35~12:00	三浦美奈子	周手術期看護1
3	4.25	金	16:10~17:35	原 三紀子	リハビリテーション看護1
4	4.28	月	13:00~14:25	飯岡由紀子	慢性期看護2
5	5.12	月	9:00~10:25	三浦美奈子	周手術期看護2
6	5.12	月	16:10~17:35	小林 礼実	リハビリテーション看護2
7	5.14	水	10:35~12:00	飯岡由紀子	慢性期看護3
8	5.15	木	13:00~14:25	三浦美奈子	周手術期看護3
9	5.16	金	14:35~16:00	原三紀子他*	慢性期看護4
10	5.21	水	16:10~17:35	小林 礼実	リハビリテーション看護3
11	5.22	木	9:00~10:25	三浦美奈子	周手術期看護4
12	5.26	月	16:10~17:35	原 三紀子	リハビリテーション看護4
13	5.27	火	13:00~14:25	原三紀子他*	慢性期看護5
14	5.29	木	13:00~14:25	三浦美奈子	周手術期看護5
15	6. 6	金	16:10~17:35	原 三紀子	リハビリテーション看護5
16	6. 9	月	14:35~16:00	原 美鈴	終末期看護1
17	6. 9	月	16:10~17:35	原三紀子他*	慢性期看護6
18	6.10	火	13:00~14:25	原 美鈴	終末期看護2
19	6.13	金	16:10~17:35	三浦美奈子	周手術期看護6
20	6.16	月	13:00~14:25	原三紀子他*	慢性期看護7
21	6.19	木	16:10~17:35	原 三紀子	リハビリテーション看護6
22	6.20	金	10:35~12:00	原三紀子他*	慢性期看護8
23	6.27	金	9:00~10:25	飯岡由紀子	試験

* : 飯岡由紀子、金子真理子、近藤暁子、原三紀子、原美鈴、三浦美奈子、小林礼実、鈴木香緒里、
 峯川美弥子、那須実千代 担当

〔成人看護学・各論Ⅱ（専門領域の探求）〕

科目責任者 飯岡由紀子

科目担当者 飯岡由紀子、金子真理子、原 三紀子、原 美鈴、

三浦美奈子、小林 礼実、鈴木香緒理、峯川美弥子、那須実千代

目的

さまざまな専門分野について学習し、看護実践への適用について理解する

到達目標

1. がんの病態と治療および治療を受ける対象者の特性と必要な看護について説明できる
2. クリティカルケアを必要とする対象者の特性と必要な看護について説明できる
3. 救急医療の概要、救急看護の展開について理解し、救急看護に必要な基本技術を実施できる
4. 災害医療の概要および看護の役割について説明できる
5. 緩和ケアの概念、歴史と緩和ケアにおける倫理、身体・精神症状とマネジメントについて理解し、緩和ケアを必要とする対象者の看護について説明できる

大項目	中項目	小項目
Ⅰ. がん看護	1. がん看護概論	1) がんという病気 2) 人口動態とがん 3) がん看護の特徴
	2. がんの病態と治療の特徴	1) がんの病態の特性 2) がんの診断と治療
	3. 治療を受ける対象者の看護	1) 手術療法と看護 2) 化学療法と看護 3) 放射線療法と看護 4) 代替補完療法
	4. がんサバイバーシップ	1) がんサバイバーシップの概念 2) がんサバイバーへの支援
Ⅱ. クリティカルケア看護	1. クリティカルケアの概念	1) クリティカルケアの定義 2) クリティカルケア看護の対象者
	2. クリティカルケアを必要とする対象者の理解	1) クリティカルケアが行われる治療環境 2) クリティカルケアが必要となる対象者の特徴 3) 危機理論
	3. クリティカルケアを必要とする対象者の看護	1) モニタリングとライフサポート 2) 合併症と二次障害の予防 3) 鎮痛・鎮静 4) 家族支援
	4. 人工臓器の概要	1) 臓器不全に対する医療体系 2) 人工臓器を必要とする人の特徴
	5. 人工臓器を必要とする対象者への看護	1) 人工腎臓と看護 2) 心不全の治療概要と看護
	6. 脳死の概念と生命倫理	1) 脳死判定方法 2) 脳死・臓器移植と生命倫理
	7. 臓器移植の概念と移植システム	1) 臓器移植とは 2) 移植システム
	8. 臓器移植各論	1) 腎移植看護 2) 心臓移植看護

大項目	中項目	小項目
Ⅲ. 救急看護	1. 救急医療の概要	1) 救急医療システム 2) 救命の連鎖 3) 重症度と緊急度 4) 救急医療におけるチームアプローチ
	2. 救急看護の展開	1) 救急患者の特徴 2) 救急患者のトリアージ 3) 救急患者の看護 1 (一次救急) 4) 救急患者の看護 2 (二次救急・三次救急) 5) 救急医療を受ける患者家族の特徴とケア
Ⅳ. 災害看護	1. 災害医療の概要	1) 災害医療システム 2) 災害医療の緊急対応の三原則 3) 災害時におけるチームの結成
	2. 災害医療における看護の役割	1) 災害時のトリアージ 2) 災害時の医療活動における他職種との協働
Ⅴ. 緩和ケア	1. 緩和ケアの概念と歴史	1) 歴史とその概念 2) トータルペインの理解と看護の役割
	2. 緩和ケアに関連した倫理的課題とチームアプローチ	1) 治療の意思決定 2) 鎮静 (セデーション) 3) アドバンスディレクティブ
	3. 身体・精神症状とマネジメント	1) 身体・精神症状・つらさのアセスメントとマネジメント
	4. 緩和ケアの具体的アプローチ	1) 緩和ケアにおけるコミュニケーション 2) ライフレビューインタビュー 3) デイグニティセラピー 4) 緩和ケアにおける認知行動療法
	5. 緩和ケアを必要とする対象者の理解と看護	1) 事例検討

成績評価の方法：試験結果、演習参加度、および課題提出により評価する。

教科書

鈴木志津枝_他 緩和・ターミナルケア看護論 (第2版) ニューヴェルヒロカリ 2011

参考図書

中谷寿男 編集 看護のための最新医学講座 25 救急 中山書店 2007
 山勢博彰 編集 救急看護論 ニューヴェルヒロカリ 2005
 小原真理子_他 監修 災害看護 心得ておきたい基本的な知識 改訂2版 南山堂 2012
 丸山征四郎 編著 経験から学ぶ大規模災害医療 対応・活動・処置 永井書店 2007
 遠藤恵美子 著 希望としてのがん看護 医学書院 2001
 季羽倭文子 監 がん看護学 三輪書店 2001
 大西和子_他 がん看護学：臨床に活かすがん看護の基礎と実践 ニューヴェルヒロカリ 2011
 小川節郎_他 緩和医療 東京大学出版会 2010
 今井浩三編集 看護のための最新医学講座 24 腫瘍の臨床 中山書店 2008

成人看護学・各論Ⅱ

近藤まゆみ^他編 がんサバイバーシップ
澤 芳樹 監修 重症心不全の治療
富澤康子 編 人工臓器
倉持 武 編集代表 脳死・移植医療

成人看護学・各論Ⅱ

医歯薬出版 2006
学研メディカル秀潤社 2010
日本人工臓器学会 2008
丸善出版 2012

<講義スケジュール>

1	2014. 5. 9	金	13:00～14:25	飯岡由紀子	がん看護1
2	5.12	月	13:00～14:25	峯川美弥子	救急看護1
3	5.21	水	13:00～14:25	峯川美弥子	救急看護2
4	5.26	月	9:00～10:25	峯川美弥子	救急看護3
5	5.28	水	9:00～10:25	原 美鈴 ^{他*}	救急看護4
6	5.28	水	10:35～12:00	原 美鈴 ^{他*}	救急看護5
7	6. 6	金	13:00～14:25	峯川美弥子	災害看護1
8	6.13	金	14:35～16:00	原 美鈴	がん看護2
9	6.17	火	13:00～14:25	原 美鈴	がん看護3
10	6.17	火	14:35～16:00	鈴木香緒理	クリティカルケア看護1
11	6.19	木	13:00～14:25	鈴木香緒理	クリティカルケア看護2
12	6.26	木	9:00～10:25	鈴木香緒理	クリティカルケア看護3
13	7. 3	木	9:00～10:25	金子真理子	緩和ケア1
14	7. 7	月	13:00～14:25	金子真理子	緩和ケア2
15	7. 7	月	14:35～16:00	金子真理子	緩和ケア3
16	7. 9	水	13:00～14:25	金子真理子	緩和ケア4
17	7. 9	水	14:35～16:00	金子真理子	緩和ケア5
18	9.12	金	16:10～17:35	小林 礼実	クリティカルケア看護4
19	9.17	水	10:35～12:00	小林 礼実	クリティカルケア看護5
20	10. 6	月	13:00～14:25	原 美鈴	がん看護4
21	10.10	金	10:35～12:00	原 美鈴	がん看護5
22	10.22	水	9:00～10:25	原 美鈴	がん看護6
23	10.27	月	9:00～10:25	飯岡由紀子	試験

*:飯岡由紀子、近藤暁子、原三紀子、原美鈴、三浦美奈子、小林礼実、鈴木香緒理、峯川美弥子、那須実千代 担当

〔成人看護学実習 I〕

科目責任者 飯岡由紀子

科目担当者 飯岡由紀子、金子真理子、近藤 暁子、原 三紀子、
原 美鈴、三浦美奈子、小林 礼実、鈴木香緒理、
峯川美弥子、那須実千代

目的

対象者に必要な先端医療を行う大学病院内の医療環境を理解し、根拠に基づいた看護を実践する。

到達目標

1. 病棟、手術室、集中治療室の構造と管理体制、対象者および治療・看護の特徴を理解することができる
2. 疾患・検査・治療について理解し、それらが対象者に及ぼす影響について記述することができる
3. フィジカルアセスメントやカルテの閲覧、コミュニケーションなど、さまざまな方法を用いて看護に必要な情報を得ることができる
4. 看護理論を用いて、身体的・心理的・社会的視点から対象者をアセスメントすることができる
5. アセスメントした事柄の関連性を図式化し、顕在的な看護問題から把握、記述することができる
6. 看護の方向性を踏まえ、看護目標を設定し、看護計画を立案することができる
7. 看護師および担当教員の指導のもと、安全・安楽に配慮しながら対象者の状態を踏まえた看護援助を実施することができる
8. 実施した看護について、対象者の反応を捉え、対象者に及ぼした影響を振り返り、記述することができる
9. 行動計画および実施した看護、自分の考えについて、看護師および担当教員に報告、相談することができる
10. 看護学生として自己のありようを振り返り、今後の課題を見出し、述べることができる

大項目	中項目	小項目
対象者に必要な先端医療を行う大学病院内の医療環境を理解し、根拠に基づいたより良い看護を実践する。	1. 病棟、手術室、集中治療室の構造、管理体制、対象者および治療・看護の概要を知る。	1) 病棟、手術室、集中治療室の構造、管理体制 2) 対象者、治療、看護の概要
	2. 様々な治療を受ける対象者のアセスメントを行い、看護の必要性を理解し、計画し、実施し、評価する。	1) 疾患、検査および治療の理解とそれらが対象者に及ぼす影響の記述 2) さまざまな方法を用いた看護に必要な情報収集 3) 身体的・精神的・社会的視点からのアセスメント 4) アセスメントの関連性の記述と顕在的看護問題の把握・記述 5) 看護の方向性、看護目標の設定と看護計画の立案 6) 安全・安楽に配慮した看護援助の実施
	3. より良い看護を提供するために、自己をふり返る。	1) 行動計画、実施した看護の報告、相談 2) 実施した看護および対象者に及ぼした影響の振り返りと自己の課題

実習方法

少人数のグループに分かれ、1人以上の対象者を受け持ち、指導者と共に看護を実践する。

成績評価の方法

出席、看護実践の成果、課題提出などにより総合的に評価する。

教科書

特に指定せず、随時必要な資料を配布する。

<講義スケジュール>

A、Bグループ共通

2014.12.12(金)	9:00~16:00	実習オリエンテーション
---------------	------------	-------------

Aグループ

2015. 1.14(水)~ 1.28(水)	9:00~17:35	病棟実習
------------------------	------------	------

Bグループ

2015. 1.30(金)~ 2.16(月)	9:00~17:35	病棟実習
------------------------	------------	------

*上記日程担当者：飯岡由紀子、金子真理子、近藤暁子、原三紀子、原美鈴、
三浦美奈子、小林礼実、鈴木香緒理、峯川美弥子、那須実千代

〔老年看護学・概論〕

科目責任者 水野 敏子
 科目担当者 水野 敏子、坂井 志麻、原沢のぞみ、
 成澤 明、渡邊 賢治

目的

高齢者は非常に多様な存在であることや、潜在的に本来持っている力を引き出す援助が老年看護において重要であることを理解する。これらを理解するために、高齢者の身体的、心理的、社会的特徴について学習し、統合された一人の人間としての理解や、倫理的感受性を高めるための学習をする。

到達目標

1. 老年期における健康の考え方について説明できる。
2. 老年期における発達課題について説明できる。
3. 高齢者の身体的、心理的、社会的特徴について説明できる。
4. 高齢者が保持している能力を活用しながら看護を展開する必要性と、その方法について説明できる。
5. 身体・精神機能の加齢変化を理解し、予防的視点から老年看護について説明できる。
6. 老年看護に応用される理論について述べるができる。
7. 高齢者に用いられる ADL 評価の指標を挙げて説明することができる。
8. 老年看護領域における倫理的問題について説明できる。
9. 老いることについて自らの考えを述べるができる。

大項目	中項目	小項目
I. 老年期を生きる人の理解	1. ライフサイクルと老年期	1) 老年期と発達 2) 老年期における学習と発達課題
	2. エイジングの考え方	1) 老年学における加齢の研究 2) 加齢変化とその影響
	3. 老年期における健康の考え方	1) 学習理論 2) マズローの健康論 3) ウェルネスの概念 4) 全体論的健康の概念
	4. 高齢者の QOL	1) QOL 概念の意味するもの 2) 長期ケア施設を利用する高齢者の QOL
	5. 高齢者と家族	1) 高齢者とともに暮らす家族 2) 高齢者の療養生活と介護
II. 老年看護の成り立ちと特質	1. 老年看護の定義と役割	1) 老年看護に期待される役割の場の広がり
	2. 老年看護を理解するための概念と理論	1) 老年看護学実践を支える概念と理論の重要性
III. 老年看護の倫理的課題	1. 「古い」のとらえ方の変遷と看護倫理	1) 「古い」と社会的背景 2) 「古い」の本質の追求と看護倫理のあり方
	2. 高齢者・病弱者の権利とアドボガシー	1) 患者の権利擁護をめぐる動向 2) 高齢者の権利擁護と看護のあり方

大項目	中項目	小項目
IV. 高齢者の健康アセスメントと看護	1. 身体・精神機能の加齢変化と看護	1) 呼吸循環の加齢変化 2) 感覚の加齢変化 3) 運動機能の加齢変化 4) 皮膚の加齢変化 5) 消化・呼吸の加齢変化 6) 精神・神経・心理機能（コミュニケーション含）の加齢変化
	2. 日常生活動作のアセスメントと看護	1) ADL・IADLのアセスメント 2) 高齢者の日常生活動作能力のアセスメントと看護
	3. 身体・精神機能の低下とその予防	1) 生活機能の低下とその予防（リハビリテーション・老年症候群の予防含）

成績評価の方法：出席日数、試験結果、レポート提出等により総合的に評価する。

教科書

水谷信子、水野敏子^他 最新 老年看護学 改定版 日本看護協会出版会 2011

参考図書

厚生統計協会	国民衛生の動向	厚生統計協会	年刊
厚生労働省 編	厚生労働白書	日経印刷	年刊
内閣府 編	高齢社会白書	内閣府	年刊
日野原重明(監修)	臨床老年医学入門 第2版	医学書院	2013
エルシー・L・バンドマン ^他 / 木村利人 監訳	いのちと向き合う看護と倫理	人間と歴史社	2010
日本老年医学会 編	老年医学テキスト 改定第3版	メジカルビュー社	2008
三浦文夫 編	図説高齢者白書 2006年度版	全国社会福祉協議会	2007
鳥羽研二 編	老年症候群の診かた	メジカルビュー社	2004
鷺田 一 著	老いの空白 シリーズ生きる思想	弘文堂	2003
大貫敬一 著	適応と援助の心理学 適応編	培風館	1998
東京都老人総合研究所	サクセスフル・エイジングー老化を理解するために	ワールドプランニング	1998
水野 肇、青山英康 編著	PPK (ピンピンコロ) のすすめ 一元気に生き抜き、病まずに死ぬ	紀伊国屋書店	1998
葛谷文男、井口昭久編	高齢者における基準値のみかた	診断と治療社	1997
岡村清子 著	テキストブックエイジングの社会学	日本評論社	1997
木下康仁 著	ケアと老いの祝福	勁草書房	1997
柴田 博 ^他	高齢者の食生活と栄養	光生館	1994
柴田 博 著	元気に長生き元気に死のう老後の健康常識のウソ	保健同人社	1994
ハンシー・J・オズグット	老人と自殺 老いを排除する社会	春秋社	1994
日本化学会 編	健やかに老いるー (一億人の化学)	大日本図書	1992
井上勝也、荒木乳根子 著	現代のエスプリ 301 老いと性	至文堂	1992
柴田 博 著	老人保健活動の展開	医学書院	1992
梶 博久、吉沢 勲 著	老人の性	中央法規出版	1988
大工原秀子 著	老年期の性	ミネルヴァ書房	1979
霜山徳爾 著	人間へのまなざし	中央公論新社	1977
シモヌ・ト・ボーヴァール 著	老い 上下巻 新装版	人文書院	2013

<講義スケジュール>

1	2014.10. 6	月	14:35~16:00	水野 敏子	老年期を生きる人の理解
2	10.15	水	10:35~12:00	水野 敏子	老年看護の成り立ちと特質
3	10.27	月	14:35~16:00	水野 敏子	老年期における「健康と暮らし」
4	10.31	金	10:35~12:00	水野 敏子	高齢者の個人史から学ぶ(価値観や考え方に与えた人生の出来ごと)
5	11. 4	火	14:35~16:00	坂井 志麻	身体・精神機能の加齢変化と看護(課題の提示)
6	11. 5	水	9:00~10:25	原沢のぞみ他*	身体・精神機能の加齢変化と看護(高齢者体験:演習 / 課題学習)
7	11. 5	水	10:35~12:00	原沢のぞみ他*	身体・精神機能の加齢変化と看護(高齢者体験:演習 / 課題学習)
8	11. 7	金	9:00~10:25	原沢のぞみ他*	身体・精神機能の加齢変化と看護(高齢者体験:演習 / 課題学習)
9	11. 7	金	10:35~12:00	原沢のぞみ他*	身体・精神機能の加齢変化と看護(高齢者体験:演習 / 課題学習)
10	11.10	月	13:00~14:25	坂井 志麻	身体・精神機能の加齢変化と看護(課題の解説)
11	11.12	水	9:00~10:25	成澤 明	日常生活動作のアセスメント
12	11.12	水	10:35~12:00	坂井 志麻	活動機能の低下とその予防
13	11.13	木	14:35~16:00	水野 敏子	権利とアドボカシー
14	11.18	火	9:00~10:25	水野 敏子	高齢者と家族
15	11.21	金	9:00~10:25	水野 敏子	試験

*:原沢のぞみ、坂井志麻、成澤明、渡邊賢治、水野敏子、 担当

〔小児看護学・概論〕

科目責任者 日沼 千尋

科目担当者 日沼 千尋、奥野 順子、関森みゆき、
青木 雅子、櫻田 章子

目的

小児看護の概要を理解し、看護の対象である子どもの成長・発達と各発達段階の特徴を学ぶ。

到達目標

1. 小児看護の概要（目的、対象、場、方法、関連職種）について説明することができる。
2. 社会における子どもの位置づけについて、文化、法律、社会保障制度、教育の視点から説明することができる。
3. 権利の主体者としての子どもの捉え方と子どもの権利を守る看護について説明できる。
4. 子どもの生活に関わる小児保健と小児医療の現状について説明できる。
5. 現代の子どもの健康をめぐる課題について説明できる。
6. 子どもの成長・発達の原則と理論、発達に関する評価について説明できる。
7. 子どもの発達段階と生活の特徴について説明することができる。

大項目	中項目	小項目
I. 小児看護の概要	1. 小児看護とは	1) 小児看護の目的 2) 小児看護の対象と場 3) 小児看護に関わる職種 4) 小児看護の特殊性 5) 小児看護学における子どもの捉え方
	2. 社会における子どもの位置づけ	1) 歴史的な位置づけ 2) 法的な位置づけ 3) 地域社会・家庭における位置づけ
	3. 子どもの権利と小児看護	1) 子どもの意思決定と看護 2) 子どもの最善の利益を守る看護
	4. 小児保健と小児医療	1) 小児保健医療の概念と目的 2) 小児保健医療の動向 3) 小児の保健医療施策 4) 子どもの健康をめぐる課題
II. 子どもの成長・発達と生活	1. 成長・発達とは	1) 成長・発達の概念 2) 成長・発達の一般的な原則 3) 成長・発達に影響を与える因子 4) 発達段階と発達課題 5) 発達理論 6) 発達評価と環境評価
	2. 発達段階と子どもの生活行動	1) 乳児 2) 幼児 3) 小学生・中学生

評価方法

試験 60%、課題 40%、出席状況から評価する。

課題の内容	レポート 1	「現代の子どもの健康問題」	10%
	レポート 2	「乳児・幼児の観察」	10%
	課題	「試験問題の作成」	20%

教科書

松尾宣武、濱中喜代 編 新体系看護学全書
小児看護学①小児看護概論・小児保健 第 5 版
メヂカルフレンド社 2014

参考図書

松尾宣武、濱中喜代 編 新体系看護学全書
小児看護学②健康障害をもつ小児の看護 第 5 版
メヂカルフレンド社 2014

山元恵子 監修 写真でわかる小児看護技術 改訂第 2 版
インターメディカ 2011

オリエンテーションおよび講義中に資料を配布し紹介する

<講義スケジュール>

1	2014. 9. 17	火	9:00~10:25	日沼 千尋	小児看護学の理念・小児看護の概要
2	10. 7	火	14:35~16:00	奥野 順子 ^{他*}	小児保健 現代の子どもの健康をめぐる課題
3	10.10	金	9:00~10:25	日沼 千尋	小児保健 現代の子どもの健康に関する施策
4	10.16	木	14:35~16:00	関森みゆき	成長・発達とは
5	10.17	金	10:35~12:00	関森みゆき	子どもの成長発達と生活行動1 乳児
6	10.22	水	10:35~12:00	奥野 順子	子どもの成長発達と生活行動2 幼児
7	10.28	火	14:35~16:00	日沼 千尋	子どもの成長発達と生活行動3 小学生・中学生
8	12. 1	月	9:00~10:25	日沼 千尋	試験

*:奥野順子、関森みゆき、青木雅子、櫻田章子、日沼千尋

〔精神看護学概論〕

科目責任者 田中美恵子

科目担当者 田中美恵子、濱田 由紀、小山 達也、
異儀田はづき、飯塚あつ子

目的

主に人間の精神の構造と機能、精神科医療に関する法制度について理解することにより、精神の健康の保持増進、精神の健康障害の予防、および一旦精神障害を来した人々に対する看護の基礎となる理論や知識を学習する。

到達目標

1. 精神看護の目的、機能、倫理について説明できる。
2. 精神障害者へのセルフケア看護について説明できる。
3. 心の構造と働き、および生物的観点から心を理解し、心理・社会的な発達について説明できる。
4. 現代社会におけるストレス、および災害時のメンタルヘルスの問題と援助について理解し説明できる。
5. 精神科医療や精神看護の歴史を理解し、関連法規ならびに制度について説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 精神看護学とは	1. 精神看護の目的と機能	1) 精神看護の目的・機能 2) 精神看護における倫理 3) 精神障害者へのセルフケア看護
II. 精神保健論	1. 心の理解	1) 心の構造と働き
	2. 心の成長発達	1) ライフステージと心身の発達 2) 心理・社会的発達と危機
	3. 精神保健と環境・社会	1) 現代社会とストレス 2) 災害時のメンタルヘルス
III. 歴史および法と制度	歴史および法と制度の理解	1) 精神科医療と看護の歴史 2) 法と制度の動向と現状

評価方法

出席状況、学習態度、課題提出等により総合的に評価する

教科書

田中美恵子 編著 「精神看護学」 学生・患者のストーリーで綴る実習展開 医歯薬出版 2001

参考図書

講義中に適宜紹介する

<講義スケジュール>

1	2014.11.18	火	10:35~12:00	田中美恵子	精神看護の目的と機能
2	11.19	水	10:35~12:00	飯塚あつ子	精神障害者へのセルフケアの看護
3	11.21	金	10:35~12:00	濱田 由紀	心の構造と働き
4	11.25	火	10:35~12:00	飯塚あつ子	心の成長発達
5	11.28	金	10:35~12:00	小山 達也	歴史および法と制度の理解1
6	12. 1	月	14:35~16:00	小山 達也	歴史および法と制度の理解2
7	12. 4	木	10:35~12:00	濱田 由紀	現代社会とストレス
8	12. 8	月	13:00~14:25	小山 達也	災害時のメンタルヘルス

〔母性看護学・概論〕

科目責任者 小川久貴子

科目担当者 小川久貴子、宮内 清子、鈴木小弥香

目的

女性のライフステージを通じた母性看護学が担う責務・活動内容と今後の課題を理解し、ヘルスケアについて学習する。

到達目標

1. 母性看護学の特性および展望を述べることができる。
2. 現代社会における女性の取り巻く事象を多角的に解釈できる。
3. 女性のライフステージにおけるホルモンの変化と身体的変化について述べるができる。
4. 更年期・老年期の女性の特性とヘルスケアについて述べるができる。
5. 思春期における女性の特性とヘルスケアについて述べるができる。
6. 女性のライフステージにおける家族計画の特性と支援について述べるができる。

大項目	中項目	小項目
I.母性看護学概論	1. 母性看護学の特性および展望	1) 母性とは 2) 母性看護学の意義・役割 3) 母性看護学の課題 4) 女性を取り巻く社会 5) 世界の人口動態と母子保健
II.女性のライフステージ	1. 女性のホルモン変化と身体的変化	1) 女性の生涯各期におけるホルモンの変化と身体的変化
	2. 更年期・老年期	1) 更年期・老年期とは 2) 更年期・老年期の特性 3) 更年期・老年期の発達課題と健康教育
	3. 思春期	1) 思春期とは 2) 思春期の特性 3) 思春期の発達課題と健康教育
	4. 家族計画	1) 家族計画の理念 2) 家族計画の特性と支援 3) 受胎調節法の種類と具体的方法

評価方法

出席状況、試験結果にて評価を行う

教科書

- | | | | |
|----------------------|--------------------------------|-------|------|
| 久米美代子、飯島治之 編著 | ウーマンズヘルス
「女性のライフステージとヘルスケア」 | 医歯薬出版 | 2013 |
| 森恵 美 _他 編著 | 系統看護学講座 専門分野II 母性看護学概論 第12版 | 医学書院 | 2012 |

<講義スケジュール>

1	2014. 9. 8	月	9:00~10:25	小川久貴子	母性（女性）看護学の概念および特徴
2	9. 9	火	14:35~16:00	宮内 清子	世界の人口動態と母子保健
3	9.12	金	10:35~12:00	宮内 清子	更年期・老年期の健康問題と健康教育
4	9.16	火	16:10~17:35	小川久貴子	女性の生涯各期におけるホルモンと身体の変化
5	9.22	月	9:00~10:25	小川久貴子	思春期の健康問題と健康教育
6	9.25	木	9:00~10:25	鈴木小弥香	家族計画
7	9.25	木	10:35~12:00	鈴木小弥香	家族計画
8	9.29	月	9:00~10:25	小川久貴子	試験

〔フィジカルアセスメント〕

科目責任者 飯岡由紀子
 科目担当者 飯岡由紀子、金子真理子、近藤 暁子、
 原 三紀子、原 美鈴、三浦美奈子、
 小林 礼実、鈴木香緒理、峯川美弥子、
 那須実千代、荒井 純子、尾崎 恭子

講義概要：フィジカルアセスメントの基本技術を学び、看護実践への適用を理解する。

到達目標

1. フィジカルアセスメントの概念、目的、および基本技術を説明できる。
2. インタビューイングの目的、方法、および内容を説明できる。
3. フィジカルアセスメントを実施する上でふさわしい態度で対象者への配慮などを理解し、行動できる。
4. 脳神経系、消化器系、呼吸器系、循環器系、感覚器・筋骨格系のアセスメントに必要な項目、目的、方法、留意点、および記述内容を説明することができる。
5. フィジカルアセスメントを行った結果から、正常または正常からの逸脱を判断し説明することができる。
6. 上記 5 の基本的なフィジカルアセスメントについて、対象者に目的・方法を説明し、実施し、それらの結果を判断し、対象者に伝え、記述することができる。

大項目	中項目	小項目
I. フィジカルアセスメント概論	1. フィジカルアセスメントの概要を理解する 2. フィジカルアセスメントに必要な技術の理解	1) フィジカルアセスメントの基本とインタビュー 2) 消化器系のアセスメント 3) 脳神経系のアセスメント 4) 呼吸器系・循環器系のアセスメント 5) 感覚器・筋骨格系のアセスメント
II. フィジカルアセスメントの実際	1. フィジカルアセスメントの基本技術の習得 2. フィジカルアセスメントの結果を正確に判断する	1) 消化器系のアセスメント演習 2) 脳神経系のアセスメント演習 3) 呼吸器・循環器系のアセスメント演習 4) 感覚器・筋骨格系のアセスメント演習 5) インタビューイングと全身のアセスメント演習

成績評価の方法：演習課題および試験結果により総合的に評価する。

教科書

特に指定せず、随時必要な資料を配布する。

参考図書

日野原重明 編 フィジカルアセスメント ナースに必要な診断の知識と技術 医学書院 2006
 山内豊明 フィジカルアセスメントガイドブック 医学書院 2011
 目と手と耳でここまでわかる第2版

参考 DVD

山内豊明教授のフィジカルアセスメント 第1巻～第10巻 京都科学 2004

<講義スケジュール>

1	2014. 4. 9	水	14:35~16:00	原 三紀子	フィジカルアセスメント概論・インタビューイング
2	4.10	木	9:00~10:25	原 美鈴	消化器系のアセスメント
3	4.11	金	16:10~17:35	原 三紀子	脳神経系のアセスメント
4	4.14	月	14:35~16:00	原 三紀子 原 美鈴 ^他 *1	フィジカルアセスメント演習1 (脳神経・消化器)
5	4.14	月	16:10~17:35	原 三紀子 原 美鈴 ^他 *1	フィジカルアセスメント演習2 (脳神経・消化器)
6	4.15	火	13:00~14:25	小林 礼実	呼吸器系のアセスメント
7	4.17	木	13:00~14:25	小林 礼実	循環器系のアセスメント
8	4.18	金	14:35~16:00	原 三紀子	感覚器系・筋・骨格系のアセスメント
9	4.21	月	14:35~16:00	原 三紀子 小林 礼実 ^他 *1	フィジカルアセスメント演習3 (感覚器・呼吸・循環)
10	4.21	月	16:10~17:35	原 三紀子 小林 礼実 ^他 *1	フィジカルアセスメント演習4 (感覚器・呼吸・循環)
11	4.28	月	14:35~16:00	原 三紀子 ^他 *2	フィジカルアセスメント技術試験
12	4.28	月	16:10~17:35	原 三紀子 ^他 *2	フィジカルアセスメント技術試験
13	5. 9	金	14:35~16:00	原 三紀子 ^他 *1	フィジカルアセスメント演習5(統合)
14	5. 9	金	16:10~17:35	原 三紀子 ^他 *1	フィジカルアセスメント演習6(統合)
15	5.15	木	9:00~10:25	飯岡由紀子	試験

*1:原三紀子、原美鈴、小林礼実、飯岡由紀子、三浦美奈子、鈴木香緒理、峯川美弥子、那須実千代、荒井純子、尾崎恭子

*2:原三紀子、原美鈴、小林礼実、飯岡由紀子、金子真理子、近藤暁子、三浦美奈子、鈴木香緒理、峯川美弥子、那須実千代

人間性を育む

〔英語 I - 2 チャレンジ・クラス〕

科目責任者 木村みどり

科目担当者 木村みどり

目的

英語 I - 2 チャレンジ・クラスは、比較的高い英語能力を有する学生、また、英語能力を磨きたいという学習意欲の高い学生のために設けられたクラスである。Alverno, HPU の学生が本学訪問の際、中心となって交流できるようなコミュニケーション能力を養成する。また、大学院への進学、海外留学、海外での就職などを念頭に入れ、より高度なレベルでの英語と専門分野との融合を目指す。

到達目標

1. 看護の場における基本的な英会話を習得する。
2. 看護について書かれた簡単な英語説明文を理解できる。
3. 看護現場で使用される基本的医学用語を英語で理解、使用できる。
4. 日本文化を紹介したり、簡単な看護のテーマについて英語で話し合える。
5. 英語によるプレゼンテーション・スキルを習得する。

大項目	中項目	小項目
I. 臨床看護英会話	1. 患者と看護師の英語による基本的な受け答え	1) 基本的な挨拶 2) ヒストリーテイキング 3) 入院手続き 4) 病院内での日課、規則 5) 痛みの表現 6) 検査 7) 与薬
	2. 基本的医学看護英語の習得	1) 身体の名称 2) 内臓器官の名称 3) 科の名称 4) 病気の名称
II. 看護分野の英文講読	1. 医療、看護という専門分野の英語に親しむ	1) 看護・医療の専門用語を身につける 2) 英文講読に必要な基本的な英語力を高め (イディオム、構文、基本的文法事項)
	2. ナースとしてのあり方、患者への接し方、様々な患者の受けとめ方を事例から学ぶ	1) 日常の医療の現場で起きている問題 (小児、老人、障害者、末期患者) について知る 2) 様々な種類の看護師の仕事を、日本・海外の事例から学ぶ
III. 専門領域に関心を持つ	1. 自分の関心のある研究テーマを見つける	1) インターネットを利用して発表テーマに関して情報を収集する
	2. 英語による研究発表のスキルを身につける	2) パワーポイントの使用方法をマスターする 3) 資料の整理、発表構成方法を学ぶ 4) プレゼンテーションに必要な英語表現を身につける

成績評価の方法：

看護英語統一テスト、期末テスト、課題提出、プレゼンテーション、出席、の総合で行う。

教科書

知念クリスティーン	「クリスティーンのやさしい看護英会話」	医学書院	1995
迫 和子、ジェーン・ハーランド	「ロッタとハナの楽しい基本看護英語」	医学書院	2011

<講義スケジュール>

1	2014. 4.15	火	9:00~10:25	木村みどり	Unit 1, 2, 3 看護英会話の基本 (クリスティーン)
2	4.15	火	10:35~12:00	木村みどり	Chapter 1 Lotta & Hanna
3	4.22	火	9:00~10:25	木村みどり	Unit 4: What department do you want to visit? (クリスティーン)
4	4.22	火	10:35~12:00	木村みどり	Chapter 2: Visiting the doctor
5	5.13	火	9:00~10:25	木村みどり	5月21日 HPU 学生との授業 (日本文化紹介)
6	5.13	火	10:35~12:00	木村みどり	5月21日 HPU 学生との授業 (日本語指導)
7	5.20	火	9:00~10:25	木村みどり	Unit 5: What are your symptoms? (クリスティーン)
8	5.20	火	10:35~12:00	木村みどり	Chapter 3: Our busy hospitals
9	5.27	火	9:00~10:25	木村みどり	Unit 6: Where is the X-ray department? (クリスティーン)
10	5.27	火	10:35~12:00	木村みどり	Chapter 4: A New Family Member
11	6. 3	火	9:00~10:25	木村みどり	Unit 7: Where does it hurt? (クリスティーン)
12	6. 3	火	10:35~12:00	木村みどり	Chapter 5: My Daughter's Arrival
13	6.10	火	9:00~10:25	木村みどり	Review クリスティーン
14	6.10	火	10:35~12:00	木村みどり	Review Lotta & Hanna
15	6.17	火	9:00~10:25	木村みどり	会話テスト
16	6.17	火	10:35~12:00	木村みどり	Unit 8: Have you ever had any serious illnesses?(クリスティーン)
17	6.24	火	9:00~10:25	木村みどり	Unit 9: Take one tablet, four times a day(クリスティーン)
18	6.24	火	10:35~12:00	木村みどり	Chapter 6: Grandpa's Birthday
19	10. 7	火	9:00~10:25	木村みどり	Unit 10: Let me make an appointment for your test.(クリスティーン)
20	10. 7	火	10:35~12:00	木村みどり	Chapter 7: Grandma's House
21	10.14	火	9:00~10:25	木村みどり	Unit 11: Your surgery will be tomorrow at 9 a.m.(クリスティーン)
22	10.14	火	10:35~12:00	木村みどり	Chapter 8: Living Independently
23	10.21	火	9:00~10:25	木村みどり	Unit 12: How are you feeling today? (クリスティーン)
24	10.21	火	10:35~12:00	木村みどり	Chapter 10: Hospital Training Begins
25	10.28	火	9:00~10:25	木村みどり	Chapter 11: Tough, but Rewarding
26	10.28	火	10:35~12:00	木村みどり	会話テスト
27	11. 4	火	9:00~10:25	木村みどり	Presentation 準備
28	11. 4	火	10:35~12:00	木村みどり	Presentation 準備
29	11.11	火	9:00~10:25	木村みどり	単語共通テスト
30	11.11	火	10:35~12:00	木村みどり	Presentation

〔英語 I - 2〕

科目責任者 木村みどり

科目担当者 櫻井 拓也

目的

基礎英語力の定着化、そして、看護という専門分野の英語を磨くこと。講読と会話の両方を一つの授業の中で行うことによって、それらの 4 技能が自然な形で融合され、さらに英語を通して専門分野の仕事に関心が高められることが期待される。

到達目標

1. 看護英会話として、平易かつ必須の日常会話の場面や表現に慣れる。
2. 基本的な医療用語の習得。
3. 看護・医療場面のさまざまなエピソードを扱った英文を読むことで、英文読解の基本を確認しながら、専門用語を含む英文および事例に慣れる。

大項目	中項目	小項目
I. 臨床看護英会話	1. 患者と看護師の英語による基本的な受け答え	1) 基本的な挨拶 2) ヒストリーテイキング 3) 入院手続き 4) 病院内での日課、規則 5) 痛みの表現 6) 検査 7) 与薬
	2. 基本的医学看護英語の習得	1) 身体の名義 2) 内臓器官の名義 3) 科の名義 4) 病気の名義
II. 看護分野の英文講読	1. 医療、看護という専門分野の英語に親しむ	1) 看護・医療の専門用語を身につける 2) 英文講読に必要な基本的な英語力を高める (イデオム、構文、基本的文法事項)
	2. ナースとしてのあり方、患者への接し方、様々な患者の受けとめ方を事例から学ぶ	1) 日常の医療の現場で起きている問題 (小児、老人、障害者、末期患者) について知る 2) 様々な種類の看護師の仕事を、日本・海外の事例から学ぶ

成績評価の方法：出席日数、試験結果、課題提出等により総合的に評価する。

教科書

知念クリスティーン	クリスティーンのやさしい看護英会話	医学書院	1995
迫 和子・ジェーンハーランド	ロッタとハナの楽しい基本看護英語	医学書院	2011

<講義スケジュール>

1	2014. 4.15	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Unit 1: Please speak more slowly
2	4.15	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Unit 2: Where are you from?
3	4.22	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Unit 3: Could you tell me...
4	4.22	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Chapter 1: Lotta & Hanna
5	5.13	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Unit 4: What department...
6	5.13	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Chapter 2: Visiting the doctor
7	5.20	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Unit 5: Where is the X-ray department?
8	5.20	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Chapter 3: Our busy hospitals
9	5.27	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Unit 6: What are your symptoms?
10	5.27	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Chapter 4: A new family
11	6. 3	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Unit 7: Where does it hurt?
12	6. 3	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Chapter 5: My daughter's arrival
13	6.10	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Chapter 6: Grandpa's birthday
14	6.10	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Review
15	6.17	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Midterm Exam
16	6.17	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Chapter 7: Granma's house
17	6.24	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Unit 8: Have you ever had...
18	6.24	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Chapter 8: Living independently
19	10. 7	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Unit 9: Take one tablet...
20	10. 7	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Chapter 9: Everyone is different
21	10.14	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Unit 10: Let me make an appointment...
22	10.14	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Chapter 10: Hospital training begins
23	10.21	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Unit 11: Your surgery will be tomorrow...
24	10.21	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Chapter 11: Tough, but rewarding
25	10.28	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Unit 12: How are you feeling today?
26	10.28	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Chapter 12: In the future
27	11. 4	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Review (看護英会話)
28	11. 4	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Review (基本看護英語)
29	11.11	火	9:00~10:25	櫻井 拓也	Final Exam
30	11.11	火	10:35~12:00	櫻井 拓也	Final Exam

〔英語 I - 2〕

科目責任者 木村みどり
科目担当者 設楽 靖子

目的

基礎英語力の定着化、そして、看護という専門分野の英語を磨くこと。講読と会話の両方を一つの授業の中で行うことによって、英語使用の 4 技能が自然な形で融合され、さらに英語を通して専門分野の仕事に関心が高められることが期待される。

到達目標

1. 看護英会話として、平易かつ必須の日常会話の場面や表現に慣れる。
2. 基本的な医療用語の習得。
3. 看護・医療場面のさまざまなエピソードを扱った英文を読むことで、英文読解の基本を確認しながら、専門用語を含む英文および事例に慣れる。

大項目	中項目	小項目
I. 臨床看護英会話	1. 患者と看護師の英語による基本的な受け答え	1) 基本的な挨拶 2) ヒストリーテイキング 3) 入院手続き 4) 病院内での日課、規則 5) 痛みの表現 6) 検査 7) 与薬
	2. 基本的医学看護英語の習得	1) 身体の名義 2) 内臓器官の名義 3) 科の名義 4) 病気の名義
II. 看護分野の英文講読	1. 医療、看護という専門分野の英語に親しむ	1) 看護・医療の専門用語を身につける 2) 英文講読に必要な基本的な英語力を高める (イデオム、構文、基本的文法事項)
	2. ナースとしてのあり方、患者への接し方、様々な患者の受けとめ方を事例から学ぶ	1) 日常の医療の現場で起きている問題 (小児、老人、障害者、末期患者) について知る 2) 様々な種類の看護師の仕事を、日本・海外の事例から学ぶ

成績評価の方法：出席日数、試験結果、課題提出等により総合的に評価する。

教科書

知念クリスティーン	クリスティーンのやさしい看護英会話	医学書院	1995
迫 和子、ジェーン・ハーランド	ロッタとハナの楽しい基本看護英語	医学書院	2011

<講義スケジュール>

1	2014. 4.15	火	9:00~10:25	設楽 靖子	Introduction / [A] Unit 2. Where are you from?
2	4.15	火	10:35~12:00	設楽 靖子	[B] Chapter 1. Lotta & Hana
3	4.22	火	9:00~10:25	設楽 靖子	[A] Unit 1. Please speak more slowly.
4	4.22	火	10:35~12:00	設楽 靖子	[B] Ch. 1. Lotta & Hana
5	5.13	火	9:00~10:25	設楽 靖子	[A] Unit 3. Could you tell me your address, please?
6	5.13	火	10:35~12:00	設楽 靖子	[B] Ch. 2. Visiting the Doctor
7	5.20	火	9:00~10:25	設楽 靖子	[A] Unit 4. What department do you want to visit?
8	5.20	火	10:35~12:00	設楽 靖子	[B] Ch. 3. Our Busy Hospital
9	5.27	火	9:00~10:25	設楽 靖子	[A] Unit 5. Where is the X-ray department?
10	5.27	火	10:35~12:00	設楽 靖子	[B] Ch. 4. A New Family Member
11	6. 3	火	9:00~10:25	設楽 靖子	[A] Unit 6. What are your symptoms?
12	6. 3	火	10:35~12:00	設楽 靖子	[B] Ch. 5. My Daughter's Arrival
13	6.10	火	9:00~10:25	設楽 靖子	[A] review: Units 1-6
14	6.10	火	10:35~12:00	設楽 靖子	[B] review: Chapters 1-5
15	6.17	火	9:00~10:25	設楽 靖子	[A/B] 中間テスト
16	6.17	火	10:35~12:00	設楽 靖子	語彙のチェック
17	6.24	火	9:00~10:25	設楽 靖子	[A] Unit 7. Where does it hurt?
18	6.24	火	10:35~12:00	設楽 靖子	[B] Ch. 7. Grandpa's Birthday
19	10. 7	火	9:00~10:25	設楽 靖子	[A] Unit 8. Have you ever had any serious illnesses?
20	10. 7	火	10:35~12:00	設楽 靖子	[B] Ch. 8. Living Independently
21	10.14	火	9:00~10:25	設楽 靖子	[A] Unit 9. Take one tablet, four times a day
22	10.14	火	10:35~12:00	設楽 靖子	[B] Ch. 9. Everone is Different
23	10.21	火	9:00~10:25	設楽 靖子	[A] Unit 10. Let me make an appoint. for your test.
24	10.21	火	10:35~12:00	設楽 靖子	[B] Ch. 10. Hospital Training Begins
25	10.28	火	9:00~10:25	設楽 靖子	[A] Unit 11. Your surgery will be tomorrow.
26	10.28	火	10:35~12:00	設楽 靖子	[B] Ch. 11. Tough, but Rewarding
27	11. 4	火	9:00~10:25	設楽 靖子	[A] Unit 12. How are you feeling today?
28	11. 4	火	10:35~12:00	設楽 靖子	[B] Ch. 12. In the Future
29	11.11	火	9:00~10:25	設楽 靖子	Final Exam
30	11.11	火	10:35~12:00	設楽 靖子	Final Exam

[A] 看護英会話 [B] 基本看護英語 (Lotta & Hana)

〔国際看護コミュニケーションⅠ〕（選択科目）：ハワイ・パシフィック大学

科目責任者：木村みどり

科目担当者：木村みどり

目的

実体験を通して、英語によるコミュニケーション、ハワイ州およびアメリカの医療、歴史、文化、伝統、社会状況を学ぶ

到達目標

1. 簡単な会話を英語で行うことができる。
2. ハワイ・パシフィック大学（HPU）での講義を、できるだけ英語で理解する。
3. 英語で日本を紹介するプレゼンテーションをすることができる。
4. 日米の歴史のつながりについて理解する。

大項目	中項目	小項目
Ⅰ.スピーキング	1. 海外生活のための英会話	1) 飛行場や税関における英会話 2) ホテルにおける英会話 3) 様々な交通手段を利用するときの英会話 4) 買い物をするときの英会話
	2. 英語によるスピーチ	1) 自分や家族、東京女子医科大学について話す 2) 日本の医療について話す 3) 与えられたテーマについて話す
Ⅱ.リスニング	3. 必要な情報を英語で聞き取る	1) 日常生活におけるコミュニケーション 2) アメリカやハワイの歴史 3) アメリカの医療

評価方法：日本での事前研修態度、HPUでの授業態度、プレゼンテーションの成果
ハワイでの街頭インタビュー(6人以上)の総合

教科書

特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する

参考資料

佐藤公雄 編著 First Time Abroad 「初めての海外旅行」 成美堂 1997
その他、必要に応じてプリントを配布する

<講義スケジュール>

1	2014. 7. 5	土	10:00~11:00	木村みどり	壮行会 (HPU & Alverno)
2	7. 5	土	11:00~12:30	木村みどり	旅行社オリエンテーション (情報実習室) ESTAの手続き等
3	7.15	火	9:00~10:25	木村みどり	自己紹介の練習
4	7.15	火	10:35~12:00	木村みどり	オリエンテーション
5	7.15	火	13:00~14:25	木村みどり	インタビューの練習
6	7.15	火	14:35~16:00	木村みどり	ハワイの歴史について学ぶ
7	7.16	水	9:00~10:25	木村みどり	日系移民・日米戦争について学ぶ
8	7.16	水	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(1)
9	7.16	水	13:00~14:25	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(2)
10	7.17	木	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるスピーチの練習(3)
11	7.17	木	13:00~14:25	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(4)
12	7.18	金	9:00~10:25	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(5)
13	7.18	金	10:35~12:00	木村みどり	各グループによるプレゼンテーションの練習(6)
14	7.22	火	21:00		成田出発
15	7.22	火	9:30		ハワイ到着
16					グループ・プレゼンテーションの練習 (7) ハワイ・パシフィック大学にて授業 英語によるグループ・プレゼンテーション クイーンズ・メディカルセンター訪問 ハワイについて調査したことの復習 フィールドワーク
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27	7.30	水	13:35		ハワイ出発
28	7.31	木	16:30		帰国
29	未定			木村みどり	帰国報告会の準備
30	10.18	土	10:30~12:00	木村みどり	帰国報告会

〔国際看護コミュニケーションⅡ〕（選択科目）：梨花女子大学

科目責任者：木村みどり

科目担当者：木村みどり、近藤 暁子

【目的】

国際的に活躍できる医療従事者になるための勉強と経験を積む。本学を代表する学生として、提携校である梨花女子大学（韓国）の授業や看護実習に参加し、看護の学びを深めながら国際交流を図る。

【到達目標】

1. 日常英会話ができる。
2. 基本的な看護英語を理解し使える。
3. 英語による看護の授業を理解できる。
4. 日本における看護事情や社会情勢、文化について英語で話せる。

大項目	中項目	小項目
Ⅰ. 医療従事者として国際的に通用する英語力をつける	1. 梨花女子大学での授業を理解する	1) 必要な情報を英語で聞き取る 2) 自分の考えを英語で発表する 3) 日本の看護事情について話す 4) 医療トピックについてディスカッションする
	2. 看護実習病院で英語によるコミュニケーションを行なう	1) Medical Terms 増強 2) さまざまな医療関係のトピックを学ぶ
Ⅱ. 国際人としての視野を広げる	1. 梨花女子大学の学生と交流する	1) 日常英会話の実践 2) 梨花女子大学の学生と交流を持ち、意見を交換する。

評価方法：日本での事前授業における参加態度、帰国報告プレゼンテーションの総合

教科書

なし

参考資料

必要に応じて、プリント配布

<講義スケジュール>

1	2015. 2.18	水	13:00~14:25	木村みどり	Self-introductionの練習	
2	2.20	金	10:35~12:00	近藤 暁子	Nursing Research 1	
3	2.20	金	13:00~14:25	近藤 暁子	Nursing Research 2	
4	2.26	木	9:00~10:25	近藤 暁子	Nursing Research 3	
5	2.26	木	10:35~12:00	近藤 暁子	Nursing Research 4	
6	3. 9	月	13:00~14:25	木村みどり	Complimentary and Alternative Medicine	
7	3. 9	月	14:35~16:00	木村みどり	Presentationの準備	
8	3.10	火	13:00~14:25	木村みどり	Presentationの準備	
9	3.10	火	14:35~16:00	木村みどり	Presentationの準備	
10	3.11	水	13:00~14:25	木村みどり	Presentationの準備	
11	3.11	水	14:35~16:00	木村みどり	Presentationの準備・会話練習	
12	3.12	木	13:00~14:25	木村みどり	Presentationの準備・会話練習	
13	3.12	木	14:35~16:00	木村みどり	Presentationの準備・会話練習・壮行会	
14	3.13	金	13:00~14:25	木村みどり	Nursing in Today's World	
15	3.13	金	14:35~16:00	木村みどり	Nursing Informatics	
16	3.14	土			出発	
17					梨花女子大学にて授業	
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29	3.25	水	10:35~12:00	木村みどり		帰国報告まとめ
30	10.23	水	12:10~12:55	木村みどり		帰国報告会 (HPU & EWHA)

〔国際看護コミュニケーションⅢ〕（選択科目）：アルバーノ大学

科目責任者：木村みどり

目的

国際的に活躍できる医療従事者になるための勉強と経験を積む。本学を代表する学生として、提携校であるアルバーノ大学の授業や看護実習に参加し、国際交流を図る。

到達目標

1. 日常英会話ができる。
2. 基本的な看護英語を理解し使える。
3. 英語による看護の授業を理解できる。
4. 日本における看護事情や社会情勢、文化について英語で話せる。

大項目	中項目	小項目
I. 医療従事者として国際的に通用する英語力をつける	1. アルバーノ大学での授業を理解する	1) 必要な情報を英語で聞き取る 2) 自分の考えを英語で発表する 3) 日本の看護事情について話す 4) 医療トピックについてディスカッションする
	2. 看護実習病院で英語によるコミュニケーションを行なう	1) Medical Terms 増強 2) さまざまな医療関係のトピックを学ぶ
II. 国際人としての視野を広げる	1. アルバーノ大学の学生と交流する	1) 日常英会話の実践 2) アルバーノ・カレッジや外国からの学生と交流を持ち、意見を交換する。

評価方法：研修前の日本での授業におけるテスト、アルバーノ大学よりの報告書、帰国報告プレゼンテーションの総合

教科書

特に指定せず、必要に応じてプリントを配布する

参考資料

行時 潔/Daniel Droukis	Experience an English Program! 語学留学に行こう	松柏社	2006
Steven Widdows, Peter Voller	CHATTERBOX	南雲堂	2006
その他、必要に応じて、プリント配布			

<講義スケジュール>

1	7. 5	土	9:00~10:25	木村みどり	壮行会
2	7. 5	土	10:35~12:00	木村みどり	旅行社オリエンテーション
3	8. 6	水	9:00~10:25	木村みどり	Health Assessment-Community, Family, Individual
4	8. 6	水	10:35~12:00	木村みどり	Nursing Theory of acutely & chronically Ill Populations
5	8. 7	木	9:00~10:25	木村みどり	Physiological Mechanisms & Disease
6	8. 7	木	10:35~12:00	木村みどり	Overview of Alverno College
7	8. 8	金	9:00~10:25	木村みどり	Vulnerable people
8	8. 8	金	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
9	8.18	月	9:00~10:25	木村みどり	Nutrition in wellness 看護英語の復習
10	8.18	月	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
11	8.19	火	9:00~10:25	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
12	8.19	火	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
13	8.20	水	9:00~10:25	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
14	8.20	水	10:35~12:00	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
15	8.21	木	9:00~10:25	木村みどり	スピーチ、Presentation 練習 看護英語の復習
16	8.21	木	10:35~12:00	木村みどり	総合復習 & 留学直前 オリエンテーション
17	8.22	金	9:00~10:25	木村みどり	総合復習 & 留学直前 オリエンテーション
18				木村みどり	アルバーノ大学にて授業および実習
19				木村みどり	
20				木村みどり	
21				木村みどり	
22				木村みどり	
23				木村みどり	
24				木村みどり	
25				木村みどり	
26				木村みどり	
27				木村みどり	
28				木村みどり	
29	10.18	土	10:35~12:00	木村みどり	帰国報告まとめ
30	10.18	土	13:00~14:25	木村みどり	帰国報告会

〔フランス語 I〕（選択科目）

科目責任者 小出石敦子

目的

コミュニケーションの実践に役立つフランス語を身につけることを目標とする。日常生活のさまざまな場面で使われるフランス語を、「話す」、「聞く」、「読む」、「書く」訓練を通して、総合的な力をつけていけるよう学習する。そのため会話練習、CD・DVD 教材等を使った練習、手紙や物語などの短い文章の読み・書きを授業に盛り込み、またフランス語の確実な理解を助けるために、文法の説明も適宜行い、小テストや課題などで理解度を確かめていく予定である。言語は日々の繰り返しによって身につくものなので、学生諸君は、意欲的に授業に参加し、必ず復習を行うよう心がけることが肝要となる。

到達目標

- 自己紹介ができるようになること。
- 自分以外の人物について紹介できるようになること。
- 挨拶や注文等、簡単な会話ができるようになること。

大項目	中項目	小項目
I. フランス語の発音	1. 発音の原則	1) 母音、子音、鼻母音 2) 発音と綴り字の関係
	2. 正確な発音	1) リエゾン、アンシェヌマン、エリジオン
II. フランス語の基本文法	1. 品詞と文の構造	1) 名詞 2) 冠詞 3) 動詞とその活用 4) 形容詞、副詞 5) 疑問詞 6) 代名詞
III. フランス語での基本的なコミュニケーション	1. 自己紹介	1) 国籍、職業、年齢、身分 2) 挨拶
	2. 表現	1) 意思を伝える（好悪、感情、目的）
	3. 伝達	1) 実用的な場面での会話（食事、買い物） 2) 家族、友人、知人を紹介する

成績評価の方法：出席日数、授業参加度、試験結果、課題提出などにより総合的に評価する。

教科書

田辺保子^他 『やさしいサリュウサリュ！簡略版』 駿河台出版社 2014

参考図書 * 仏和辞典は必ず用意すること。電子辞書でも以下のいずれかが入っているものを推薦する。

ディコ仏和辞典	白水社
ロワイヤル仏和中辞典	旺文社
プチ・ロワイヤル仏和辞典	旺文社
新スタンダード仏和辞典	大修館
クラウン仏和辞典	三省堂

<講義スケジュール>

1	2014. 4.16	水	13:00~14:25	小出石敦子	フランス文化とフランス語に親しもう
2	4.16	水	14:35~16:00	小出石敦子	発音と綴り、日本語になっているフランス語、挨拶など
3	4.23	水	13:00~14:25	小出石敦子	自己紹介をする（名前の言い方）
4	4.23	水	14:35~16:00	小出石敦子	自己紹介をする（国籍、職業）、主語人称代名詞
5	5. 7	水	13:00~14:25	小出石敦子	動詞être、名詞・形容詞の性と数
6	5. 7	水	14:35~16:00	小出石敦子	話せる言語を言う、住んでいる所を言う
7	5.14	水	13:00~14:25	小出石敦子	好みを言う、第1群規則動詞、定冠詞
8	5.14	水	14:35~16:00	小出石敦子	大学での専攻を言う、否定文
9	5.28	水	13:00~14:25	小出石敦子	これまでのまとめ
10	5.28	水	14:35~16:00	小出石敦子	映画を通してフランス文化に触れる
11	6.11	水	13:00~14:25	小出石敦子	持ち物を言う動詞avoir、名詞の性と数、不定冠詞
12	6.11	水	14:35~16:00	小出石敦子	年齢を言う、兄弟姉妹について語る
13	6.25	水	13:00~14:25	小出石敦子	食事について
14	6.25	水	14:35~16:00	小出石敦子	部分冠詞
15	7. 2	水	13:00~14:25	小出石敦子	中間試験（筆記）
16	7. 2	水	14:35~16:00	小出石敦子	中間試験（口頭）
17	9.10	水	13:00~14:25	小出石敦子	「何を、どれくらい」疑問の表現
18	9.10	水	14:35~16:00	小出石敦子	家族について語る、所有形容詞
19	9.24	水	13:00~14:25	小出石敦子	人・ものの描写、形容詞の性数変化
20	9.24	水	14:35~16:00	小出石敦子	「誰、どうやって」疑問の表現
21	10. 8	水	13:00~14:25	小出石敦子	行く・来る、国・場所の表現
22	10. 8	水	14:35~16:00	小出石敦子	前置詞+定冠詞の縮約形
23	10.29	水	13:00~14:25	小出石敦子	これまでのまとめ
24	10.29	水	14:35~16:00	小出石敦子	映画を通してフランス文化に触れる
25	11.12	水	13:00~14:25	小出石敦子	時間の言い方と数字
26	11.12	水	14:35~16:00	小出石敦子	時間の言い方と数字その2
27	11.26	水	13:00~14:25	小出石敦子	したいこと、できることを言う、助動詞
28	11.26	水	14:35~16:00	小出石敦子	したいこと、できることを言う、助動詞その2
29	12.10	水	13:00~14:25	小出石敦子	学年末試験（筆記）
30	12.10	水	14:35~16:00	小出石敦子	学年末試験（口頭）

〔ドイツ語Ⅱ〕（選択科目）

科目責任者 伊藤 満広

目的

ドイツのアクチュアルな話題を取り上げながら、初級文法で得た知識を拡充する。繰り返し練習することにより、基本事項を徹底して身につける。

語学力の基礎となる発音に力を入れ、やさしい会話で積極的に意思表示できる。

到達目標

ドイツ語の基本的な単語、熟語、表現を覚え簡単な会話ができるようにする。

また、辞書を使いながらある程度の文章を読む読解力を養成する。

大項目	中項目	小項目
I. 現在時制、主文構造における表現	1. 動詞の人称変化と語順	1) 発音 2) 規則動詞の現在人称変化／sein と haben.
	2. 基本的な格変化	1) 定冠詞と不定冠詞 2) 格の用法 3) 名詞の格変化 4) 定冠詞類と不定冠詞類 5) 名詞の複数形 6) 人称代名詞 7) 前置詞 8) 前置詞の融合形
	3. 不規則な人称変化と助動詞構文	1) 幹母音変化動詞 2) 命令形 3) 話法の助動詞 4) 未来自制 5) 非人称動詞
II. 様々な時制・態・法、および副文構造における表現	1. 動詞の三基本形、主文と副文の関係	1) 分離動詞 2) 副文 3) 動詞の三基本形 4) 過去人称変化 5) 完了時制 6) 再帰代名詞
	2. 形容詞の格変化、比較変化、文と文の関係	1) 形容詞の格変化 2) 現在分詞、過去分詞 3) 序数詞 4) 比較級 5) zu 不定詞 6) 関係代名詞 7) 指示代名詞
	3. 動詞の様々な表現	1) 受動態 2) 持続法

成績評価の方法：出席日数、試験結果、課題提出等により総合的に評価する。

教科書

高橋泰雄、城間宏朋

おしゃれなドイツ語

朝日出版社

2008

<講義スケジュール>

1	2014. 4.22	火	14:35～16:00	伊藤 満広	発音
2	4.22	火	16:10～17:35	伊藤 満広	規則動詞の現在人称変化／seinとhaben
3	5.13	火	14:35～16:00	伊藤 満広	定冠詞と不定冠詞
4	5.13	火	16:10～17:35	伊藤 満広	格の用法
5	5.20	火	14:35～16:00	伊藤 満広	名詞の格変化
6	5.20	火	16:10～17:35	伊藤 満広	定冠詞類と不定冠詞類
7	5.27	火	14:35～16:00	伊藤 満広	名詞の複数形
8	5.27	火	16:10～17:35	伊藤 満広	人称代名詞
9	6.10	火	14:35～16:00	伊藤 満広	前置詞
10	6.10	火	16:10～17:35	伊藤 満広	前置詞の融合形
11	6.16	月	9:00～10:25	伊藤 満広	幹母音変化動詞
12	6.16	月	10:35～12:00	伊藤 満広	命令形
13	6.24	火	13:00～14:25	伊藤 満広	話法の助動詞
14	6.24	火	14:35～16:00	伊藤 満広	未来時制
15	7. 1	火	9:00～10:25	伊藤 満広	非人称動詞
16	7. 1	火	10:35～12:00	伊藤 満広	前綴りと分離動詞
17	7. 8	火	9:00～10:25	伊藤 満広	副文構造
18	7. 8	火	10:35～12:00	伊藤 満広	動詞の3基本形
19	9. 9	火	9:00～10:25	伊藤 満広	過去人称変化
20	9. 9	火	10:35～12:00	伊藤 満広	完了時制
21	9.16	火	9:00～10:25	伊藤 満広	再帰代名詞・再帰動詞
22	9.16	火	10:35～12:00	伊藤 満広	形容詞の格変化
23	9.30	火	9:00～10:25	伊藤 満広	現在分詞・過去分詞
24	9.30	火	10:35～12:00	伊藤 満広	助数詞／形容詞・副詞の比較変化
25	10.14	火	13:00～14:25	伊藤 満広	zu不定詞
26	10.14	火	14:35～16:00	伊藤 満広	関係代名詞
27	10.21	火	13:00～14:25	伊藤 満広	受動態1
28	10.21	火	14:35～16:00	伊藤 満広	受動態2
29	11.10	月	9:00～10:25	伊藤 満広	接続法
30	11.17	月	9:00～10:25	伊藤 満広	試験

各専門領域への発展

〔保健医療統計学〕

科目責任者 東垣内徹生

目的

保健医療に関する各種の統計指標や調査結果を最適に解釈、記述する手法について学ぶ。

到達目標

1. 保健医療に関する各種の統計指標を読む、あるいは疫学を理解するための基礎となる知識を得る。
2. 保健師の国家資格を得るために必要な統計学の知識を身につける。
3. 卒論で調査を行うために必要な統計手法について理解する。

大項目	中項目	小項目
保健医療統計学	1. 保健医療統計の概要 2. 保健医療統計学の諸指標 3. 記述統計 4. 推測統計 5. 統計手法のまとめ	1) データに対して統計手法を適用する意味 1) 指標と指標の標準化 1) 測定の尺度 2) 度数分布表とクロス集計 3) 代表値 4) 散布度 5) 分布型 6) 相関係数と散布図 1) 推測統計の考え方 2) 点推定と区間推定 3) 検定の考え方 4) 平均値の検定 5) クロス集計表の検定 1) 統計手法の分類と整理の仕方

成績評価の方法：レポート等により総合的に評価する。

教科書：なし

<講義スケジュール>

1	2014. 9. 8	月	13:00~14:25	東垣内徹生	保健医療統計の概要
2	9. 8	月	14:35~16:00	東垣内徹生	測定の尺度
3	9.12	金	13:00~14:25	東垣内徹生	指標
4	9.12	金	14:35~16:00	東垣内徹生	度数分布表
5	10. 9	木	10:35~12:00	東垣内徹生	代表値
6	10. 9	木	13:00~14:25	東垣内徹生	散布度
7	10.16	木	10:35~12:00	東垣内徹生	正規分布とその利用
8	10.16	木	13:00~14:25	東垣内徹生	信頼区間
9	10.30	木	10:35~12:00	東垣内徹生	検定の理論
10	10.30	木	13:00~14:25	東垣内徹生	平均値の検定
11	11.13	木	10:35~12:00	東垣内徹生	平均値の検定とその性質
12	11.13	木	13:00~14:25	東垣内徹生	クロス集計表の検定
13	11.20	木	10:35~12:00	東垣内徹生	散布図と相関係数
14	11.20	木	13:00~14:25	東垣内徹生	回帰分析と相関の解釈
15	11.27	木	10:35~12:00	東垣内徹生	統計手法のまとめ

〔情報科学演習Ⅱ〕

科目責任者 神山 暢夫

科目担当者 神山 暢夫、伊東 栄子

情報科学演習Ⅱは、情報科学演習Ⅰで習得したコンピュータの基礎知識に基づいて、より実践的な医療情報処理能力を獲得することを目的とする。具体的には表計算ソフトを用いてデータベースを作成し、必要とするデータの抽出、解析を行う。また、プレゼンテーションソフトを活用し、研究会、勉強会における医療情報の有効なプレゼンテーション能力を養う。

大項目	中項目	小項目
I. 看護と情報	1. 情報の管理 2. 情報の処理 3. プレゼンテーション	1) 看護における情報収集と管理 1) データ入力 2) データ処理 3) データ解析 1) スライドの作成 2) スライドの加工 3) アニメーション

成績評価の方法：出席日数、課題提出等により総合的に評価する。

教科書

なし

<講義スケジュール>

Aグループ

1	2015. 1.30	金	10:35~12:00	神山 暢夫 伊東 栄子	情報科学演習Ⅱの概要・スライド作成の基本操作 1
2	1.30	金	13:00~14:25	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータベースの作成 1
3	1.30	金	14:35~16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータベースの作成 2
4	2. 2	月	10:35~12:00	神山 暢夫 伊東 栄子	スライド作成の基本操作2
5	2. 2	月	13:00~14:25	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータ解析 1
6	2. 2	月	14:35~16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータ解析 2
7	2. 3	火	10:35~12:00	神山 暢夫 伊東 栄子	スライドの加工と図形処理
8	2. 3	火	13:00~14:25	神山 暢夫 伊東 栄子	データのマクロ処理 1
9	2. 3	火	14:35~16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	データのマクロ処理 2
10	2. 4	水	10:35~12:00	神山 暢夫 伊東 栄子	アニメーションとプレゼンテーション
11	2. 4	水	13:00~14:25	神山 暢夫 伊東 栄子	課題作成
12	2. 4	水	14:35~16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	課題作成
13	2. 6	金	10:35~12:00	神山 暢夫 伊東 栄子	課題発表
14	2. 6	金	13:00~14:25	神山 暢夫 伊東 栄子	課題発表
15	2. 6	金	14:35~16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	課題発表

Bグループ

1	2015. 1.15	木	10:35~12:00	神山 暢夫 伊東 栄子	情報科学演習Ⅱの概要・スライド作成の基本操作 1
2	1.15	木	13:00~14:25	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータベースの作成 1
3	1.15	木	14:35~16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータベースの作成 2
4	1.16	金	10:35~12:00	神山 暢夫 伊東 栄子	スライド作成の基本操作2
5	1.16	金	13:00~14:25	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータ解析 1
6	1.16	金	14:35~16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	表計算によるデータ解析 2
7	1.19	月	10:35~12:00	神山 暢夫 伊東 栄子	スライドの加工と図形処理
8	1.19	月	13:00~14:25	神山 暢夫 伊東 栄子	データのマクロ処理 1
9	1.19	月	14:35~16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	データのマクロ処理 2
10	1.20	火	10:35~12:00	神山 暢夫 伊東 栄子	アニメーションとプレゼンテーション
11	1.20	火	13:00~14:25	神山 暢夫 伊東 栄子	課題作成
12	1.20	火	14:35~16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	課題作成
13	1.21	水	10:35~12:00	神山 暢夫 伊東 栄子	課題発表
14	1.21	水	13:00~14:25	神山 暢夫 伊東 栄子	課題発表
15	1.21	水	14:35~16:00	神山 暢夫 伊東 栄子	課題発表

〔キャリア発達論Ⅱ〕

科目責任者 佐藤 紀子

科目担当者 佐藤 紀子、吉田 澄恵、草柳かほる、山内 英樹、天野 陽子、
 神山 暢夫、齋藤加代子、木林 和彦、藤枝 弘樹、江崎 太一、
 柴田 亮行、小田 秀明、岡田みどり

【科目の目的】

キャリアを「生涯を通しての人の生き方」と定義し、看護学を学ぶことを選択した成人として、自己のキャリアを考え続ける基本的態度を身につける。合わせて、看護専門職者を目指すものとして、組織の中で調和しながら変革を推進し、職業を継続するための基礎的な知識を学ぶ。

【2年次の目的】

看護学を含めた1年間の学士課程教育の学びの過程で、自己の今までのキャリアを振り返り、将来のキャリアを意識した学びの指標を考え実行する。特に、看護専門職を目指すものとして人のライフサイクルとその発達課題を踏まえたうえで、生きること、病むこと、障害を持つこと、そして死を迎えることなどに関する自己の考えを深める。これらの目的を達成する一助として、学士課程学生同士、医学部学生との交流を通して協働についての態度をさらに養う。また、1年次に引き続き組織行動学の一部を学習する。

【到達目標】

1. 成人学習者である自己を認識し、学士課程2年次におけるキャリアプランを述べることができる。
2. 先人のキャリアを知ることにより、自己のキャリアを展望し述べるができる。
3. 既習科目での学習、解剖慰霊祭への参加と結びつけながら、「生きること」「考えること」について考え述べるができる。
4. 組織行動論の理解を通し、組織の一員としての人間の行動について説明できる。
5. 看護学部の1年生3年生との交流のための企画・実行を通して、リーダーシップ・フォロアーシップについて考え、自分の意見を述べるができる。
6. 医学部2年生とのワークショップの中で、自分の考えを話すこと、他者の考えを聞くことができ、自己の考えを発展させ述べるができる。

大項目	中項目	小項目
I. 看護職の生涯発達	1. 自己のキャリアを考える 2. 自校の特徴から考える 3. 先人のキャリアから学ぶ	1) 成人としての学習 2) 学士課程2年次におけるキャリアプラン 3) 【自校教育】東京女子医科大学の教育の特徴 4) 【協働教育】吉岡弥生記念講演会への参加
II. 死生観をはぐくむ	1. 生きを考える 2. 死の迎え方について考える 3. 献体—亡くなられた方から学ぶ	1) 死生観 2) 解剖慰霊祭への参加 3) 死生観の表現の試み 文献講読・レポート作成・グループ討議

大項目	中項目	小項目
Ⅲ. 組織と個人	1. 組織の中の個人	1) 個人の意思決定理論 2) パワーとコンフリクト
Ⅳ. 協働の基礎	1. 学部生同士の交流 2. 医学部学生との協学	1) NHR への参加 2) 次年度 NHR の準備 1) 【協働教育】解剖慰霊祭に参加した医学部学生とのグループ討議

成績評価の方法：出席状況、課題への取り組みの態度、レポートによる。

教科書

森有正

生きることと考えること

講談社現代新書

1970

参考図書

その都度紹介

<講義スケジュール>

1	2014. 4.10	木	16:10～17:35	佐藤 紀子 _他 *1	ガイダンス。学士課程2年次におけるキャリアプラン
2	4.17	木	10:35～12:00	佐藤 紀子 _他 *2	NHRの企画・準備
3	5.15	木	16:10～17:35	佐藤 紀子 _他 *2	NHRの企画・準備
4	5.22	木	13:00～14:25	吉田 澄恵	吉岡弥生記念講演
5	5.22	木	14:35～16:00	吉田 澄恵	吉岡弥生記念講演
6	5.23	金	9:00～17:35	佐藤 紀子 _他 *2	} NHR (看護学部人間関係論)
7					
8	6.19	木	14:35～16:00	吉田 澄恵	組織と個人:個人の意思決定
9	6.26	木	10:35～12:00	佐藤 紀子	組織と個人:パワーとコンフリクト
10	9.22	月	14:35～16:00	草柳かほる	【自校教育】東京女子医科大学の教育の特徴
11	10. 2	木	10:35～12:00	佐藤 紀子	生きることと考えること:死生観
12	10. 2	木	13:00～14:25	佐藤 紀子 _他 *3	解剖慰霊祭
13	10. 2	木	14:35～16:00	佐藤 紀子 _他 *3	解剖慰霊祭
14	10. 8	水	9:00～10:25	佐藤 紀子 _他 *3	} 【協働教育】解剖慰霊祭ワークショップ
15	10. 8	水	10:35～12:00	佐藤 紀子 _他 *3	

*1 佐藤紀子、吉田澄恵、草柳かほる、山内英樹 担当

*2 佐藤紀子、吉田澄恵、草柳かほる、山内英樹、天野陽子、神山暢夫 担当

*3 佐藤紀子、吉田澄恵、木林和彦、齋藤加代子、藤枝弘樹、江崎太一、柴田亮行、小田秀明、岡田みどり 担当

養護教諭一種免許課程

〔教職入門〕

科目責任者 益井 明子

目的

「教師」という職業は、独自の専門職性を有するものである。そこで本科目では、教職を志望するものとして、教職の意義や教師の専門性、職務内容などについて理解することを目的とする。また、教師の実践の場である学校が、社会との関わりのなかでいかなる形態、構造、機能を有しているのかについて考察し、「生徒」の立場では見えなかった教師の職務に関する多面的な視座について学ぶ。

到達目標

教師を取り巻く状況が刻々と変化するなか、生徒の成長に大きな責任を担う存在として、教師はいかなる資質を備えるべきか、また、学び、成長し続ける存在として教師はいかにあるべきか、常に問い続ける姿勢を養うことができる。

大項目	中項目	小項目
I. 教師とは	1. 専門職としての教師	1) 教員養成課程の意義 2) 「教職」の危機
II. 教師の仕事	1. 学校組織において働く教師	1) 学校組織の特徴 2) 教師の勤務実態 3) 教師に広がる多忙感・疲労感
	2. 学校の社会的役割	1) 現代社会の学校制度 2) 学習指導要領の変遷とその社会的背景 3) 隠れたカリキュラム
	3. 授業をつくる教師	1) 教材研究の方法 2) 学習指導案の作成 3) 授業の実践 4) 教師の「授業力」とは
III. 成長し続ける存在としての教師	1. 教師の学び	1) 反省的实践家としての教師 2) 教育改革の行方

成績評価の方法：出席日数、期末試験、課題提出等により総合的に評価する。

教科書

特に指定せず、随時必要な資料を配布する。

参考図書

講義内にて適宜紹介する。

<講義スケジュール>

1	2014. 9.13	土	9:00～10:25	益井 明子	教員養成課程の意義
2	9.13	土	10:35～12:00	益井 明子	「教職」の危機
3	9.20	土	9:00～10:25	益井 明子	学校組織の特徴
4	9.20	土	10:35～12:00	益井 明子	教師の勤務実態
5	9.27	土	9:00～10:25	益井 明子	教師に広がる多忙感・疲労感
6	9.27	土	10:35～12:00	益井 明子	現代社会の学校制度
7	10.11	土	9:00～10:25	益井 明子	学習指導要領の変遷とその社会的背景
8	10.11	土	10:35～12:00	益井 明子	隠れたカリキュラム
9	10.31	金	14:35～16:00	益井 明子	教材研究の方法
10	10.31	金	16:10～17:35	益井 明子	学習指導案の作成
11	11.15	土	9:00～10:25	益井 明子	授業の実践
12	11.15	土	10:35～12:00	益井 明子	教師の「授業力」とは
13	11.22	土	9:00～10:25	益井 明子	反省的実践家としての教師
14	11.22	土	10:35～12:00	益井 明子	教育改革の行方
15	11.28	金	13:00～14:25	益井 明子	試験

〔教育学概論〕

科目責任者 松寄 英士

科目担当者 松寄 英士、益井 明子

目的

教育現場では現在、いじめや不登校等の解決困難な問題が多数生じており、それに伴い、「保健室」の重要性が高まっている。そこで本科目では、養護教諭としてこうした問題に積極的に関わり、それを解決へと導くために必要とされる教育学の基礎知識を得ることを目的とする。

到達目標

教育の今日的課題について絶えず考えていく態度を養うために、教育の本質やその思想・歴史を理解できる。人間の発達に及ぼす教育の役割を理解できる。教育課程の編成や学習指導・生徒指導、学校・学級経営といった「学校」に関わる諸理論や、さらには学校制度・教育行政、社会教育・生涯教育など、教育のさまざまな領域について理解できる。

大項目	中項目	小項目
I. 教育の本質と目的	1. 教育とは何か 2. 教育の歴史と思想	1) 教育の本質とその目的 2) 教育の社会的機能 1) 近代教育制度と公教育制度の歴史 2) 日本における公教育制度の成立と展開
II. 人間の発達と教育	1. 発達に及ぼす教育の役割	1) 人間の成長発達段階と教育 2) 子どもを取り巻く環境の教育機能
III. 教育課程	1. 教育課程の編成原理と内容	1) 教育課程編成の基準としての学習指導要領 2) 各教科、道徳および特別活動、「総合的な学習の時間」の取扱い
IV. 教育の方法	1. 教授－学習の理論と方法	1) 学習指導の意義とその類型 2) 学習指導の方法
V. 生徒指導	1. 生徒指導の内容と方法	1) 生徒指導の意義とその内容
VI. 学校経営・学級経営	1. 学校経営とは 2. 学級経営とは	1) 学校の組織と経営 1) 教授－学習組織と経営
VII. 学校制度・教育行政	1. 学校制度改革の動向 2. 教育行政制度	1) 学校制度の発達・類型と教育の機会均等 1) 教育行政の基本的原理
VIII. 教師の役割と職務	1. 教師とは	1) 教師の資質
IX. 教育の今日的課題	1. これからの社会と教育	1) さまざまな教育改革 2) 学習社会論の登場と生涯教育

成績評価の方法：出席日数、期末試験、課題提出等により総合的に評価する。

教科書

特に指定せず、随時必要な資料を配布する。

参考図書

田嶋 一 他 著

やさしい教育原理〔新版補訂版〕

有斐閣アルマ

2011

<講義スケジュール>

1	2014. 6.28	土	9:00～10:25	益井 明子	講義の進め方、教育とは何か(教育の本質とその目的)
2	6.28	土	10:35～12:00	益井 明子	教育の社会的機能
3	7. 4	金	13:00～14:25	益井 明子	人間の発達に及ぼす教育の役割
4	7. 4	金	14:35～16:00	益井 明子	近代教育制度と公教育制度の歴史
5	7.12	土	9:00～10:25	益井 明子	日本における公教育制度の成立とその展開
6	7.12	土	10:35～12:00	益井 明子	教育課程の編成原理とその内容
7	7.15	火	13:00～14:25	松寄 英士	学習指導の意義とその類型
8	7.15	火	14:35～16:00	松寄 英士	学習指導の方法
9	7.16	水	13:00～14:25	松寄 英士	生徒指導の意義とその内容
10	7.16	水	14:35～16:00	松寄 英士	生徒指導と体制作り
11	7.18	金	13:00～14:25	益井 明子	学校経営と学級経営
12	7.18	金	14:35～16:00	益井 明子	学校制度改革の動向
13	7.22	火	10:35～12:00	益井 明子	教育行政の基本的原理
14	7.22	火	13:00～14:25	益井 明子	これからの社会と教育
15	7.25	金	10:35～12:00	益井 明子	試験

〔教育心理学〕

科目責任者 松崎 英士

目的

教育現場で起こるさまざまな問題・課題に関して、心理学を中核とした実践科学的知見に基づいて、人間を多面的に理解し、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となるよう、教育と心理との関係について理解を深めることを目指していく。

到達目標

教育現場において学習、理解、動機づけなどをどのように支援していくか、またその方法を理解できる。子どもの知的・社会性への発達への援助、知的能力・学力の教育評価について理解できる。発達（知的）遅滞児、障がい児、また学校生活に不適應をもつ児童生徒への教育支援などの問題の考察と支援方法について理解できる。

大項目	中項目	小項目
I. 教育心理学とは	1. 教育心理学の意義・目的	1) 教育心理学の定義・課題 2) 授業過程理解の心理学的アプローチ
II. 理解と学習	1. 学習の定義・理論 2. 学習への動機づけ 3. 知識と問題解決	1) 学習の定義と理論、学習の方法 1) 学習意欲と動機づけ 2) 学びに向かう力（学習力）の構築 1) 知能、学力、知識と理解 2) 教師の学びへの働きかけ（教師力）
III. 発達	1. 知的発達、社会性の発達	1) 身体的成熟と心の発達 2) 子どもの発達と人間関係 3) 発達と教育
IV. 個性・個人差	1. 個性・個人差と授業	1) 認知、パーソナリティの個人差 2) 個性を生かす授業
V. 学習指導	1. 学習活動の支援	1) 授業理論のモデル 2) 学習過程と学習活動の支援
VI. 教育支援	1. 心理的援助 2. 障がいをもつ児童・生徒への支援	1) 学校生活への不適應 1) さまざまな障がいをもつ児童・生徒の理解と支援
VII. 教育における測定と評価	1. 測定と評価	1) 測定・評価の意義、目的 2) 測定・評価のさまざまな方法と課題

成績評価の方法：試験、課題レポート、演習への取り組み等により総合的に評価する。

教科書

西村純一^他 編 教育心理学エッセンシャルズ ナカニシヤ出版 2010

参考図書

松原達哉^他 教育心理学 丸善出版 2013
 無藤 隆^他 学校教育の心理学（教育演習双書） 学文社 2012
 鎌原雅彦^他 やさしい教育心理学 有斐閣アルマ 2012
 鹿毛雅治 教育心理学 朝倉書店 2006
 多鹿秀継 教育心理学－生きる力を身につけるために サイエンス社 2001

<講義スケジュール>

1	2014. 10.29	水	9:00～10:25	松寄 英士	教育心理学の意義と目的
2	11.11	火	14:35～16:00	松寄 英士	学習の定義と理論、学習の方法
3	11.18	火	14:35～16:00	松寄 英士	学習意欲と動機づけ
4	11.18	火	16:10～17:35	松寄 英士	学びに向かう力（学習力）の構築
5	11.21	金	14:35～16:00	松寄 英士	知能、学力、知識と理解
6	11.21	金	16:10～17:35	松寄 英士	知識と問題解決への教師の働きかけ（教師力）
7	11.25	火	14:35～16:00	松寄 英士	身体的成熟と心の発達
8	11.26	水	9:00～10:25	松寄 英士	子どもの発達と人間関係
9	11.26	水	10:35～12:00	松寄 英士	子どもの個性とそれを生かす授業
10	11.28	金	14:35～16:00	松寄 英士	授業理論のモデル
11	12. 2	火	9:00～10:25	松寄 英士	学習過程と学習活動の支援
12	12. 2	火	10:35～12:00	松寄 英士	学校生活への不応
13	12. 4	木	13:00～14:25	松寄 英士	さまざまな障がいをもつ児童・生徒の理解と支援
14	12. 4	木	14:35～16:00	松寄 英士	教育における測定と評価
15	12.10	水	9:00～10:25	松寄 英士	試験

〔教育課程論〕

科目責任者 角田 雅昭

目的

これまでの学習指導要領の変遷から、子どもの経験重視と教科内容重視というふたつの教育観の間で教育課程が揺れ動いてきたことを概観し、その背景に子ども観・「学び」観の相違が存在することを理解する。その上で、今後の教育課程のあり方について、特別支援教育や、特別活動、道徳及び健康教育も含めて総合的に検討できることを目的とする。

到達目標

学び観、子ども観の違いによって、教育課程が異なってくることを理解し、それらをふまえて指導計画を作成できる。

大 項 目	中 項 目	小 項 目
I. 教育課程とは	1. 教育課程とは	1) 教育課程の概念
II. 教育課程編成の基本的視点	1. 教育課程の歴史と現状	1) 教育課程編成の意義 2) 学習指導要領の変遷 3) 現行学習指導要領の意義
	2. 児童・生徒の発達と教育課程	1) 子ども観と教育課程 2) 学び観・発達観と教育課程 3) 教育内容「現代化」運動
III. 教育課程編成の基本的問題	1. 教育課程の編成原理	1) 教育課程の構造 2) 教育課程編成の方法 3) 教科書の意義
	2. 特別支援教育と教育課程	1) 障害児教育と教育課程 2) 障害観と教育課程 3) 個別の指導計画の意義
	3. 特別活動、道徳及び健康教育	1) 特別活動の役割 2) 道徳と理解について 3) 健康教育と教育課程
IV. これからの教育課程	1. 教育課程の今後の動向	1) 特色ある学校づくりと教育課程 2) 多様な他者との共生

成績評価の方法：

リアクションペーパー、レポート、演習内容、試験により総合評価する。

教科書

特に指定しない、必要に応じ資料を配付する。

参考図書

田中耕治^他 新しい時代の教育課程 第3版 (有斐閣アルマ) 有斐閣 2011
その他適宜紹介する。

<講義スケジュール>

1	2014. 10. 4	土	9:00~10:25	角田 雅昭	オリエンテーション、教育課程とは何か
2	10. 4	土	10:35~12:00	角田 雅昭	「学校」の変革・知識観の変化と、カリキュラムについて
3	10.18	土	9:00~10:25	角田 雅昭	教育課程の基本問題と教育改革
4	10.18	土	10:35~12:00	角田 雅昭	教育課程の歴史 I (20世紀初頭のカリキュラム改革、児童中心主義)
5	11. 1	土	9:00~10:25	角田 雅昭	教育課程の歴史 II (教育内容の現代化運動とその挫折)
6	11. 1	土	10:35~12:00	角田 雅昭	教育課程の歴史 III (日本の学習指導要領の変遷を中心に)
7	11. 8	土	9:00~10:25	角田 雅昭	教育課程の編成原理 (教育課程編成の主体、教育内容選択基準)
8	11. 8	土	10:35~12:00	角田 雅昭	子どもの発達と教育 (発達段階という考え方について)
9	11.27	木	14:35~16:00	角田 雅昭	教科書について (教科書の系統性と知識のあり方)
10	11.27	木	16:10~17:35	角田 雅昭	学習者からみた教育課程と新しい教科構成の可能性 (状況論からみた「学び」)
11	11.29	土	9:00~10:25	角田 雅昭	道徳および特別活動の内容等の取扱い (道徳および特別活動における「健康教育」の取扱いについて)
12	11.29	土	10:35~12:00	角田 雅昭	教育課程と養護教諭 (教科指導と生活指導、学校における養護教諭の役割)
13	12. 6	土	9:00~10:25	角田 雅昭	特別支援教育について (支援を必要とする子どもと養護教諭の役割)
14	12. 6	土	10:35~12:00	角田 雅昭	これからの教育課程 (特色ある学校づくりと教育課程)
15	12.13	土	10:35~12:00	角田 雅昭	試験

〔日本国憲法〕

科目責任者 東 裕

目的

憲法は、「統治機構」と「人権」の二つの部分から成る。この二つは相互に密接に結びついている。すなわち、憲法は国民の人権を保障することに主眼があり、そのために権力分立を基本とする統治機構がつくられているのであり、権力分立に基づく統治機構は人権保障に奉仕する。権力の濫用が防止され、国民の権利・自由が保障されることで、「人間の尊厳」が確保される。これが憲法の構造であり目的である。そして、憲法は国家という基礎の上に成立し、平和が確保された状況で初めて正常に機能する。この憲法の基本的な考えをまず理解し、その上で、成立当時とは大きく異なる政治・経済・社会・国際関係の中に置かれている日本国憲法の抱える問題点を考える。それがこの講義の目的である。

到達目標

1. 憲法とはどのような法であるかを説明できる。
2. 日本国憲法の構造を説明できる。
3. 日本国憲法と大日本帝国憲法（明治憲法）との違いを説明できる。
4. 日本国憲法の成立過程を説明できる。
5. 日本国憲法の基本原理とその相互関係を説明できる。
6. 日本国憲法の問題点を説明できる。

大項目	中項目	小項目
I. 憲法総論	1. 憲法の概念 2. 近代立憲主義憲法 3. 現代立憲主義憲法	1) 形式的意味の憲法・実質的意味の憲法 2) 近代立憲主義憲法の成立と特質 3) 現代立憲主義憲法への変容とその特質
II. 人権総論	1. 人権の概念 2. 近代の人権 3. 現代の人権	1) 「人権」とは 2) 人権宣言の歴史 3) 「新しい人権」の登場
III. 憲法の基本原理	1. 国民主権 2. 平和主義 3. 基本的人権尊重主義	1) 国民主権の意味 2) 日本国憲法の平和主義の特徴 3) 日本国憲法の人権規定
IV. 国の統治機構	1. 権力分立 2. 議院内閣制 3. 司法権の独立	1) 権力分立の意義と目的 2) 国会と内閣の関係はどうなっているか 3) 司法権の独立とは何か
V. 平等権	1. 法の下での平等 2. 平等の意義 3. 平等権の内容	1) 自由と平等 2) 平等と不平等 3) 平等権の一般原則（憲法 14 条 1 項）
VI. 自由権	1. 精神的自由権 2. 経済的自由権 3. 人身の自由	1) 内面的自由権・外面的自由権 2) 経済的自由権と公共の福祉 3) 適正手続の保障

大項目	中項目	小項目
VII. 参政権と請求権	1. 参政権 2. 国家賠償請求権 3. 裁判を受ける権利	1) 選挙権・被選挙権 2) 国家賠償請求権（憲法 17 条）の意味 3) 裁判を受ける権利（憲法 32 条）の意味
VIII. 社会権	1. 生存権 2. 教育権 3. 勤労権と労働基本権	1) 憲法 25 条の法的性格 2) 教育権（憲法 26 条）とは 3) 労働三権とは何か
IX. 国会	1. 国会の地位 2. 国会の組織と活動 3. 国会の権能	1) 国権の最高機関・立法機関・国民代表機関 2) 二院制・選挙制度・会期 3) 国会の権能・議院の権能
X. 内閣	1. 内閣の組織 2. 内閣の権能 3. 議院内閣制	1) 内閣総理大臣・国務大臣 2) 行政権とは 3) 議院内閣制と大統領制の違い
XI. 裁判所	1. 司法権の意義 2. 裁判所の組織と権能 3. 司法権の独立	1) 司法権の意義と限界 2) 最高裁判所・下級裁判所・裁判員制度 3) 司法権の独立の意義・裁判官の身分保障
XII. 財政	1. 財政処理の基本原則 2. 予算の種類 3. 公金支出の禁止	1) 財政民主主義・租税法律主義 2) 本予算・補正予算・暫定予算 3) 公金支出の禁止対象
XIII. 地方自治	1. 地方自治の本旨 2. 地方公共団体の意義と機関 3. 条例制定権	1) 団体自治と住民自治 2) 普通地方公共団体・特別地方公共団体 3) 条例の意義・条例制定権の限界
XIV. 憲法保障	1. 最高法規性 2. 憲法改正手続き 3. 違憲審査制	1) 憲法保障制度とは何か 2) 憲法改正の手続き・改正の限界 3) 違憲審査制の法的性格・違憲審査の対象
XV. 試験	1. 到達目標を踏まえた論題 2. 憲法学の基本概念的説明 3. 重要条文の知識	1) 到達目標を踏まえた論述式問題 2) 憲法学の基本概念的いくつかを説明する問題 3) 日本国憲法の重要条文の文言を問う問題

成績評価の方法：
試験の成績で評価する。

教科書

抱喜久雄・野畑健太郎編 『憲法学事始—はじめて学ぶ人のために—』 一学舎 2009

参考図書

必要に応じて講義の中で紹介する。

<講義スケジュール>

1	2014. 4.12	土	9:00~10:25	東 裕	憲法総論
2	4.12	土	10:35~12:00	東 裕	人権総論
3	4.26	土	9:00~10:25	東 裕	憲法の基本原理
4	4.26	土	10:35~12:00	東 裕	国の統治機構
5	5.10	土	9:00~10:25	東 裕	平等権
6	5.10	土	10:35~12:00	東 裕	自由権
7	5.24	土	9:00~10:25	東 裕	参政権と請求権
8	5.24	土	10:35~12:00	東 裕	社会権
9	5.31	土	9:00~10:25	東 裕	国会
10	5.31	土	10:35~12:00	東 裕	内閣
11	6. 7	土	9:00~10:25	東 裕	裁判所
12	6. 7	土	10:35~12:00	東 裕	財政
13	7. 5	土	9:00~10:25	東 裕	地方自治
14	7. 5	土	10:35~12:00	東 裕	憲法保障
15	7.19	土	9:00~10:25	東 裕	試験

授業担当教員一覧

看護学部第2学年授業担当教員

[専任教員]

人文社会科学系
心理学
社会学
英語
基礎科学系
生理学
生化学
臨床医学系
内科学
外科学
看護学系
成人看護学

准教授 松寄 英士
准教授 諏訪 茂樹
教授 木村 みどり
准教授 神山 暢夫
准教授 伊東 栄子
教授 荒井 純子
准教授 尾崎 恭子
教授 飯岡由紀子
准教授 金子真理子
准教授 近藤 暁子
准教授 原 三紀子
講師 原 美鈴
助教 三浦美奈子
助教 小林 礼実
助教 鈴木香緒理
助教 峯川美弥子
助教 那須実千代
教授 佐藤 紀子
准教授 吉田 澄恵
教授 水野 敏子
講師 坂井 志麻
助教 原沢のぞみ
助教 成澤 明
助教 渡邊 賢治
教授 田中美恵子
講師 濱田 由紀
講師 小山 達也
助教 異儀田はづき
助教 飯塚あつ子
教授 日沼 千尋
准教授 関森みゆき
講師 奥野 順子
講師 青木 雅子
助教 櫻田 章子
教授 小川久貴子
講師 宮内 清子
助教 鈴木小弥香
講師 見城 道子
助教 天野 陽子
講師 草柳かほる
助教 山内 英樹

看護職生涯発達学

老年看護学

精神看護学

小児看護学

母性看護学

基礎看護学

認定看護師教育センター

[兼任教員]

リハビリテーション
生体防御機構
感染看護

教授 猪飼 哲夫
講師 上久保 毅
講師 角田 明子
講師 待井 典子
講師 岩本 卓水
助教 百瀬 由佳
教授 八木 淳二
准教授 今西 健一
講師 塚原 高広
講師 春田 郁子
准講師 加藤 秀人
助教 ミヤケ 深雪
講師 柳沢 直子
特任助教 芦野 滋
講師 大友 陽子

薬理学

病態学・各論 I

病態学・各論 II

病態学・各論 III

病態学・各論 IV

[兼任教員]

医療における倫理学
論理学
生体防御機構
人間生活と経済
社会福祉学
病態学・各論 II
病態学・各論 II
病態学・各論 III
英語 I - 2
フランス語 I
ドイツ語 II
保健医療統計学
教育学概論、教職入門
教育課程論
日本国憲法

教授 丸 義朗
准教授 志賀 剛
准教授 平塚(中村)佐千枝
講師 塚原富士子
講師 木村 利美
助教 富田 毅
助教 出口 敦子
助教 家口 勝昭
助教 瀧田 守親
教授 秋葉 隆
教授 谷口 敦夫
准教授 飯嶋 睦
准教授 石黒 直子
准教授 岩崎 直子
准教授 清水 優子
准教授 中島亜矢子
講師 中神 朋子
講師 尾形真規子
講師 南家 由紀
講師 三浦順之助
講師 柳澤 慶香
准講師 吉永健太郎
教授 須納瀬 弘
准教授 高村 悦子
准教授 前 昌宏
准教授 瀬下 明良
准教授 村田 泰章
准講師 坂本 明子
准講師 津久井宏行
准講師 廣澤知一郎
講師 堀内喜代美
助教 小内友紀子
教授 永田 智
教授 楠田 聡
准教授 世川 修
准教授 舟塚 真
講師 伊藤 康
准講師 今井 薫
准講師 近本 裕子
助教 清水美妃子
教授 松井 英雄
教授 高木耕一郎
教授 牧野 康男
准教授 小川 正樹
准教授 橋本 和法
講師 高木 俊一
講師 村岡 光恵
講師 東館 紀子
准講師 石谷 健
助教 木原 真紀
助教 秋澤 叔香

丸 義朗
志賀 剛
平塚(中村)佐千枝
塚原富士子
木村 利美
富田 毅
出口 敦子
家口 勝昭
瀧田 守親
秋葉 隆
谷口 敦夫
飯嶋 睦
石黒 直子
岩崎 直子
清水 優子
中島亜矢子
中神 朋子
尾形真規子
南家 由紀
三浦順之助
柳澤 慶香
吉永健太郎
須納瀬 弘
高村 悦子
前 昌宏
瀬下 明良
村田 泰章
坂本 明子
津久井宏行
廣澤知一郎
堀内喜代美
小内友紀子
永田 智
楠田 聡
世川 修
舟塚 真
伊藤 康
今井 薫
近本 裕子
清水美妃子
松井 英雄
高木耕一郎
牧野 康男
小川 正樹
橋本 和法
高木 俊一
村岡 光恵
東館 紀子
石谷 健
木原 真紀
秋澤 叔香

(臨床教授)

(臨床教授)

(臨床教授)

講師 鶴若 麻理
講師 古田 知章
講師 今西 健一
講師 栗沢 尚志
講師 柳田 正明
講師 落合 卓
講師 吉形 玲美
講師 清谷知賀子
講師 設楽 靖子
講師 櫻井 拓也
講師 小出石敦子
講師 伊藤 満広
講師 東垣内徹生
講師 益井 明子
講師 角田 雅昭
講師 東 裕

[医学部・看護学部協働教育 担当教員]

遺伝子医療センター	教授	齋藤加代子
法医学	教授	木林 和彦
解剖学	教授	藤枝 弘樹
解剖学・発生生物学	教授	江崎 太一
第一病理学	教授	柴田 亮行
第二病理学	教授	小田 秀明
化学	教授	岡田みどり